2019年度

SYLLABUS

社会福祉学科
授業計画

美作大学（みまさか）
〒708-8511　岡山県津山市北園町 50
電話(0868)22−7718(代表)
FAX(0868)23−6936

2019年度　シラバス　社会福祉学科　美作大学

２０１９年４月１日　印刷
２０１９年４月１日　発行
編集者・発行者　美作大学　教務課
印刷所　株式会社　廣陽本社

学科等	科	クラス
氏名		

社会福祉学科 1年

１．教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格	備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉		
導入科目	１年次セミナー	演習	2		○						7
共通教養科目	人権教育	講義		2	○						8
	日本国憲法	講義		2	○				◎		9
	調査と統計	講義		2		○					
	心理学概論	講義	2		○						10
	日本語リテラシー	講義		2	○						11
SDGs関連科目	現代生活論	講義		2	○						12
	国際社会と日本	講義		2	○						13
	地球環境論	講義		2	○						14
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1	○						15
	ボランティア論（教育系）	講義		1	未開講						
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○	○	○			16
	インターンシップ実習	実習		1	○	○	○	○			17
	ボランティア実習	実習		1	○	○	○	○			18
情報リテラシー科目	情報リテラシーⅠ	演習		2	○					この３科目の中から、２科目４単位以上選択必修	19
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				◎		20
	情報リテラシーⅢ	演習		2				○			
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○						21・22・23
	英語Ⅱ	演習	1		○						24・25・26
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎	この１０科目の中から、２科目２単位以上選択必修	
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎		
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1	○						29
	ドイツ語Ⅱ	演習		1	○						30
	韓国語Ⅰ	演習		1	○						31
	韓国語Ⅱ	演習		1	○						32
	中国語Ⅰ	演習		1	○						33
	中国語Ⅱ	演習		1	○						34
健康スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2	○					この４科目の中から、２科目２単位以上選択必修	35
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○						36
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎		37
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎		38
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	－		－	○	○	○	○		通算して４単位まで卒業要件に含めることができる	39
	放送大学科目Ⅱ	－		－	○	○	○	○			39
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	－		－	○	○	○	○			40
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	－		－	○	○	○	○			40
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2	○						41
	住まいと福祉	講義		2		○					
	福祉情報コミュニケーション	演習		2		○					
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○						42
	数学の基礎	講義		2		○					

【卒業要件】必修科目６単位、選択必修科目８単位以上を含めた計３０単位以上を修得のこと。

【備考１】教員免許欄の◎印科目＝必修科目。

２．専門教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
専門基幹科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2			○			◎	◎		
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○			◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		43
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○				▲	◎		44
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2				○		▲	◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		45
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○				▲	◎		46
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2			○			◎	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2		○			▲	◎	必修科目10単位を含め24単位以上を修得のこと	
	介護概論	講義		2	○				◎			47
	加齢の理解	講義		2		○			◎			
	障害の理解	講義		2		○			◎			
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2				○				
	NPO・ボランティア活動論	講義		2		○						
	安全・安心のまちづくり	講義		2			○					
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2		○						
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2		○						
	地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2				○				
専門展開科目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○				◎	◎		48
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2			○		▲	◎		
	社会福祉事業史	講義		2			○					
	社会保障Ⅰ	講義		2		○			◎	◎		
	社会保障Ⅱ	講義		2		○			◎	◎		
	福祉行財政と福祉計画	講義		2				○	◎	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		49
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○				◎	◎		50
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4		○			▲	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4			○		▲	◎		
	社会調査の基礎	講義		2			○		▲	◎		
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○							51
	福祉サービスの組織と経営	講義		2			○		▲	◎		
	権利擁護と成年後見制度	講義		2			○			◎		
	就労支援サービス	講義		1			○		▲	◎		
	更生保護制度	講義		1			○			◎		
	相談援助演習Ⅰ	演習		1		○			◎	◎		
	相談援助演習Ⅱ	演習		1			○		◎	◎		
	相談援助演習Ⅲ	演習		1			○		◎	◎		
	相談援助演習Ⅳ	演習		1				○	◎	◎	必修科目4単位を含め40単位以上を修得のこと	
	相談援助演習Ⅴ	演習		1				○	◎	◎		
	社会福祉体験実習指導	演習		1			○					
	社会福祉体験実習	実習		1			○					
	相談援助実習指導	演習		3				○	◎	◎		
	相談援助実習	実習		4				○	◎	◎		
	介護実習	実習		1			○		◎			
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2		○				◎		
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2		○			◎			
	リハビリテーション論	講義		2		○			▲			
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○					◎		52
	社会理論と社会システム	講義		2		○				◎		
	医療ソーシャルワーク論	講義		2			○					
	保健医療サービス	講義		2			○			◎		
	精神保健	講義		2			○					
	家庭支援論	講義		2			○					
	福祉情報論及び同演習	演習		2		○			▲			
	ウェブリテラシー演習	演習		2	未開講							
	福祉のまちづくり基礎演習	演習		2			○					
	福祉のまちづくり論	講義		2				○				

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
その他の専門科目	衣生活論	講義		2	未開講							
	食生活論	講義		2	未開講							
	家庭経営学概論	講義		2	未開講						含　家庭経済学	
	保育及び家庭看護学	講義		2	未開講						含　保育実習	
	教育心理学	講義		1		○			◎			
	特別支援教育の理解	講義		1		○			◎			
	福祉デザイン(衣)論	講義		2		○						
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2		○						
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2			○					
	パソコン基礎演習	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅰ	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅱ	演習		2	未開講							
	パソコン実践演習	演習		2			○					
	簿記会計学	講義		2			○					
卒業研究系	特別演習Ⅰ	演習	2				○					
	特別演習Ⅱ	演習		2				○				
	特別演習Ⅲ	演習	1					○				
	卒業研究	演習		4				○				

【卒業要件】専門基幹科目24単位以上（必修科目10単位含む）、専門展開科目40単位以上（必修科目4単位含む）、卒業研究系3単位以上（必修科目3単位を含む）及びその他の専門科目を含め、94単位以上修得すること。

【備考】教員免許欄及び福祉士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

３．教職に関する科目

授業科目	授業形態	単位数	配当学年				備考	頁
			1年	2年	3年	4年		
教職論	講義	2		○				
教育原理	講義	2		○				
教育経営論	講義	2			○			
教育課程論	講義	2			○			
福祉科教育法	演習	4			○			
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	講義	2			○			
教育方法・技術論	講義	2				○		
生徒・進路指導論	講義	2				○		
教育相談	講義	2				○		
教職実践演習（高）	演習	2				○		
事前事後指導	実習	1				○		
教育実習	実習	2				○		

【備考】教員免許取得希望者は、この欄の全科目を修得すること。

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
１年次セミナー	2	長谷川　桐生　小山　菅原　田中	社会福祉学科　1年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
社会福祉士として社会に貢献できるよう、地域社会の暮らしに対する強い関心や問題意識、目的意識、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養に努めること。

【授業の目標】
学生生活への円滑な適応ならびに大学における学修の仕方を学び、福祉専門職として必要な基礎学力の形成と充実を目指す。

【授業の到達目標】
本学が示す、教育目標と教育内容を理解し、それらと関連付けて在学期間全体を通して主体的に学べるよう、1年次において「大学での学び」に関わる基礎的知識や技術などが実践できるようになる。

【授業の内容及び方法】全学科合同で行う合同セミナー（6回）と、10人程度のグループによる個別セミナーゼミ形式の授業）からなる。それぞれの担当教員につき、学生の日常生活における心身の健康と安全への備えや、「読むこと」「書くこと」「発表すること」「議論すること」の力の養成、福祉専門職として必要な基礎学力の向上について学ぶ。場合によっては学外での授業もある。

履修上の注意・要望等

授業回数は、グループによって異なるため担当教員に確認すること。

授　業　計　画

1．ガイダンス　自己紹介
2．学科合同企画　打ち合わせ
3．学科合同企画　実施
4．図書館ガイダンス
5　大学生としてのマナー
6．大学の授業の受け方
7．校外授業
8．アクティブ・ラーニング
9．美作大学の歴史
10．学科合同企画　歴史クイズ
11．資料を読む
12．長島愛生園視察見学事前学習
13．長島愛生園視察見学
14．レポートの書き方
15．レポートの作成
16．合同セミナー　食生活、自分の身を守る
17．合同セミナー　悪徳商法への対処
18．ガイダンス
19．文章を読む、まとめる
20．輪読　アウトラインとレジュメの作成
21．輪読　プレゼンテーション素材を作る
22．合同セミナー　特別講演
23．学科合同セミナー
24．輪読　グループA打合せ、レポート作成
25．輪読　グループA発表
26．輪読　グループB打合せ、レポート作成
27．輪読　グループB発表
28．輪読　グループC打合せ、レポート作成
29．輪読　グループC発表
30．まとめ

課題及び授業時間外の学習内容

(2) 各グループで企画内容を十分話し合っておく。

(12-15) レポート作成にむけて各自資料や文献を探して読み、締切までにレポートが提出できるようにすること。

(20-21) 素材作成を期日までに仕上げて提出すること。

(24-29) 発表担当部分を熟読し、発表出来るようにレジュメとパワーポイントの準備をすること。

授業外の学修（予習・復習等）について

担当教員から指示された予習・復習の課題については積極的に取り組むこと。学修時間はおおむね15時間とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　）	

評価方法	一年次セミナーは、他の科目と異なり、認定単位の科目である。セミナー内で課される課題をこなし、かつ、必要な出席時間数が足りている場合に限り、所定の単位が認められる。
教　　材	一年次セミナー　ー学びのためにー（美作大学・美作大学短期大学部）
キーワード	大学生としてのマナー　大学での学び　キャリアデザイン　タイムマネジメント

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
人権教育	2	笹倉千佳弘	社会福祉学科 1年	前期集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】
本授業の目的は、教育と人権に関する基本的な事項を学んだ後、具体的な場面の検討をとおして人権の理解を深めることである。

【授業の到達目標】
普段の生活で人権をめぐる諸課題について敏感になり、自分の考えに基づいた行動がとれるようになる。

【授業の内容及び方法】
人権と教育に関する基本的な事項を概説した後、具体的な場面をとりあげて検討を加える。講義を主とするが、レジュメやテキストへの書き込み、グループワーク等、できる限り参加型の授業を目指す。

履修上の注意・要望等

授業中の発言やグループワーク等に積極的な態度で臨むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1.開講にあたって 2.子どもとおとなのかかわり①　教育と影響の違い 3.子どもとおとなのかかわり②　教育の強制性 4.子どもの育つ場①　労働力の配分機能 5.子どもの育つ場②　学歴社会 6.女性の人権について考える①　性別役割分業意識 7.女性の人権について考える②　男女平等からジェンダーフリーへ 8.中間のまとめ 9.子どもの人権について考える①　子どもイメージ 10.子どもの人権について考える②　「小さなおとな」から「子ども」へ 11.子どもの人権について考える③　「子ども－おとな」関係から見た子どもの人権 12.子どもは誰の下で育つべきか①　実親の下で育つ子ども 13.子どもは誰の下で育つべきか②　社会的養護の下で育つ子ども 14.子どもは誰の下で育つべきか③　親の第一次的養育責任 15.閉講にあたって	

授業外の学修（予習・復習等）について

自分の被教育体験につなげながら復習すること。概ね30時間の自主学修が必要。

アクティブラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　）	

評価方法	授業態度10%、レポート・小テスト90%で評価する。
教　　材	教科書：『育つ・育てる・育ちあう－子どもとおとなの関係を問い直す』（井上寿美・笹倉千佳弘、明石書店） 参考書：『子どもを育てない親、親が育てない子ども－妊婦健診を受けなかった母親と子どもへの支援』（井上寿美・笹倉千佳弘、生活書院）、『虐待ゼロのまちの地域養護活動－施設で暮らす子どもの「子育ての社会化」と旧沢内村』（井上寿美・笹倉千佳弘、生活書院）
キーワード	人権　教育　学校　子ども　女性　社会的養護

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
日本国憲法	2	俣野英二	社会福祉学科1年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人権尊重の価値と倫理に基づく社会福祉の援助観を理解し、福祉ニーズを有する人の立場に立ち、その想いや暮らしに寄り添いながら援助を組み立て、実践できること。

【授業の目標】
本科目では、異なる価値観、文化、背景及び相互関係を知り、深い認識を持つこと、高い倫理観と責任感を以て他者と協力して仕事を進める意欲・態度を養い、また、体系的な思考方法を学ぶ。さらに、多面的に分析し、自らの見解を形成する能力を身に着けることを目標とする。

【授業の到達目標】
憲法の基本原理を理解し、その原理及び情報を活用して、主体的に身近な憲法問題を考えることができる。

【授業の内容及び方法】
授業は、教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえた身近な問題を素材に、学生各自に体系的理解及び憲法的な分析方法を示し指導する。随時、重要な論点を取り上げ、学生にグループの話し合い及び発表をさせて、憲法的思考の習得及び見解の対立の理解の深化を目指す。

履修上の注意・要望等

履修者は、必ず予習してテキスト及び講義資料内の用語の意味を調べておくこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
(1)ガイダンス、憲法の目的とは―憲法の学び方と主体的に憲法で考えること (2)個人の尊重と基本的人権―人権の保障と守り方 (3)国民主権と参政権―人権の調整を自分たちで決める (4)教育と国会・内閣・裁判所の関係―学校教育制度における各国家機関の役割と限界 (5)前半のまとめと第1回小テスト―憲法の目的と統治機構 (6)国籍を超えて―在留外国人の人権保障 (7)人格を持つ子どもたちと学校１―子どもの人権といじめ (8)人格を持つ子どもたちと学校２―学校裁量の憲法的統制 (9)法の下の平等と家族・個人―個性と平等 (10)人間らしく生きる権利―貧困の連鎖と生存権 (11)働く者の尊厳―労働者の人権 (12)犯罪・刑罰と人権―適正手続きと少年 (13)教育権と職業選択の自由―人権の複合的性格 (14)後半のまとめと第2回小テスト―人権の保障と公益との調整の在り方 (15)身近な政治と私たち―地方自治と平和主義	(1)～(4)、(6)～(13)、(15)回は、必ず予習（テキストを読むこと及びテキストと事前に配布した講義資料中の用語の意味を調べておく）及び復習（返却されたワークシートを見返して、不十分な点や誤解があった点を修正・整理する）をする。 (5)及び(14)回は、必ず小テストのための総復習及び小テストの講評を受けて、自らのテストの直し、理解が不十分であったところを整理し直すこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

予習（テキストを読むこと及びテキストと事前に配布した講義資料中の用語の意味を調べておく）及び復習（ワークシートを見直し、修正・整理する）をすること。必ず小テストのための総復習し、小テスト終了後は自らのテストの直し、理解が不十分であったところを整理し直すこと。これらの学修に要する時間は、概ね32時間必要である。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　）	

評価方法	期末試験50%、小テスト2回30%、授業ごとに提出するワークシート20%。 課題図書のレポート（任意）は、20%の範囲内で上記素点に加算する。
教　　材	教科書：現代憲法教育研究会編『憲法とそれぞれの人権　第3版』（法律文化社、2017年） 参考書：配布資料、西原博史、斎藤一久『教職課程のための憲法入門』（弘文堂、2016年）、橋本勇人編『保育と日本国憲法　学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現代社会』（みらい、2018年)
キーワード	憲法、人権、統治

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
心理学概論	2	妻藤真彦(135)	社会福祉学科１年生	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
個人や家族，地域社会の様々な問題に関心と問題意識を持ち，また人格の形成と教養を身につけることの１つの側面として，心理学一般の基礎的内容習得が目標。基礎知識の習得と，様々な人間関係に一部でも応用できることを目指す

【授業の到達目標】
社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）に関連する心理学面の基礎知識を説明できるようになること

【授業の内容及び方法】
心理学系専門科目の関連書籍・文献を読むのに必要な用語や理論的概念を解説する。応用のために具体例での説明も行う。ただし性格その他の研究分野は後期の心理学理論と心理的支援で扱う（ただし発達は以下の各テーマの中で各々触れる場合がある）。授業方法は、講義を主とするが，小テストによる理解度確認なども行う。

履修上の注意・要望等

大学の講義に慣れるという意図もあって、黒板を写すだけでなく、話を聞きながら適宜要約しつつ、ノートを取る練習もして欲しい。単元が数回に渡るときは，各回の復習をしておかないと，次回の内容が理解しにくくなる。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．心理学とは［心理学の研究分野と研究の例（コミュニケーション，対人空間など）］ ２．感情１［感情の発達と基礎理論，原因帰属，複合感情、日常的事例（恋愛，痛み，罪悪感など）］ ３．感情２［情動の発生と維持（情動が強く維持される条件，失恋後の感情，家族の感情と家族心理療法）］ ４．感情３［情動の強化と２者関係（恋愛と夫婦間の感情の違い，家族同士が持つ感情と家族心理療法） ５．感情４［情動とストレスの理論］ ６．感情５［ストレスへの対処］ ７．原因帰属１［学習性無気力など］ ８．原因帰属２［楽観的・悲観的原因帰属（学力，人間関係などへの影響）］ ９．原因帰属３［自尊心，自己愛と帰属スタイル］ 10. 感覚・知覚［感覚様相・形や色と空間など］ 11. 認知の歪み１［不適応を導く認知の歪みと認知・行動療法：過度の一般化・２分割思考など］ 12. 認知の歪み２［続き：べきである思考・情緒的理由づけなど］ 13. 言語と思考［発達・言語の構造・問題解決など］ 14. 思考と信念１［信じ込みを引き起こす要因：ランダム性の認知・代表性など］ 15. 思考と信念２［続き：少ない事実からの推論など］	数回ごとに小テストと回答の解説。 数回ごとにTEDなどの視聴・検索の指示

授業外の学修（予習・復習等）について

日々の予習・復習、試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。単元が数回に渡るときは，各回の復習をしておかないと，次回の内容が理解しにくくなる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（TEDの視聴と関連トークの検索　）	○

評価方法	定期試験（90%）と受講態度（10%）
教　　材	板書と配布資料。 また〈参考図書〉は，新・社会福祉士養成講座（２）心理学理論と心理的支援　社会福祉士養成講座編集委員会偏，中央法規出版
キーワード	心理学基礎，感情，知覚・認知，言語・思考，信念，ストレス，無気力感，不適応

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
日本語リテラシー	2	岸　道康	社会福祉学科１年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
この授業では、実用的な文章の書き方の基本を正しく理解し、的確に使っていく能力を培う。これによってレポートや報告書、論文、プレゼンテーション用の文章を書いたり、人前で発表したりする「伝える力」を高め、社会人になっても通用する自己表現力を身に付けることを目標とする。

【授業の到達目標】
講義と演習によって、テーマや種類に沿った日本語の活用方法を習得する。特にミニレポートや小論文など実際に書くことに力を入れ、「分かりやすく、面白く、そして深い文章」が書けるようにする。

【授業の内容及び方法】
文章を書くには事前の準備が大切になる。「段取り８割」とも言われる。新聞記者だった経験を生かし、具体的な材料集めや構成の仕方などを演習形式で伝える。また、山陽新聞社の記者をゲストティーチャーとして招聘し、取材や編集現場での創意工夫を紹介する。

履修上の注意・要望等

授業中に書く文章作品や宿題を評価対象にするので、未提出がないようにする。

授　業　計　画		課題及び授業時間外の学習内容
(1)ガイダンス	文章表現の意義や基礎、表記のルール	
(2)自己紹介	材料集め、文章の組み立て	
(3)好きな食べ物	題材と構成、着想力	
(4)新聞記事から学ぶ①	不特定多数の読者に対する工夫と知恵、新聞活用術	
(5)新聞記事から学ぶ②	簡潔で分かりやすい文章、逆三角形の文章、見出し	
(6)新聞記事から学ぶ③	「書き出し５行、止め３行」の重要性	
(7)推敲	文章の整え方、誤字・誤用の修正	
(8)要約文	要点のまとめ方	
(9)報告書	出来事の報告書を作成	
(10)公文書	書式・形式、書き方	
(11)意見文	新聞記事を利用して、意見文を作成	
(12)手紙	伝統的な手紙の形式	
(13)依頼文、礼状	手紙やメールでの書き方	
(14)自己ＰＲ文	就職活動などで提出する印象に残る文章の書き方	
(15)座右の銘	自分を支える座右の銘を作る	

授業外の学修（予習・復習等）について

日頃から新聞や書物、雑誌などに触れ、活字に親しむ習慣をつける。復習は添削したプリントの確認や、授業でのノートの整理をする。概ね30時間程度の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	期末試験（40%）、提出作品（40%）、受講態度・意欲（20%）で評価する。
教　　材	教科書：「書き込み式　日本語リテラシー」横川知之著（大学教育出版）、配布資料
キーワード	文章力、伝える力、新聞活用術

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
現代生活論	2	岸　道康	社会福祉学科１年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの知見を養うこと。

【授業の目標】
副題は「持続可能な地域社会を目指して」。都市と地方の格差拡大や過疎化など深刻さが増す難題にほぼ共通するテーマとして、持続可能性が挙げられる。食や子ども、福祉を中心に「地方が持続していける未来」をどうすれば築けるのか、を考察する。

【授業の到達目標】
地域課題の解決に向け、さまざまな難題の実情を学び、問題意識を持って主体的に判断、行動できる力を身に付ける。
概念的な理論ではなく、具体的で説得力のある対応策を考え、他者に伝えていくことができるようにする。

【授業の内容及び方法】
新聞記者の経験を踏まえ、ニュース報道や経験談も交え講義する。さまざまな課題について毎回、４人程度のグループで議論し、その結果をグループごとに発表し合い、見方や考え方の幅を広げていく。また、津山市の郷土史研究家をゲストティーチャーとして招聘し、災害の歴史から学ぶ教訓を考える。

履修上の注意・要望等

それぞれの出身地が抱える多様な課題を意識し、自分なら何ができるかを普段から考えてもらいたい。

授　業　計　画		課題及び授業時間外の学習内容
(１)オリエンテーション	「地方消滅論」の衝撃と妥当性について考察する。	
(２)買い物弱者対策	各地の取り組みと課題を検証する。	
(３)里山資本主義	地域内循環型の経済を模索する真庭市の挑戦を分析。	
(４)再生可能エネルギー	太陽光、風力発電などの動向と可能性について考える	
(５)災害の教訓	災害の歴史をたどりながら対応策を学ぶ。	
(６)子ども食堂	子どもの貧困問題について考察する。	
(７)女性活躍社会	世界的に遅れている女性の社会進出の壁を概説する。	
(８)スモール・ビジネス	身の丈に合った小商いで地域経済を支える手法を分析。	
(９)地方議員のなり手不足	過疎化、人口減で進む地方議会の弱体化について考察。	
(10)東京圏一極集中	都会の幸せと地方の幸せについて考える。	
(11)就職活動	地方を支える若者の就活動向の変化について概説する。	
(12)外部講師による集中講義（１）＜予定＞		
(13)外部講師による集中講義（１）＜予定＞		
(14)外部講師による集中講義（２）＜予定＞		
(15)外部講師による集中講義（２）＜予定＞		

授業外の学修（予習・復習等）について

新聞やテレビ、ネット、書物などを通じ、日ごろからテーマに関係がありそうな情報に接すること。キーワードについても自ら調べるなど、自主学修については概ね30時間程度が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　）	

評価方法	期末試験（80%）、受講態度・意欲（20%）で評価する。
教　　材	各講義ごとにテーマに沿った新聞やネットの資料を配布する。参考文献は「未来の年表　人口減少日本でこれから起きること」（河合雅司著、講談社現代新書）など。
キーワード	里山資本主義、スモールビジネス、買い物弱者、限界集落、再生可能エネルギー、子ども食堂

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
国際社会と日本	2	岸　道康	社会福祉学科１年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの知見を養うこと。

【授業の目標】
副題は「ニュースから読み解く現代社会」。新聞、テレビ、ネットなど多様なメディアから発信されるニュースを通じて広く社会の動きを知り、常に疑問を持って諸問題に対する考えを深める。長年、新聞記者として報道の現場に身を置いてきた経験をもとに、社会、経済、福祉、教育、文化などさまざまニュースを題材にして日本、世界の動向を読み解いていく。

【授業の到達目標】
突発的な出来事や重大ニュースもタイムリーに取り上げながら、表面的な動きだけではなく、歴史的な意味や多角的な見方を学び、主体的に社会のあるべき姿を考え、自分の言葉で発言することができる。これによって、幅広い角度から冷静に情勢判断し、他者に伝える能力を身に付ける。

【授業の内容及び方法】
さまざまな問題を受講生と一緒になって考えていく。具体的には毎回、４人程度のグループで議論し、その結果をグループごとに発表し合い、互いの参考にしていく。また、津山市内の税理士をゲストティーチャーとして招聘し、ふるさと納税の成果と課題を検証する。

履修上の注意・要望等

多様な時事問題を取り上げるので、普段から社会の動きに関心をもってほしい。

授　業　計　画		課題及び授業時間外の学習内容
(1)メディアの特徴	新聞、テレビ、ネットなどの長所と短所を話し合う。	
(2) 憲法改正	憲法の何が、どう問われているのかを学ぶ。	
(3)天皇制の未来	男系男子、女系女子天皇、宮家創設について探る	
(4)人口減少	地方で進む過疎化と東京圏一極集中の問題点を考察する。	
(5)消費税増税	社会保障費をどう賄うのか。その議論について概説する。	
(6)人手不足	各分野での外国人労働者受け入れの課題を概説する。	
(7)格差問題	子どもの貧困、正規と非正規社員の格差について考える。	
(8)米軍普天間基地	沖縄の米軍基地問題を軸に日米安保体制の今後を探る。	
(9)北朝鮮の核	米朝核交渉の歴史と展望を概説する。	
(10)核なき世界	矛盾に満ちた世界の核兵器の現状を探る。	
(11)ふるさと納税	導入された背景と功罪について考察する。	
(12)65歳は高齢者か	高齢者の働き方、若者に及ぼす影響について考える。	
(13)自給率	食糧、エネルギーの自給率を通して日本の現状を学ぶ。	
(14)パレスチナ問題	世界の宗教対立の現実について考察する。	
(15)グローバル化	英国のＥＵ離脱、トランプ政権の対応から今後を占う。	

授業外の学修（予習・復習等）について

日ごろから新聞やテレビなどのニュースに接し、社会の動きを知る習慣をつける。復習は配布資料や授業でのノートを整理する。参考文献にも目を通すなど、自主学修については概ね30時間程度が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	期末試験（80%）､受講態度・意欲（20%）で評価する。
教　　材	教材：各講義でテーマに沿った新聞やネットの資料を配布する。参考文献は「池上彰の新聞勉強術」（文春文庫）など随時紹介する。
キーワード	外国人労働者、ふるさと納税、食糧自給率、核なき世界、憲法改正、天皇制

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
地球環境論	2	下池　洋一（225-2）	社会福祉学科１年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
　個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
　20世紀に入り、人類は輝かしい技術進歩、経済発展に成功し、豊かな物質文明を実現した一方、資源の枯渇、および環境破壊を引き起こしている。この授業では、地球環境の現状を科学的視点から把握することを目標とする。

【授業の到達目標】
　地球環境諸問題の科学的メカニズムを理解し、一般市民に対して分かりわすく説明できる。問題を解決し、持続可能な社会を目指すには、国際協力と個人、地域社会での行動が必要であることが理解できる。

【授業の内容及び方法】
　はじめに地球の誕生と生命の起源について概説し、後半でわれわれが現在直面している地球環境諸問題の発生原因、メカニズム、対策について項目ごとに具体的に解説する。

履修上の注意・要望等

　高校の理科（基礎）の知識があると理解しやすい。分かりやすく説明するが、不明な点は積極的に質問すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（１）地球環境総論 ：　地球環境問題の概略 （２）地球環境の歴史 ：地球の誕生と生命の進化 （３）大気の汚染　：汚染物質の発生源と対策、PM2.5の越境汚染 （４）地球温暖化① ：温室効果ガスと温暖化メカニズム （５）地球温暖化② ：温暖化対策と将来の予測、京都議定書からパリ協定へ （６）酸性雨 ：酸性雨の発生機構、被害状況と対策 （７）オゾン層の破壊① ：オゾンホールの発見とその発生メカニズム （８）オゾン層の破壊② ：オゾン層保護と対策 （９）水質汚染 ：汚染要因と対策、赤潮と富栄養化 (10) 土壌汚染 ：汚染要因と対策、最近の発生事例 (11) 廃棄物とリサイクル ：廃棄物の定義と処理方法、リサイクルの種類 (12) 有害化学物質による汚染 ：有害化学物質の特徴と汚染の現状 (13) エネルギー資源と環境問題① ：世界のエネルギー消費の現状、国、地域の特徴 (14) エネルギー資源と環境問題② ：再生可能エネルギーの利点と問題点 (15) 環境保全に向けた活動 ：リスク評価と環境教育	(1)-(15)　毎回、関連問題を提示するので、各自まとめること。 冬季休業前に提出課題の指示を出す。

授業外の学修（予習・復習等）について

　特に予習の必要はないが、新聞、ニュース等の時事問題には注目しておくこと。毎回、授業に関連した問題を出すので、復習を中心におおむね30時間の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　）	

評価方法	期末試験８０％、提出課題２０％で評価する。
教　　材	教科書　 ：なし 参考文献：環境科学入門（化学同人）、私たちと環境（東京教学社）
キーワード	地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、再生可能エネルギー、リサイクル、リスク管理、持続可能な社会

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
キャリアデザイン論	1	黒瀬　大亮	社会福祉学科１年	前期集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
変化することだけが変わらない事実という社会において、前例や既存の事例、事象や構造を、思考なくたどるのではなく、多角的で深い思考と判断による行動表現によって、自分の人生を創造していくことの理解と、意欲を持つ。

【授業の到達目標】
自らの人生は自らの行動によって構想・設計することができる、ということを理解する。
自らの人生を自ら創造するためのコミュニケーション能力や思考力、表現力、情報収集する力を獲得する。

【授業の内容及び方法】
講義による知識・技能の獲得。
対話による多様な考え、異なる価値観を認識したうえでの学び。
協働することによる知識・技能の獲得と、その活用による学びの深化。

履修上の注意・要望等

「キャリアデザイン」の言葉の意味を理解して受講のこと。
テキストを理解して講義に臨む必要はありませんが、必ず持参のこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（1）課題テストによる知識の確認。協働ワークによる課題内容の再確認。 （2）協働ワークによるテキストの理解の深化。 （3）協働ワークによる今後のキャリア形成の構想。 （4）レポート作成によるキャリアデザインへの課題や内容の探求、深化を図る。 （5）課題提出　および　課題テスト（ペーパー及び発表） （6）外部講師による講話　他者の人生観・職業観を知る。 （7）外部講師との対話　　自らの人生観・職業観を考える。 （8）レポート作成。まとめ試験。	（1）課題テストへむけて教材①を理解しておく。 （1）～（4）を終えたのち、課題２種を課す。 （5）最初に提出。

授業外の学修（予習・復習等）について

概ね15時間程度の自主学習が必要。
最初の授業開始まえの予習として教材①のテキストの理解は最低限必要とする。
復習としては課題を課すため、その課題を行い、授業（５）の最初に提出することを最低限のこととする。
また教材②のテキストについては少なくとも授業（５）までには熟読しておくことを勧める。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート50％　課題テスト20％　提出課題20％　講義中の姿勢10％
教　　材	①　キャリアデザイン入門［Ⅰ］基礎力編第2版　（日経文庫）　　大久保幸夫著 ②　10年後の仕事図鑑　　SBクリエイティブ　　堀江貴文・落合陽一著
キーワード	キャリアデザイン　ワーク　ライフ　情報　思考　表現　行動　課題解決　協働　対話　主体

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
ボランティア論（福祉系）	1	松尾　彰	全学科	前期集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業は、ボランティアの性格や意義、活動における視点等について理解を深め、自分に出来るボランティア活動を考え、見つけるきっかけとなることを目標とする。

【授業の到達目標】
学生は、ボランティアの性格である自主性、社会性、無償性の意味を理解し、ボランティア活動における重要な視点「お互い様」について考えることができる。また、自分なりにボランティア活動に参加・参画する意欲を持つとともに、活動のきっかけを掴むことができる。

【授業の内容及び方法】
ボランティア活動への参加・参画に必要とされる知識や役割を演習、グループワークによる討議で学ぶ。また、この授業では津山市内で活動しているボランティアや認知症キャラバンメイト、NPO法人で仕事している方などをゲストティーチャーとして招聘し、体験談から活動における注意点、視点等について学ぶ。

履修上の注意・要望等

この授業では、演習やグループワークを行う事が多く、意見の発表や討論の機会が多いので、積極的な参加を心がけてもらいたい。またゲストティーチャーによる講義も多く、実際のボランティア経験にたった貴重な内容であるため、遅刻や受講態度に注意してもらいたい。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（1）　ボランティアとは①　ボランティアの性格や意義、役割について	
（2）　ボランティアとは②　実践者に学ぶボランティアの視点について	（2）レポートを作成する
（3）　認知症サポーターとは　認知症の理解とボランティア活動への期待について	（3）グループワークでの検討
（4）　擬似体験から学ぶ　車いす・アイマスク体験による構内点検をとおして、相手の立場を知る。	（4）グループワークでの検討
（5）　ボランティアとは③　実践者に学ぶボランティアからNPO活動への展開について	（5）レポートを作成する
（6）　ボランティアとは④　実践者に学ぶ地域と大学等との連携から生まれた市内の活動について	
（7）　ボランティアとは⑤　グループワークにより「今の自分に何が（ボランティア活動）できるのか」を考える。	（7）グループワークでの検討、グループでの発表
（8）　まとめ　講義をふりかえりながら、もう一度「ボランティアとは？」という問について考える。	（8）グループ・ディスカッションで検討、グループでの発表

授業外の学修（予習・復習等）について

授業前に、ボランティアや大学で行われているボランティア活動、美作大学ボランティアセンターについて調べておくこと。配布された資料を再読しておくこと。以上に示す予習・復習などの自主学修については概ね10時間程度が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート課題（60%）、受講態度（40%）
教　　材	参考図書：学生のためのボランティア論　（大阪ボランティア協会） （編著　岡本　栄一、菅井　直也、妻鹿　ふみ子他） 参考書：各種配布（プリント）資料
キーワード	自主性　社会性　無償性　NPO　共感　自己成長　地域福祉

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
インターンシップ実習	1	武田　英樹(523)	社会福祉学科1～4年	集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業は、社会福祉に係る職場体験から人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力や豊かな人間性の涵養に繋がるように展開する。

【授業の到達目標】
学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。
・社会人としての振る舞いについて説明できる。
・様々な視点から福祉サービスを受けている人たちを取り巻く社会状況や専門職の役割について説明できる。

【授業の内容及び方法】
社会福祉学科の専門性と関連する学外での体験を、大学での単位として認めるものである。

履修上の注意・要望等

単位の認定を希望する者は、必ず事前に窓口教員へ相談をすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
単位認定を受けるための体験の基準 ① 授業目標に合致する内容であること ② 通算して40時間程度の活動を1単位の目安とするが、活動内容に応じて期間の長短は弾力的に扱うことができる。 ③ 継続性のある内容に限り、年度をまたがってもよい。 単位取得までの手順 ① 福祉分野・一般分野それぞれの指導教員に事前の相談と申請書を提出する。 ② 申請によって学科審査を行い、内容的にこの科目に適合すると認められた場合、以降その分野の担当教員を指導教員とし、指導を受ける。 ③ 活動終了時に、活動証明書に活動先の担当者の署名、捺印を受ける。 ④ 活動終了後、活動報告書、まとめのレポート、活動証明書等を揃え、当該年度の1月に指導教員まで提出する。 活動結果に対して学科審査を行い、単位相当と判断された場合、単位が認められる。	・実習施設に関係する専門用語について調べておくこと。 ・毎日の実習体験とそこからの学びについて考察しておくこと。 ・活動報告書、まとめのレポートについてまとめること。

授業外の学修(予習・復習等)について

インターンシップ実習先の事前学習を担当教員の指導のもと行うこと。
日誌・まとめのレポート等について担当教員の指導のもと行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	上記による単位認定
教　　材	必要に応じて指示する
キーワード	インターンシップ実習・社会的活動・体験学習

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
ボランティア実習	1	武田　英樹(523)	社会福祉学科1～4年	集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業は、福祉に関係する学外活動から人格の形成と豊かな教養を身につけることに加え、柔軟な思考力や豊かな人間性の涵養に繋がるように展開する。

【授業の到達目標】
学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。
・社会人としての振る舞いについて説明できる。
・様々な視点から福祉サービスを受けている人たちを取り巻く社会状況について説明できる。

【授業の内容及び方法】
社会福祉学科の専門性と関連する学外での体験を、大学での単位として認めるものである。

履修上の注意・要望等

単位の認定を希望する者は、必ず事前に窓口教員へ相談をすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
単位認定を受けるための体験の基準 ① 授業目標に合致する内容であること ② 通算して40時間程度の活動を1単位の目安とするが、活動内容に応じて期間の長短は弾力的に扱うことができる。 ③ 継続性のある内容に限り、年度をまたがってもよい。 単位取得までの手順 ① 福祉分野・一般分野それぞれの指導教員に事前の相談と申請書を提出する。 ② 申請によって学科審査を行い、内容的にこの科目に適合すると認められた場合、以降その分野の担当教員を指導教員とし、指導を受ける。 ③ 活動終了時に、活動証明書に活動先の担当者の署名、捺印を受ける。 ④ 活動終了後、活動報告書、まとめのレポート、活動証明書等を揃え、当該年度の1月に指導教員まで提出する。 活動結果に対して学科審査を行い、単位相当と判断された場合、単位が認められる。	・実習施設に関係する専門用語について調べておくこと。 ・毎日の実習体験とそこからの学びについて考察しておくこと。 ・活動報告書、まとめのレポートについてまとめること。

授業外の学修(予習・復習等)について

ボランティア実習先の事前学習を担当教員の指導のもと行うこと。
日誌・まとめのレポート等について担当教員の指導のもと行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　）	

評価方法	上記による単位認定
教　　材	必要に応じて指示する
キーワード	ボランティア実習・社会的活動・体験学習

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
情報リテラシーⅠ	2	長谷川　勝一（341）	社会福祉学科１年	前期

授業概要・学習の到達目標
【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】 福祉分野の実務を支える様々なICT（情報通信技術）活用能力の習得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図る。
【授業の目標】 この授業では、福祉分野の実務を支える様々なICT（情報通信技術）活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ることを目標とする。
【授業の到達目標】 大学が提供している各種情報サービスを活用できる。大学教育および福祉現場で必要な情報リテラシーと情報倫理を身に付け、日本語（ローマ字入力）を180文字/分（正誤率90%以上）の速度で入力できることを目指す。
【授業の内容及び方法】 この授業では、インターネット・リテラシー、タイピングおよびオフィスツールの基本的機能の習熟に重点をおき、４年間の学生生活において必要な情報収集／活用能力の基礎を学ぶ。同時に、本学での情報処理教育施設を利用するにあたっての基本的な活用方法を学習する。
履修上の注意・要望等
継続的な課題作成があるため、欠席をしないこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（１）ガイダンスおよびタッチ・タイピングと文字入力：ホーム・ポジション、漢字変換 （２）パソコン操作の基本：パソコン操作上の注意、基本ソフト（OS）の扱い方など （３）情報検索：インターネットを用いて情報を集める （４）基礎編：Word　チラシ作成：書式、表の作成、ワードアート、図の挿入、印刷 （５）メールの使い方：マナー、送受信 （６）メールの使い方：署名、CCとBCC （７）メールの使い方：添付ファイル付きメール、転送、アドレス帳、メールの管理 （８）基礎編：Word　レポート作成：ページ設定、ヘッダー・フッター、脚注、参考文献、スタイル （９）活用編：Word　アンケート結果のレポート作成　段組、図表の挿入、図表番号、文末脚注 （10）活用編：Word　アウトライン作成 （11）基礎編：PowerPoint　スライド作成：箇条書き、表の編集 （12）活用編：PowerPoint：アンケート結果のスライド作成、効果、ノート作成、スライド印刷 （13）情報モラル：情報社会の問題点 （14）情報モラル：著作権、個人情報保護 （15）情報モラル：　セキュリティー、コンピュータウィルス、パスワード管理、不正アクセス防止	(1) ～ (15) 授業時間外でのタイピング練習課題あり (4) ～ (13) まで 毎回、授業での課題作成あり 時間中に課題作成ができない場合は、授業時間外での対応が必要 (15) レポート作成課題あり

授業外の学修（予習・復習等）について
この講義外の時間にも、予習・復習としてタイピングの練習や各種ソフトの操作、課題の作成を積極的に行い、日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項			
外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	定期試験30%、演習問題・文書作成レポートの提出30%、タイピング練習評価20%、学習態度20%
教　　材	「Office基礎と情報モラルOffice 2016対応」「情報倫理ハンドブック2018年版」noa出版
キーワード	情報リテラシー　情報検索　著作権　個人情報　ファイル管理　文書表現　セキュリティー対策 インターネットコミュニケーション　ソーシャルネットワーク　情報社会の光と影　情報モラル

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
情報リテラシーⅡ	2	荻野　真介（322）	社会福祉学科１年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ること。

【授業の目標】
この授業では、福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の一つであるパワーポイントによるプレゼンテーション能力の涵養を図ることを目標とする。

【授業の到達目標】
パワーポイントによるプレゼンテーションを学ぶ。レポート・研究・製品紹介などの内容をパワーポイントの画面(文章･イラスト･写真を含む)にまとめることができるようになることを目標とする。これにより多人数を相手にわかりやすく発表(プレゼンテーション)できるようになることを目指す。

【授業の内容及び方法】
パワーポイントの基本操作を簡単な例題を作りながら学ぶ。次にやや高度な操作を、具体例(以下の計画を参照)を作成する中で学ぶ。最後に、自分でテーマを決め、それに関する情報をネットや文献などから収集・編集して作った作品を3分間で発表する。

履修上の注意・要望等

パワーポイントによるプレゼンテーションは、将来、必ず必要となるスキルなので全員履修すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
＜基本編＞ ①プレゼンテーション＝スライドショーの紹介（先輩の作品のデモ） ②基本操作：パワーポイントの起動･画面の説明 ③基本操作：背景の選択・文字の入力・イラスト･写真の挿入 ④基本操作：表の挿入･編集、箇条書き ⑤基本操作：円グラフや棒グラフなどの作成 ⑥基本操作：アニメーションによる、より効果的な発表方法	授業中に完成できなかった①～⑩の授業用例題を、完成させること。
＜応用編＞ ⑦具体例1)：ある商品(アロマテラピー製品)の紹介 タイトル、商品開発の動機、商品の特徴や仕様、まとめ ⑧具体例2)：具体例1)の改良 図形を描く(オートシェイプ)、写真・イラスト・ビデオの挿入など ⑨グラフ･組織図の挿入，アニメーションの活用など ⑩インターネットから画像・グラフ・表などをダウンロードする方法、著作権についての注意	
＜オリジナル作品の作成＞ ⑪オリジナルプレゼンテーションの作成（テーマを決める） ⑫オリジナルプレゼンテーションの作成（ネットなどから情報・資料・データを集める） ⑬オリジナルプレゼンテーションの作成（まず自力で作っていく） ⑭オリジナルプレゼンテーションの作成（教員のアドバイスによって改良する） ⑮オリジナルプレゼンテーションの発表会	⑪テーマを探して決める ⑫テーマに関する情報を集める ⑬テーマに沿って自分で作る ⑭改良する ⑮発表の練習をする

授業外の学修（予習・復習等）について

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（発表用オリジナル作品の作成）	○

評価方法	規定課題･自由課題の達成度。オリジナルのプレゼンテーションの発表のレベル。 オリジナルプレゼンテーション発表(定期試験の代わり)：80%・課題：10%・受講態度：10%
教　　材	教員作成プリント
キーワード	パワーポイント、プレゼンテーション、スライドショー、卒業研究、研究発表

<table>
<tr><th>授業科目名</th><th>単位数</th><th>担当教員（自室番号）</th><th>対象学生</th><th>学　期</th></tr>
<tr><td>英語I</td><td>1</td><td>桐生和幸（131）</td><td>社会福祉学科1年</td><td>前期</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>授業概要・学習の到達目標</th></tr>
<tr><td>【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。</td></tr>
<tr><td>【授業の目標】
本授業では、これまで学んできた英語力を元に英文を読んで理解する力および内容を簡単な英語を用いてまとめる力を高めることを目的とする。</td></tr>
<tr><td>【授業の到達目標】
CEFERのA2レベル（An ability to deal with simple, straightforward information and begin to express oneself in familiar contexts.）：簡単な予測可能な内容の決まったパターンでの会話を理解したり話すことができる。日常に関係する内容に使われる英語表現を理解することができる。身近な事柄について英語で説明することができる。</td></tr>
<tr><td>【授業の内容及び方法】
授業は、①教科書の内容について指定された形式での事前学習（オンライン）、②授業内での内容確認とグループワーク、タスク演習等、③確認小テスト（語彙・文法）から構成される。</td></tr>
<tr><th>履修上の注意・要望等</th></tr>
<tr><td>事前学習において、WebClassを使用します。出された課題は、締め切り前までに完了することが求められます。完了しなかった課題については、マイナス評価となるので注意してください。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>授　業　計　画</th><th>課題及び授業時間外の学習内容</th></tr>
<tr><td>1. 授業に関するオリエンテーションとレベル把握
2. Conclusion/Reasons (1): Right-handed traffice or left-handed traffice?
3. Conclusion/Reasons (2): Should consumption tax be raised?
4. Social Trend (1): The increase of depression
5. Social Trend (2): US birth rate is declining
6. Result/Cause (1): Casino law was passed
7. Result/Cause (2): Why does Korea Keep the draft system?
8. Several Explanations (1): What was the cause of Napoleon's death?
9. Several Explanations (2): Springtime depresion peak
10. Comparision (1): College and university
11. Comparison (2): A comibined junior and seniro high school and an ordinary high school.
12. For and Against (1): A married couple having different surnames
13. For and Against (2): School uniforms
14. Classification (1): Lies
15. Classification (2): Manga</td><td>・各(1)の回では、初めに語彙小テストを行うので、指定された単語学習を事前に行っておくこと。
・各(2)の回では、初めに文法に関する小テストを行うので、(1)の回で学んだことを事前に確認しておくこと。
・各回とも教科書の問題の確認および内容に関する追加演習でペア・グループワークを行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>授業外の学修（予習・復習等）について</th></tr>
<tr><td>１．教科書を題材にした事前学習教材をWebClassにおいて期日までに行う。（約1時間前後）
２．Quizletという単語学習教材を用いて単語学習を行う。（適宜）
※本授業における授業外の自修学習時間はおおむね20時間程度が必要である。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">アクティブ・ラーニングに関する事項</th></tr>
<tr><td>外部機関と連携した課題解決型学習</td><td></td><td>実習、フィールドワーク</td><td></td></tr>
<tr><td>討議（ディスカッション、ディベート）</td><td></td><td>ICTを活用した双方向型授業</td><td></td></tr>
<tr><td>グループワーク</td><td>○</td><td>ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）</td><td>○</td></tr>
<tr><td>発表（プレゼンテーション）</td><td></td><td>その他（　　　　　　　　　　　　　　　）</td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>評価方法</td><td>事前学習課題（20%）、受講態度（10%）、確認小テスト（30%）、定期試験（40%）</td></tr>
<tr><td>教　　材</td><td>Skills for Better Reading <Basic>（構造で読む英文エッセイ＜初級編＞）、南雲堂、1800円+税</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td>英文読解</td></tr>
</table>

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
英語I	1	多田　昌美　（３４２）	社会福祉学科１年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
文章全体の構造を意識しながら英文を読み、内容を読みとることができるようになることを目標とする。

【授業の到達目標】
基本的な表現や文法の知識に基づいて、英語を英語の語順に沿って理解することができる。
単語単位・文単位の意味把握だけでなく、文章全体の流れを意識した英語の読み方ができる。

【授業の内容及び方法】
基本的な読解スキルに焦点を当てたテキストを用い、文章構造を確認しながら読解と問題演習を行い、英語力の向上を目指す。

履修上の注意・要望等

必ず予習をして授業に臨むこと。授業には辞書もしくは英辞郎（ネット上の辞書）が使える端末を持参すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．開講にあたって／Unit1 Reading	
２．Unit1 Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit2 Reading	
３．Unit2 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit3 Reading	
４．Unit3 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill	
５．Unit4 Reading	
６．Unit4 Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit5 Reading	
７．Unit5 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill	
８．ここまでのまとめ	8:Unit1～5の復習をしておくこと
９．Unit6 Reading	
１０．Unit6 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit7 Reading	
１１．Unit7 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit8 Reading	
１２．Unit8 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill	
１３．Unit9 Reading	
１４．Unit9 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skil、Unit10 Reading	
１５．Unit10 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill、前期まとめ	
※授業の進行状況によっては、各時間で取り上げる Unit が前後する場合がある。	

授業外の学修（予習・復習等）について

授業前の予習、及び復習として Unit の要点を確認しながら文章の音読などを行って定着をはかるなど、概ね15時間の自主学修を必要とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　指名を受けての解答　　　）	○

評価方法	2回の筆記試験の平均（70%）、Unit毎のmini exam（20%）・受講態度（10%）により総合的に評価する。
教　材	Neil J. Anderson、川又正之. Elementary Skills for Reading.　（成美堂）
キーワード	英語、英語コミュニケーション、英文読解

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
英語Ⅰ	1	堀　秀暢	社会福祉学科１年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業では、基本的な英語の読み、書き、聞き取り、会話ができるようになることを目標とする。
基本的な文法を理解し、英文を組み立てることができるようになる。また、基本的な英会話を聞きとることや
１００ワード程度の英文を読んで理解することができるようになる。

【授業の到達目標】
授業で学んだことを活かし、簡単な英語を使って自分の意見を発信できるようになる。
また、適切な疑問文を用いて相手に質問できるようになる。

【授業の内容及び方法】
教科書に沿って行う。単語の発音練習、会話の聞き取り練習、文法のドリル、英文読解、英作文、会話練習などさまざまな活動を行う。授業内容によっては発表の時間も設ける。

履修上の注意・要望等

課題を済ませてから授業に臨むこと

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
【授業の計画】	
1.ガイダンス	
2.　Unit1：be動詞　Listening and Reading	
3.　Unit1：be動詞　Writing and Speaking	
4.　Unit2：名詞　Listening and Reading	
5.　Unit2：名詞　Writing and Speaking	
6.　Unit3：一般動詞 Listening and Reading	
7.　Unit3：一般動詞 Writing and Speaking	7. be動詞と一般動詞の違いについて理解すること
8.　Unit4：代名詞　Listening and Reading	
9.　Unit4：代名詞　Writing and Speaking	
10.　Unit5：一般動詞（過去時制）Listening and Reading	
11.　Unit5：一般動詞（過去時制）Writing and Speaking	
12.　Unit6：進行形　Listening and Reading	
13.　Unit6：進行形　Writing and Speaking	
14.　Unit7：be going to / will　Listening and Reading	15.be going to / willを使って、自分の予定を言える/相手の予定を尋ねることができるようになること
15.　Unit7：be going to / will　Writing and Speaking	

授業外の学修（予習・復習等）について

授業前に指示されている単語を覚えてくること。適宜、単語テストを行う。
授業後は、必ず復習をしておくこと。
日々の予習・復習、課題や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学んだ内容を自主学修すること。概ね 15 時間の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	小テストと期末テスト（70%）提出物と受講態度（30%）により総合的に評価する
教　　材	We Love L.A.！L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ 大学基礎英語～（金星堂）
キーワード	英文法、英会話

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
英語II	1	桐生和幸（131）	社会福祉学科1年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業では、これまで学んできた英語力を元に英文を読んで理解する力および内容を簡単な英語を用いてまとめる力を高めることを目的とする。

【授業の到達目標】
CEFERのA2レベル（An ability to deal with simple, straightforward information and begin to express oneself in familiar contexts.）：簡単な予測可能な内容の決まったパターンでの会話を理解したり話すことができる。日常に関係する内容に使われる英語表現を理解することができる。身近な事柄について英語で説明することができる。

【授業の内容及び方法】
授業は、①教科書の内容について指定された形式での事前学習（オンライン）、②授業内での内容確認とグループワーク、タスク演習等、③確認小テスト（語彙・文法）から構成される。

履修上の注意・要望等

事前学習において、WebClassを使用します。出された課題は、締め切り前までに完了することが求められます。完了しなかった課題については、マイナス評価となるので注意してください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 授業に関するオリエンテーションと前期の復習 2. History (1): Bill Gates 3. History (2): Steve Jobs 4. Process (1): How to make tempra 5. Process (2): How to make niku-jaga 6. Cause and Effect (1): Work-style reforms 7. Cause and Effect (2): School meals 8. Definition of a New Word (1): Cool Japan 9. Definition of a New Word (2): Crowdfunding 10. Research (1): Self-esteem declines after retirement 11. Research (2): The more sleep, the happier 12. New Products, New Service (1): A nosy coin bank 13. New Products, New Service (2): Gerontaxi 14. Reading Graphs (1): Old people are irritated 15. Reading Graphs (2): More middle-aged single people live with their parents	・各(1)の回では、初めに語彙小テストを行うので、指定された単語学習を事前に行っておくこと。 ・各(2)の回では、初めに文法に関する小テストを行うので、(1)の回で学んだことを事前に確認しておくこと。 ・各回とも教科書の問題の確認および内容に関する追加演習でペア・グループワークを行う。

授業外の学修（予習・復習等）について

１．教科書を題材にした事前学習教材をWebClassにおいて期日までに行う。（約1時間前後）
２．Quizletという単語学習教材を用いて単語学習を行う。（適宜）
※本授業における授業外の自修学習時間はおおむね20時間程度が必要である。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	事前学習課題（20%）、受講態度（10%）、確認小テスト（30%）、定期試験（40%）
教　　材	Skills for Better Reading <Basic>（構造で読む英文エッセイ＜初級編＞）、南雲堂、1800円+税
キーワード	英文読解

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
英語II	1	多田　昌美　（３４２）	社会福祉学科１年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
英語Iに引き続き、文章全体の構造を意識しながら英文を読み、内容を読みとることができるようになることを目標とする。

【授業の到達目標】
基本的な表現や文法の知識に基づいて、英語を英語の語順に沿って理解することができる。
単語単位・文単位の意味把握だけでなく、文章全体の流れを意識した英語の読み方ができる。

【授業の内容及び方法】
基本的な読解スキルに焦点を当てたテキストを用い、文章構造を確認しながら読解と問題演習を行い、英語力の向上を目指す。

履修上の注意・要望等

必ず予習をして授業に臨むこと。授業には辞書もしくは英辞郎（ネット上の辞書）が使える端末を持参すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．Unit11 Reading ２．Unit11 Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit12 Reading ３．Unit12 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit13 Reading ４．Unit13 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill ５．Unit14 Reading ６．Unit14 Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit115 Reading ７．Unit15 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill ８．ここまでのまとめ ９．Unit16 Reading １０．Unit16 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit17 Reading １１．Unit17 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill、Unit18 Reading １２．Unit18 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill １３．Unit19 Reading １４．Unit19 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skil、Unit20 Reading １５．Unit20 Reading(続き）、Reading Comprehension、Vocabulary Skill、後期まとめ ※授業の進行状況によっては、各時間で取り上げる Unit が前後する場合がある。	8:Unit11～15の復習をしておくこと

授業外の学修（予習・復習等）について

授業前の予習、及び復習として Unit の要点を確認しながら文章の音読などを行って定着をはかるなど、概ね15時間の自主学修を必要とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　指名を受けての解答　　　）	○

評価方法	2回の筆記試験の平均（70%）、Unit毎のmini exam（20%）・受講態度（10%）により総合的に評価する。
教　　材	Neil J. Anderson、川又正之. Elementary Skills for Reading. （成美堂）
キーワード	英語、英語コミュニケーション、英文読解

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
英語Ⅱ	1	堀　秀暢	社会福祉学科１年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業では、基本的な英語の読み、書き、聞き取り、会話ができるようになることを目標とする。
基本的な文法を理解し、英文を組み立てることができるようになる。また、基本的な英会話を聞きとることや
１００ワード程度の英文を読んで理解することができるようになる。

【授業の到達目標】
授業で学んだことを活かし、簡単な英語を使って自分の意見を発信できるようになる。
また、適切な疑問文を用いて相手に質問できるようになる。

【授業の内容及び方法】
前期に引き続き、教科書に沿って行う。単語の発音練習、会話の聞き取り練習、文法のドリル、英文読解、英作文、会話練習などさまざまな活動を行う。授業内容によっては発表の時間も設ける。

履修上の注意・要望等

課題を済ませてから授業に臨むこと

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
【授業の計画】 1.Unit 8：助動詞　Listening and Reading 2.Unit 8：助動詞　Writing and Speaking 3.Unit 9：前置詞　Listening and Reading 4.Unit 9：前置詞　Writing and Speaking 5.Unit 10：現在完了　Listening and Reading 6.Unit 10：現在完了　Writing and Speaking 7.Unit 11：比較　Listening and Reading 8.Unit 11：比較　Writing and Speaking 9.Unit 12：WH疑問文　Listening and Reading 10.Unit 12：WH疑問文　Writing and Speaking 11.　Unit 13：動名詞/不定詞　Listening and Reading 12.Unit 13：動名詞/不定詞　Writing and Speaking 13.　Unit 14：接続詞　Listening and Reading 14.Unit14：接続詞　Writing and Speaking 15.Unit15：受動態	6. 現在完了形のもつ「時間の幅」の感覚をみにつけること 10.WH疑問文を用いて、友人に質問ができるようになること

授業外の学修（予習・復習等）について

授業前に指示されている単語を覚えてくること。適宜、単語テストを行う。
授業後は、必ず復習をしておくこと。
日々の予習・復習、課題や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学んだ内容を自主学修すること。概ね 15 時間の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　）	

評価方法	小テストと期末テスト（70%）提出物と受講態度（30%）により総合的に評価する
教　　材	We Love L.A.！ L.A.イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ 大学基礎英語～（金星堂）
キーワード	英文法、英会話

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
英語資格認定I	1	桐生　和幸	全学科・全学年	集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】
英語の学習意欲の向上を目的として、英検、TOEIC、TOFEL などの「英語資格」を在学中に取得した場合、または、入学前に取得している場合に、修得単位として認定します。

【授業の到達目標】
目標レベルは、高校修了程度の英語力があり、日常生活に必要な英語を理解し、表現できるレベルです。CEFR (Common European Framework of Reference:ヨーロッパ言語共通参照枠)の基準ではB1レベルに相当する総合的な英語力を目標とします。

【授業の内容及び方法】
認定資格のための授業はありません。普段の英語の授業や自主学習により、各資格を取得してください。

履修上の注意・要望等

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
【単位の認定基準】 資格名　基準 実用英語技能検定　２級 ＴＯＥＩＣ　430点以上 ＴＯＥＦＬ－ＰＢＴ　450点以上 ＴＯＥＦＬ－iＢＴ　45点以上 国連英検　Ｃ級 なお、本科目開講以前に上記の資格を取得済みの場合でも、単位として認定します。 ただし、同じ結果を英語資格Ⅱに利用することはできません。	

授業外の学修（予習・復習等）について

計画的な自主学習を行い、目標を達成してください。資格取得のためには、まず、目標を定めることが必要です。検定試験の日程を十分に把握して、予定を立てて取り組んでください。実際の学習時間は、各自の事情によって異なりますが、少しの時間でも毎日行うことが効果的です。それに加えて休みの日などに集中して長時間取り組むことも更に効果が高いです。　受験に関して相談がある場合は、オフィスアワーの時間に受け付けます。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　）	

評価方法	上記の基準に従って、単位認定を行います。ただし、認定は１回のみです。
教　　材	
キーワード	英語資格、TOEIC、TOEFL、英検、国連英検

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
英語資格認定Ⅱ	2	桐生　和幸	全学科・全学年	集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】
英語の学習意欲の向上を目的として、英検、TOEIC、TOFEL などの「英語資格」を在学中に取得した場合、または、入学前に取得している場合に、修得単位として認定します。

【授業の到達目標】
目標レベルは、高校修了程度の英語力があり、日常生活に必要な英語を理解し、表現できるレベルです。CEFR (Common European Framework of Reference:ヨーロッパ言語共通参照枠)の基準ではB２レベルに相当する総合的な英語力を目標とします。

【授業の内容及び方法】
認定資格のための授業はありません。普段の英語の授業や自主学習により、各資格を取得してください。

履修上の注意・要望等

この科目は、提出された資格証明書の提出によって認定されるため、授業はありません。

授　業　計　画 ／ **課題及び授業時間外の学習内容**

【単位の認定基準】

資格名	基準
実用英語技能検定	準１級
ＴＯＥＩＣ	650点以上
ＴＯＥＦＬ-ＰＢＴ	550点以上
ＴＯＥＦＬ-iＢＴ	79点以上
国連英検	Ｂ級

なお、本科目開講以前に上記の資格を取得済みの場合でも、単位として認定します。
ただし、同じ結果を英語資格Ｉに利用することはできません。

授業外の学修（予習・復習等）について

計画的な自主学習を行い、目標を達成してください。資格取得のためには、まず、目標を定めることが必要です。検定試験の日程を十分に把握して、予定を立てて取り組んでください。実際の学習時間は、各自の事情によって異なりますが、少しの時間でも毎日行うことが効果的です。それに加えて休みの日などに集中して長時間取り組むことも更に効果が高いです。　受験に関して相談がある場合は、オフィスアワーの時間に受け付けます。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　）	

評価方法	上記の基準に従って、単位認定を行います。ただし、認定は１回のみです。
教　　材	
キーワード	英語資格、TOEIC、TOEFL、英検、国連英検

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
ドイツ語Ⅰ	2	船盛　茂(小会議室)	社会福祉学科1年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身に付け、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
この授業では、文法の基礎を理解し、平易な文章を辞書を使い読めるようにする。合せてドイツの文化・歴史・現代のドイツの人々の生活への視野を広めることを授業の目標とする。

【授業の到達目標】
基礎的な文法を理解し、辞書を使い平易な文章の和訳ができる。また、異文化への理解を深め、広い視野を持つことができる。

【授業の内容及び方法】
自作の文法読本をテキストとし、初級の学習(発音、基礎的な文法、簡単な読物の読み・和訳、日常会話)を学習する。加えてドイツの歴史・文化・日常生活についても自作の資料を用い理解を深める。文法問題や文章作成については、自分で調べた内容をグループで検討し、グループ毎に発表する。

履修上の注意・要望等

欠席したら次回からの学習が困難となるので欠席せず、予習・復習及び反復学習に心がけること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
(1)ガイダンス1(ドイツ語形成の過程、ドイツ語使用圏等) (2)ガイダンス2(ドイツ語スペル、ドイツ語の文法・発音等の特徴) (3)発音練習1　ドイツ語発音の基本の説明、母音(重母音・複母音)の発音 (4)発音練習2　単子音及び複子音で注意すべき発音、挨拶表現による発音練習 (5)文法1　動詞の規則的人称変化、文の基本構造と定動詞の位置 (6)文法2　動詞の不規則な人称変化、練習問題 (7)第1課文章　読みの練習と和訳、ドイツの自然の説明 (8)文法3　名詞の性と格、ドイツの歴史の説明 (9)文法4　定冠詞及び不定冠詞の説明と格変化、練習問題 (10)文法5　名詞の複数形の作り方のパターン、ドイツのワイン・ビールについて (11)第2課文章　読みの練習と和訳 (12)文法6　定冠詞類と不定冠詞類の格変化と使用上の説明 (13)文法7　人称代名詞の変化と使用上の説明、ドイツの学校制度について (14)第3課文章　読みの練習と和訳 (15)練習問題　文法1～7に関する練習問題	(5・6・8・9・12・13)：事前配布の資料を熟読しておくこと。 (6・9・15)：予習した練習問題の答をグループ単位で確認の上、発表。 (7・11・14)：文章の読み・和訳の予習、授業での発表。

授業外の学修（予習・復習等）について

テキストの予習・復習は勿論配布資料を熟読の上授業に出席しること。更にテキストの練習問題に加え、別途配布する練習問題を解く等の自主学習を心がけること。休日や長期休暇期間を利用して内容の理解と定着に努めること。概ね15時間の時宗学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	到達目標達成度の確認のためのテストの成績90%、普段の学習への取組み10%で評価する。
教　　材	テキスト：担当者自作のテキスト(初歩の文法とそれに関連したドイツ語文章) 参考文献：授業の中で指示。また、補足資料を適時配布する。
キーワード	ドイツ語文法、ドイツの文化、ドイツの歴史、ドイツ語日常会話

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
ドイツ語Ⅱ	1	船盛　茂(小会議室)	社会福祉学科1年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身に付け、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
この授業では、前期のドイツ語Ⅰに引続き、文法の基礎を広く理解し、若干複雑な文章の和訳の能力の向上、合せて、ドイツの文化・自然、更にはドイツを取り巻くヨーロッパの政治状況への視野を広めることを目標とする。

【授業の到達目標】
基礎的な文法を理解し、若干複雑な文章を辞書を使い和訳ができる。また、ドイツを中心とした現代ヨーロッパの政治的・文化的状況への理解を深め、広い視野を持つことができる。

【授業の内容及び方法】
テキストはⅠと同じく自作の文法読本を使用し、前置詞や形容詞、分離・再帰動詞等の文法の学習、それらを使った文章及び練習問題の学習、それに加え、配布資料を用いドイツの自然、ドイツとEUの状況を学習する。文法問題については、各自で調べ、グループ単位で検討の上、グループ毎に発表する。

履修上の注意・要望等

予習・復習及び反復学習に心がけること。前期のドイツ語Ⅰを履修した学生とする。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
(1)文法1　2，3，4格支配の前置詞とその使用法　（2）文法2　3・4格支配の前置詞とその使用法 (3)文法3　前置詞と定冠詞の融合、命令文。ドイツの自然と保護運動 (4)第4課　文章の読みと和訳、　練習問題 (5)文法4　形容詞の格語尾変化 (6)文法5　形容詞の名詞化、練習問題。ドイツの主要産業について (7)第5課　文章の読みと和訳 (8)文法6　形容詞の比較変化とそれを用いた文章 (9)文法7　形容詞の最高級の文章と練習問題 (10)第6課　文章の読みと和訳、EUの現状 (11)文法8　非人称のes、zu不定詞 (12)文法9　再帰動詞と再帰代名詞、分離動詞 (13)第7課　文章の読みと和訳、イギリスのEU離脱へ向けた動き (14)文法10　過去・現在完了 (15)第8課　文章の読みと和訳	(1・2・3・5・6・8・9・11・12・14)：事前配布の文法資料を熟読しておくこと。 (4・6・9)：予習した練習問題の答をグループで確認の上、発表。 (4・7・10・13・15)：文章の読み・和訳の予習、授業での発表。

授業外の学修（予習・復習等）について

テキストの予習・復習は勿論、配布資料を熟読の上授業に出席すること。更にテキストの練習問題に加え、別途配布する練習問題を解く等の自主学習を心がけること。休日や長期休暇期間を利用して内容の理解と定着に努めること。概ね15時間自主学習が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議(ディスカッション、ディベート)		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	到達目標達成度の確認のためのテストの成績90%、普段の学習への取組み10%で評価する。
教　　材	テキスト：担当者自作のテキスト(初歩の文法とそれに関連したドイツ語文章) 参考文献：授業の中で指示。また、補足資料を適時配布する。
キーワード	ドイツ語文法、ドイツの文化、ドイツの歴史、ドイツ語日常会話、EU

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
韓国語Ⅰ	1	朴　貞淑	社会福祉学科1年	前　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
　個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
　アンニョンハセヨ！　基礎から学ぶ韓国語である。韓国語は、語順及び語彙が日本語と最も近い言語であり、文字と発音さえしっかり身につければ、楽しく話せる外国語である。本授業では、「聞く・話す・読む・書く」に関する基礎的な能力を養成することを目指す。

【授業の到達目標】
（１）韓国語を正しく発音できる。
（２）簡単な挨拶と自己紹介ができる。
（３）基本的な日常生活のコミュニケーション能力を 身に付ける。

【授業の内容及び方法】
　本授業では、韓国語の文字･発音･文法などの基礎を理解し、基本表現を身に付け、簡単なコミュニケーションができる能力を学ぶ。ビデオ等の視聴覚教材を用いて、韓国の文化や社会への理解を深める。

履修上の注意・要望等

　受講を希望する学生は必ず初回のガイダンスに出席をすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（１）オリエンテーション	
（２）基本母音字(ハングルの構成)	(2)レポートを作成する
（３）文化学習（異文化の理解）	(3)レポートを作成する
（４）基本子音字(ハングルの構成)	(4-6)配布資料を熟読しておくこと
（５）合成母音字(母音と子音の構成)	
（６）パッチム(終声)、発音のルール	
（７）文化学習（異文化の理解）	(7)レポートを作成する
（８）あいさつ、自己紹介	(8-10)帰宅後、授業で習ったワークシートを作成する
（９）趣味（疑問詞）	
(10) 文化学習（異文化の理解）	
(11) 訪問（場所･位置･方向を表す指示詞）	(11-12)グループコミュニケーションのレポートを作成する
(12) 空港で（固有数詞･時刻･時間の表現）	
(13) 基本形・丁寧形・会話形	(13-14)グループコミュニケーションのワークシートを作成する
(14) 平叙文・肯定文・否定文・疑問文	
(15) 前期のまとめ	(15)グループでの発表、最終レポートなどを書くための指示を出す

授業外の学修（予習・復習等）について

　教科書のCDを予習・復習に活用すること。日々の予習･復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。30時間自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実践的、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向対話型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
課題発表（プレゼンテーション）	○	その他（コミュニケーション）	○

評価方法	定期試験50%、レポート20%、受講態度30%で総合的に評価する。
教　　材	教科書：改訂版　「実践韓国語」、朴　貞淑著、ふくろう出版 参考書：配布資料、NHKハングル講座
キーワード	韓国語・ハングル文字・コミュニケーション能力・異文化理解

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
韓国語Ⅱ	1	朴　貞淑	児童学科1年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
様々な人と協力・連携し、多様な考えを受け入れつつ自分の考えを伝え、良好な人間関係を形成することができる。

【授業の目標】
本授業では、韓国語Ⅰに引き続き、文字と発音に重点を置きながら、使用頻度の高い語彙　また、基本的な文法や実践的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力を高める。また、ビデオ等の視聴覚教材を用いて、韓国の文化や社会の理解を深めることで、より効果的な学習を目指す。

【授業の到達目標】
（1）日常生活の基本的なコミュニケーションができる。
（2）簡単な文書作成ができる。
（3）韓国の文化や社会への理解を深める。

【授業の内容及び方法】
本授業では、韓国語の文字･発音･文法などを理解し、基本表現を身に付け、コミュニケーションができる能力を学ぶ。視聴覚教材を用いて、韓国の文化の理解を深めることで、より効果的な学習を目指す。

履修上の注意・要望等

受講を希望する学生は必ず初回のオリエンテーションに出席をすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（1）オリエンテーション(前期内容の復習) （2）レストランで(敬語の表現) （3）意志･推測･依頼の表現 （4）地下鉄で(希望･願望の表現) （5）文化学習（異文化の理解） （6）何月何日ですか？(漢数詞、数詞) （7）今日は何曜日ですか?（否定形、曜日の表現） （8）文化学習（異文化の理解） （9）家族（家族･親戚の名称） (10) ソウル旅行（現在進行形、誘い･推量の表現） (11) お正月（過去形、お正月の風習紹介） (12) 書店で（助数詞、通貨の表現） (13) 文化学習（異文化の理解） (14) 規則活用、不規則活用 (15) 後期のまとめ	(2)レポートを作成する (3)レポートを作成する (4-6)配布資料を熟読しておくこと (7-8)レポートを作成する (9-10)帰宅後、授業で習ったワークシートを作成する (11-12)グループコミュニケーションのレポートを作成する (13-14)グループコミュニケーションのワークシートを作成する (15)グループでの発表、最終レポートなどを書くための指示を出す

授業外の学修（予習・復習等）について

教科書のCDを予習・復習に活用すること。日々の予習･復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。30時間自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実践的、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向対話型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
課題発表（プレゼンテーション）	○	その他（コミュニケーション）	○

評価方法	定期試験50%、レポート20%、受講態度30%で総合的に評価する。
教　　材	教科書：改訂版　「実践韓国語」、朴　貞淑著、ふくろう出版：前期の続きになります。 参考書：配布資料、NHKハングル講座
キーワード	韓国語・ハングル文字・コミュニケーション能力・異文化理解

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
中国語Ⅰ	1	杉山明(非常勤講師室)	社会福祉学科１年	前　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
入門から初級レベルの中国語を運用できるとともに、日本とは異なる文化を知り、広い視野と柔軟な思考力を身につける。

【授業の到達目標】
基礎的な中国語の単語２００語程度を理解し、初歩的な中国語会話を実践できる。また中国文化に興味を持ち、理解しようとする。

【授業の内容及び方法】
テキストに従って授業を進める。

履修上の注意・要望等

教材添付のＣＤをくり返し聞く。自ら声を出して、発音を身につける努力を怠らない。また欠席すると小テストが受けられず０点になってしまうので欠席をしない。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１、ガイダンスおよび発音練習（四声と単母音） ２、テキスト発音編第１課 ピンイン　複母音 ３、発音編第２課　鼻母音　子音　有気音と無気音 ４、第３課 声調の変化 ｅｒ化　特別なｉ および発音練習（複母音） ５、本文第１課 数字　「有」の用法および ６、第２課 日付の言い方　Ａ是Ｂの構文 ７、第３課 曜日の言い方　ここまでのまとめと中間考査対策 ８、中間考査 ９、中間考査返却と解説および中国映画鑑賞 10、第３課 「叫」「姓」および疑問詞の用法 11、第４課 ＳＶＯの文型　こそあど言葉 12、第４課 お金の言い方　 第５課「在」の用法　重さ永津の言い方 13、第５課 反復疑問文　第６課 形容詞の用法　「太」の用法 14、第６課 助動詞の用法　第７課　時間の言い方 15、第７課 「会」「能」「可以」の用法　介詞の用法　および期末考査対策	毎時間の予習、復習。 小テストの準備

授業外の学修（予習・復習等）について

毎時間小テストをするので必ずその準備をした上で講義に臨む。教材添付のＣＤをくり返し聞く。
日々の予習復習、あるいは試験準備の為に、概ね１５時間程度の自主学習が必要である。

アクティブラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他(ネイティブこの実践会話)	○

評価方法	平常点50％（学習態度・授業時の応答30％・小テスト20％） 中間、期末テスト50％
教　　材	「理系のための中国語」好文出版　参考文献：中国語学習＆異文化理解ハンドブック（アルク）
キーワード	中国語　会話　異文化理解

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
中国語Ⅱ	1	杉山明（非常勤講師室）	社会福祉学科１年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
初級レベルの中国語を運用できるとともに、日本とは異なる文化を知り、広い視野と柔軟な思考力を身につける。

【授業の到達目標】
基礎的な中国語の単語４００語程度を理解し、初歩的な中国語会話を実践できる。また中国文化を理解し、共用する心を持つ。

【授業の内容及び方法】
テキストに従って授業を進める。

履修上の注意・要望等

教材添付のＣＤをくり返し聞く。自ら声を出して、発音を身につける努力を怠らない。また欠席すると小テストが受けられず０点になってしまうので欠席をしない。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
【授業の計画】 １、 ガイダンス　テキスト第７課 復習 ２、 第８課 時間量の言い方　「了」の用法 ３、第８課 介詞「離」「従」の用法　第９課 進行形 ４、第９課 主述述語文　語気助詞 ５、第１０課 経験文　動詞重ね型と「一下」 ６、第１０課 「是〜的」の文　第１１課 二重目的語 ７、第１１課 同格文と比較文　使役文 ８、中間考査 ９、中間考査返却と解説及び中国映画鑑賞 10、新テキスト第１課 様態補語　「越〜越〜」の用法 11、第１課 「先〜再〜」の用法　第２課 結果補語 12、第２課 可能補語　「一点」の用法　「Ａ是Ａ」の構文 13、第３課 把構文 仮定法 14、第３課 「差点」の用法　第４課 方向補語 15、第４課 禁止構文　「不管」の用法	毎時間の予習、復習。 小テストの準備

授業外の学修（予習・復習等）について

毎時間小テストをするので必ずその準備をした上で講義に臨む。教材添付のＣＤをくり返し聞く。
日々の予習復習、あるいは試験準備の為に、概ね１５時間程度の自主学習が必要である。

アクティブラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他(ネイティブこの実践会話)	○

評価方法	平常点50％（学習態度・授業時の応答30％・小テスト20％） 中間、期末テスト50％
教　　材	「理系のための中国語・実践編」好文出版　参考文献：中国語学習＆異文化理解ハンドブック（アルク）
キーワード	中国語　会話　異文化理解

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
レクリエーション概論	2	直原　一美	社会福祉学科　1年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの知見を養うこと。

【授業の目標】
少子高齢社会において、２１世紀の社会福祉への新たなニーズに対応できる人材が求められています。
本講義では、レクリエーションの基本理念や各種の実践理論を学び福祉施設、（児童、高齢者、障碍者）
や地域社会等、身近な人々を支援する基礎能力を身につけます。
　さらに、現代社会の課題（家庭、学校、地域、少子高齢化、自然、心と体の健康など）解決に結びつくレクリエーション支援の展開とその方法を学びます。

【授業の到達目標】
日本レクリエーション協会認定レクリエーションコーディネーターの取得を目指します。

【授業の内容及び方法】
下記の授業計画にそって、様々な対象に合わせた方法について学びます。

履修上の注意・要望等

・遅刻、欠席、授業態度が悪い学生については厳しく処する。
・レクリエーション実技・実習と合わせて履修することが望ましい。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１、レクリエーションとは？　～一方通行のコミュニケーションから相互のコミュニケーションへ～ ２、レクリエーションの意義 ３、レクリエーション運動を支える制度 ４、レクリエーション・インストラクターの役割 ５、ライフスタイルとレクリエーション ６、高齢社会の課題とレクリエーション ７、少子化の課題とレクリエーション ８、地域とレクリエーション ９、自然環境とレクリエーション 10、レクリエーション事業とは 11、事業計画１　個々人のアセスメントに基づいたプログラム 12、事業計画２　市民を対象とした事業のつくり方 13、事例紹介　感動！！のひととき　美作大学生スタッフも多数参加『県立誕生寺支援学校・地域との交流会』 14、レクリエーション活動の安全管理 15、明日へつながるレクリエーション　※授業の計画は、都合により前後する場合があります。	

授業外の学修（予習・復習等）について

レクレーション・インストラクター資格取得希望者には、大学の授業以外に対象となる事業参加の指示を
します。日々の予習・復習については休日や長期休業期間などを利用して、授業で学習した内容を自主学習すること、概ね30時間の自主学習が必要です。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	試験（50％）　課題提出(30％)　授業態度（20％）により総合的に評価する。
教　　材	教科書：レクリエーション支援の基礎(日本レクリエーション協会編)・・・買わなくてよい 参考文献：日本レクリエーション協会月刊誌
キーワード	レクリエーション　福祉レクリエーション　高齢者のレクリエーション

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
レクリエーション実技・実習	2	直原　一美	社会福祉学科　1年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの知見を養うこと。

【授業の目標】
本授業の目的は、コミュニケーション能力を高め、生き生きとした人間関係を築き、心と体の健康づくりに有効な様々なレクリエーション活動を体験し、２１世紀の社会福祉の新たなニーズに対応できる人材を養成する

【授業の到達目標】
日本レクリエーション協会認定レクリエーション・インストラクター資格取得をめざす。

【授業の内容及び方法】
実際に親子、高齢者、障害者、一般の方を対象者に見立てて、下記の授業計画にそって実技を行う。

履修上の注意・要望等

・遅刻、欠席は厳しくチェック、また、講義中の私語や携帯電話の使用、態度が悪い学生については厳しく処する。・予習・復習についてはその都度指示する。
・学外授業『誕生寺支援学校と地域との交流会』（６月第２または３土曜日の予定）

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．レクリエーションで幸せづくり（オリエンテーション） ２．コミュニケーション・ワーク（笑顔に出会えるレクリエーション） ３．ホスピタリティーとは？（快い関係づくり） ４．ホスピタリティー・トレーニング ５．アイスブレーキングとは？（緊張感をほぐそう） ６．アイスブレーキングの技法（交流しよう） ７．目的にあわせたレクリエーション支援　※天候その他により予定が前後する場合があります。 ８．親子の絆を深めるレクリエーション ９．地域の交流を深めるレクリエーション 10. 高齢者、障害を持った方々の生きがいにつながるレクリエーション 11. 自然と人をつなぐレクリエーション（自然と遊ぶネイチャーゲーム） 12. 体力に合わせたニュースポーツ①（ディスコン） 13. 体力に合わせたニュースポーツ②（キンボール） 14. 体力に合わせたニュースポーツ③（ソフトバレー） 15. 体力にあわせたニュースポーツ④（グラウンド・ゴルフ） 16. 脳のトレーニングになる・レクリエーション 17. 季節を演出するクラフト（手作りしよう！クリスマスを演出する折り紙） 18. 対象に合せたレクリエーション① 19. 対象に合せたレクリエーション② 20. 演習１－１レクリエーションゲーム 21. 演習１－２レクリエーションダンス 22. 演習１－３レクリエーションソング 23. 演習１－４ニュースポーツ 24. 演習１－５クラフト 25. 演習１－６グループ・ワーク・トレーニング他 26. 演習２－指導案作成 27. 演習２－指導体験①　対象：高齢者 28. 演習２－指導体験②　対象：親子 29. 演習２－指導体験③　対象：障害者 30. 演習２－指導体験④　対象：一般社会人	

授業外の学修（予習・復習等）について

・遅刻、欠席は厳しくチェックする。また、講義中の私語や携帯電話の使用、態度が悪い学生については厳しく処する。
・学外授業『誕生寺支援学校と地域との交流会』（６月第２土曜日か第３土曜日のどちらかの予定）
・レクリエーション実技・実習の単位を取得するためには、現場実習(スタッフ参加)として相談援助演習Ⅰ・介護実習・教育実習等のいずれかの単位を取得する必要があります。
・レクリエーション・インストラクター資格取得希望者には大学の授業以外に事業参加・現場実習(前述)の指示をします。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　）	

評価方法	授業態度（６０％）、課題等（４０％）により総合的に評価する。
教　　材	教 科 書：「レクリエーション支援の基礎」（日本レクリエーション協会編） 参考文献：必要なときに配布する。
キーワード	レクリエーション・福祉レク・高齢者のレク・遊びでリハビリ・コミュニケーションゲーム

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
スポーツ健康講義	1	谷口陽子（G2）	社会福祉学科1年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業は「個人による健康の実現」のために行う。

【授業の到達目標】
健康の実現のために主体的に取り組むことができるようになる。

【授業の内容及び方法】
健康の概念、運動処方について解説する。

履修上の注意・要望等

科目の性質上「スポーツ健康実習」と両方を受講することが望ましい。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1　健康の概念 2　体力測定と評価 3　生活習慣病 4　肥満 5　運動処方 6　トレーニング法 7　運動と心の健康 8　ストレスマネージメント	6　自分に対する運動処方の実践 8　自分にとってのストレスコーピングを実践

授業外の学修（予習・復習等）について

授業後、大学生活での健康管理に役立てること。この授業を履修するにあたり概ね８時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　）	

評価方法	筆記試験９０％、授業態度１０％
教　　材	必要に応じてプリントを配布する。参考文献：『大学生の健康・スポーツ科学』
キーワード	健康　体力　運動　ストレス

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
スポーツ健康実習	1	谷口陽子（G2）	社会福祉学科1年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業の目的は、各種目の魅力を知り、運動後の爽快感を体感することである。

【授業の到達目標】
様々なスポーツ体験を通して、自分に合った生涯スポーツの発見に心がけるようになる。

【授業の内容及び方法】
球技系４種目と野外活動の実技を行う。

履修上の注意・要望等

科目の性質上「スポーツ健康講義」と両方を受講することが望ましい。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1　オリエンテーション 2　バドミントン・基本 3　バドミントン・ダブルスのルール・サーブ 4　バドミントン・スマッシュ・ヘアピン・試合 5　バドミントン・ドロップショット・試合 6　バドミントン・・試合 7　ピックルボール・基本 8　ピックルボール・ダブルスのルール・試合 9　ピックルボール・試合 10　バスケットボール・試合1回戦 11　バスケットボール・試合2回戦 12　バレーボール・基本・チーム分け 13　バレーボール・スパイク・試合 14　バレーボール・フォーメーション練習A・試合 15　バレーボール・フォーメーション練習B・試合 16　スキー・ボード実習ガイダンス 17　スキー・ボード　基本　立ち方起き上がり方 18　スキー・ボード　基本　止まり方 19　スキー・ボード　基本　滑り方 20　スキー・ボード　基本　リフトの乗り降り 21　スキー・ボード　リフトを利用する 22　スキー・ボード　フリー滑走　ゲレンデ１ 23　スキー・ボード　フリー滑走　ゲレンデ２	

授業外の学修（予習・復習等）について

授業後の大学生活で運動の機会に積極的に参加すること、運動を習慣化していくこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	受講態度７０％、テスト１０％、チームへの貢献度２０％
教　　材	必要に応じてプリントを配布する。参考文献：『バレーボールの授業づくり』大修館書店　他
キーワード	スポーツ　バドミントン　ピックルボール　バレーボール　スキー　スノーボード

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
放送大学科目Ⅰ・Ⅱ		長谷川　勝一	全学年　全学科	集　中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
修得した知識・技能・態度により、食と子どもと福祉の分野の専門的職業人として、課題を発見し解決する力を身に付ける。職業生活、社会生活に必要な広い視野・コミュニケーション能力や論理的思考力を身に付ける。

【授業の目標】
この授業では、放送大学との協定により本学の学生が受講可能な科目を通じて、多様な今日的課題に対する関心に答えることを目標とします。

【授業の到達目標】
学生は、放送大学で提供されている授業科目から大学人として必要な教養を身につけることを到達目標とします。

【授業の内容及び方法】
放送大学の授業科目は、“生活と福祉”、“発達と教育”、“社会と経済”、“産業と技術”、“人間の探究”、“自然の理解”の6専攻に分かれており、人文・社会・自然・産業などの幅広い分野の科目が開設されています。自分の興味に応じて受講してください。
放送大学の授業は、テレビ又はラジオ、インターネットで行われる放送授業と印刷教材で進められます。再視聴することができるので、自分の生活リズムにあわせて学習することができます。

履修上の注意・要望等

放送大学の「科目履修生」として、20名程度を受け入れます。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
出願方法や開講科目など詳しいことは、教務課窓口へ相談してください。	

授業外の学修（予習・復習等）について

放送大学の科目で指示された課題に積極的に取り組む必要があります。概ね授業時間と同程度の時間（２単位科目であれば30時間程度を目安とします）の自主学修が必要となります。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	所定の単位数を認定します。 なお、この科目の単位認定は、放送大学で開講されている科目の単位を、本学の修得単位として組み入れる単位互換制度を利用するものです。
教　　材	履修科目による
キーワード	なし

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ・Ⅱ		長谷川　勝一　(341)	全学科　全学年	集　中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
修得した知識・技能・態度により、食と子どもと福祉の分野の専門的職業人として、課題を発見し解決する力を身に付ける。職業生活、社会生活に必要な広い視野・コミュニケーション能力や論理的思考力を身に付ける。

【授業の目標】
この科目は、異なる専門分野をもつ大学間において、制度的・恒常的な交流を行うことにより、視野が広く行動力のある人間を養成することを目標として開講するものです。

【授業の到達目標】
学生は、それぞれの大学の特徴を活かした学修活動を通じて、大学人としての教養を深めることができます。

【授業の内容及び方法】
「大学コンソーシアム岡山」は、岡山県内の高等教育機関が相互に連帯・協力し、持てる知的資源を積極的に活用し、また、地域社会及び産業界との緊密な連携推進によって、活力ある人づくり・街づくりへの貢献を目指し、その実現に取り組むことを目的に、平成18年4月1日に設置されました。協定大学は、以下の16大学です。

『大学コンソーシアム岡山』協定大学一覧

(1)岡山大学
(2)岡山県立大学
(3)岡山学院大学
(4)岡山商科大学
(5)岡山理科大学
(6)川崎医科大学
(7)川崎医療福祉大学
(8)吉備国際大学
(9)倉敷芸術科学大学
(10)くらしき作陽大学
(11)山陽学園大学(女子のみ)
(12)就実大学
(13)中国学園大学
(14)ノートルダム清心女子大学(女子のみ)
(15)美作大学
(16)環太平洋大学

履修上の注意・要望等

「単位互換履修生」として、受入大学の規定を守ってください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
出願方法や開講科目など詳しいことは、教務課窓口へ相談してください。	

授業外の学修（予習・復習等）について

協定大学で実施される履修科目で指示された課題に積極的に取り組む必要があります。講義科目であれば、概ね授業時間と同程度の時間（２単位科目であれば30時間程度を目安とします）の自主学修が必要となります。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	所定の単位数を認定します。 　なお、この科目の単位認定は、大学コンソーシアム岡山に参加する岡山県内16大学間において、互いに学生の受け入れを行い、それぞれの受け入れ大学において修得した単位を、所属大学の正規の単位として組み入れる単位互換制度を利用するものです。
教　　材	履修科目による。
キーワード	なし

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
生活福祉論	2	小坂田 稔（自室番号:521）	社会福祉学科1年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
個人や家族、地域社会の様々な生活課題について関心を深め、その解決に取り組むソーシャルワーカー の役割や仕事ついてしっかりと理解する。

【授業の到達目標】
わが国の生活問題や地域課題、さらにそれら解決していくために果たす社会福祉制度・サービス及びソーシャルワーカーの役割・活動について、具体的な事例を通しながら理解を深め、社会福祉士になるための基礎的理解を持つ。

【授業の内容及び方法】
担当教員が福祉現場の経験を持ち、現在も現場実践の指導をしていることから、社会福祉の主要な領域の問題や活動について、具体的な実践事例を紹介し、これにより学んでいく。
講義を主とするが、DVD や新聞資料などを活用していく。毎回、授業内容に沿った資料を配布する。

履修上の注意・要望等

毎回確認テストを配布する。確認テストは、次回の授業までに必ず提出すること。授業での不明点は、このテストの質問欄に記入すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1.「社会福祉」とは何かー社会福祉の概論 2. 児童の生活状況と福祉課題 3. 児童福祉とは何か 4. 高齢者の生活状況と福祉課題 5. 高齢者福祉とは何か 6. 障がい者の生活状況と課題 7. 障害者福祉とは何か 8. ソーシャルワーカーと権利擁護(1)・・・ 長島愛生園視察学習 9. ソーシャルワーカーと権利擁護(2)・・・ハンセン病問題について 10. 低所得者の生活状況と福祉課題 11. 生活保護とは何か 12. 児童問題の具体事例を基にソーシャルワークを考える(グループワーク) 13.高齢者問題の具体事例を基にソーシャルワークを考える(グループワーク) 14. ホームレスの具体事例を基にソーシャルワークを考える(グループワーク) 15. 社会福祉専門職の役割と職業倫理を考える	毎回確認テストで授業のポイントを復習する。 8.レポートを作成する。 12.～14. グループワークでの作業表を作成する。

授業外の学修（予習・復習等）について

自主的に授業に関係した文献を読んでいくこと。必要な文献は紹介及び貸し出しをする。 授業後に配布した資料を必ず再読し、疑問点をなくすこと。自主学習時間としては、概ね 30 時間程度を目安として確保すること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	確認テスト(10%)、レポート(10%)、受講態度・グループワーク参加状況・発表内容(20%)、本試験(60%) との総合評価。 但し、本試験の点数が 60 点以上ない場合は不可とする。
教　　材	教科書:指定なし。毎回の授業時に配布するレジメを基に授業を進める。 参考文献:　宮本節子『ソーシャルワーカーという仕事』筑摩書房・社会福祉小六法　他
キーワード	ソーシャルワーカー 児童福祉 高齢者福祉 障害者福祉 生活保護 権利擁護 倫理綱領 ハンセン病 共感的理解

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
社会の変化と社会福祉Ⅰ	2	石飛　猛　　石塚直人	社会福祉学科１年	前　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、社会保障、社会福祉の歴史・考え方・制度としての概要などの基礎を理解することをめざす。

【授業の到達目標】
学生は、社会政策・社会福祉の基礎について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】
社会保障、社会福祉の基礎に関する内容を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。
教員が実務者と実務経験者である点を活かした内容になるよう務める。

履修上の注意・要望等

厚生労働省からの新着情報配信サービスの情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 病気になったら関係する制度・組織（病院・医師・看護師、医療費、保険証、窓口負担） 2. 健康保険、年金保険、労働保険、介護保険法、民間保険 3. 医療供給　医療法、医療計画、診療報酬、支払い基金、国保連合会 4. 社会福祉法と福祉６法の概要 5. 少子化・高齢化とは　法律、条例、社会支出統計、財政統計 6. 社会福祉士とは　社会福祉士法、社会福祉士会、専門職 7. 福祉国家思想①スミス、グリーン、ウェッブ、エンゲルス、マルクス 8. 福祉国家思想②ドイツにおける社会国家 9. 福祉国家思想③二十世紀イギリスにおける展開 10. 第二次大戦後の社会の変化と社会保険・社会福祉制度の変化　戦後復興期から高度成長期（～1973） 11. 第二次大戦後の社会の変化と社会保険・社会福祉制度の変化　高度成長期から安定成長期（1974～90） 12. 第二次大戦後の社会の変化と社会保険・社会福祉制度の変化　低成長期から現在(1991～ 13. 福祉国家再編の方向①コミュニティケアの動向 14. 福祉国家再編の方向②福祉多元主義の動向 15. 福祉国家再編の方向③ワークフェアの動向	WebClassに指示・掲載する文献・資料を読んでおくこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

新聞記事を毎日見ること。
この授業を履修するにあたっては、概ね30時間の自主学修を行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　）	

評価方法	定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。
教　　材	教科書　：『社会福祉政策』坂田周一　2014年　有斐閣 参考文献：『社会福祉思想の革新』山脇直司2005年 かわさき市民アカデミー講座ブックレット 『ちょっと気になる社会保障』増補版 権丈善一 2017年 勁草書房
キーワード	高齢化、少子化、社会保険、社会福祉、社会福祉士、社会福祉法、専門職、社会科学、社会政策、福祉多元主義、コミュニティケア、ワークフェア

<table>
<tr><th>授業科目名</th><th>単位数</th><th>担当教員（自室番号）</th><th>対象学生</th><th>学　期</th></tr>
<tr><td>児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ</td><td>2</td><td>有岡道博（529）</td><td>社会福祉学科1年生</td><td>前期</td></tr>
<tr><th colspan="5">授業概要・学習の到達目標</th></tr>
<tr><td colspan="5">【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【授業の目標】
現在、我が国では、児童を取り巻く環境が大きく変化してきている。本授業ではこうした中、今子ども達が置かれている生活実態や問題について理解していくとともに、現在取り組まれている児童福祉施策についての理解を深める。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【授業の到達目標】
児童福祉に関する法制度を理解したうえで、マスコミ等で取り上げられる児童に関する現状の課題を考察することができる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">【授業の内容及び方法】
教科書を中心として、子ども達の生活を支える支援と制度を学んでいく。そして、新聞、テレビ、インターネットなどの様々な分野から題材を選び、グループ討議を利用して学習をより深めていく。</td></tr>
<tr><th colspan="5">履修上の注意・要望等</th></tr>
<tr><td colspan="5">児童福祉の根底である「子どもの権利条約」を理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。</td></tr>
<tr><th colspan="3">授　業　計　画</th><th colspan="2">課題及び授業時間外の学習内容</th></tr>
<tr><td colspan="3">(1)　少子高齢社会と次世代育成支援
(2)　現代社会と子ども家庭の問題
(3)　子どもの育ちと子育てのニーズ
(4)　子どものための福祉の原理
(5)　子ども家庭福祉の理念
(6)　子どもと家庭の権利保障
(7)　子ども福祉の発展
(8)　子ども家庭福祉の実践（外部講師）
(9)　子ども家庭福祉の実施体制
(10)　子ども家庭福祉の財政
(11)　子ども家庭福祉の専門職
(12)　苦情解決と権利擁護
(13)　子どもの権利条約
(14)　事例を基に援助対策を考えるⅠ（グループ討議）
(15)　事例を基に援助対策を考えるⅡ（グループ討議）</td><td colspan="2">(2)～(13)事前に学習予定分の確認テストを提出する。

(8)児童福祉に関わる職員による実践報告を聞き、レポートを作成する。

(14)(15)グループ討議を行い、各グループごとのプレゼンテーションを行なう。</td></tr>
<tr><th colspan="5">授業外の学修（予習・復習等）について</th></tr>
<tr><td colspan="5">毎回必ず確認テスト（30分程度）で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次回の授業日までに必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認（30分程度）を授業後に行うこと。（計30時間程度）</td></tr>
<tr><th colspan="5">アクティブ・ラーニングに関する事項</th></tr>
<tr><td colspan="2">外部機関と連携した課題解決型学習</td><td></td><td>実習、フィールドワーク</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">討議（ディスカッション、ディベート）</td><td>○</td><td>ICTを活用した双方向型授業</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">グループワーク</td><td>○</td><td>ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">発表（プレゼンテーション）</td><td>○</td><td>その他（　　　　　　　　　）</td><td></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">確認テスト（20%）および受講態度（20%）、定期試験（60%）等との総合評価とする。</td></tr>
<tr><td>教　　材</td><td colspan="4">「新・社会福祉士養成講座『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』」(中央法規出版)。新聞記事やビデオ教材などを使用するとともに、具体的な事例を紹介し、考えていくこととする。
毎回要点を整理したプリント（レジメ）を配付する。</td></tr>
<tr><td>キーワード</td><td colspan="4">少子高齢社会　子どもの権利条約　児童相談所　虐待　児童福祉施設　ソーシャルワーカー</td></tr>
</table>

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	2	有岡道博（529）	社会福祉学科1年生	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
現在、我が国では、児童を取り巻く環境が大きく変化してきている。本授業ではこうした中、今子ども達が置かれている生活実態や問題について理解していくとともに、現在取り組まれている児童福祉施策についての理解を深める。

【授業の到達目標】
児童福祉に関する法制度を理解したうえで、マスコミ等で取り上げられる児童に関する現状の課題を考察することができる。

【授業の内容及び方法】
教科書を中心として、子ども達の生活を支える支援と制度を学んでいく。そして、新聞、テレビ、インターネットなどの様々な分野から題材を選び、グループ討議を利用して学習をより深めていく。

履修上の注意・要望等

児童福祉の根底である「子どもの権利条約」を理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。原則、履修者は児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰの単位を取得したものとする。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
(1)　母子保健 (2)　障害・難病のある子どもと家族への支援 (3)　児童健全育成 (4)　保育 (5)　子育て支援 (6)　ひとり親家庭の福祉 (7)　児童の社会的養護サービス (8)　児童福祉の実践報告（外部講師） (9)　児童虐待対策 (10)　子どもと家庭にかかわる女性福祉 (11)　子ども家庭への相談援助 (12)　施設ケアと子ども家庭福祉援助活動 (13)　地域援助活動とネットワーク (14)　事例を基に援助対策を考えるⅠ（グループ討議） (15)　事例を基に援助対策を考えるⅡ（グループ討議）	(2)～(13) 事前に学習予定分の確認テストを提出する。 (8) 児童福祉に関わる職員による実践報告を聞き、レポートを作成する。 (14)(15) グループ討議を行い、各グループごとのプレゼンテーションを行なう。

授業外の学修（予習・復習等）について

毎回必ず確認テスト（30分程度）で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次回の授業日までに必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認（30分程度）を授業後に行うこと。（計30時間程度）

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　）	

評価方法	確認テスト（20%）および受講態度（20%）、定期試験（60%）等との総合評価とする。
教　　材	「新・社会福祉士養成講座『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』」(中央法規出版)。新聞記事やビデオ教材などを使用するとともに、具体的な事例を紹介し、考えていくこととする。 毎回要点を整理したプリント（レジメ）を配付する。
キーワード	少子高齢社会　子どもの権利条約　児童相談所　虐待　児童福祉施設　ソーシャルワーカー

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	2	堀川涼子（527）・若林美佐子	社会福祉学科１年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人権尊重の価値と倫理に基づく社会福祉の援助観を理解し、福祉ニーズを有する人の立場に立ち、その想いや暮らしに寄り添いながら援助を組み立て、実践できること。

【授業の目標】
本授業は、社会的課題となっている少子高齢社会における高齢者福祉の諸問題を理解し、高齢者福祉に関する制度やサービスを　学ぶことを目標とする。

【授業の到達目標】
学生が高齢者福祉に関心を持ち、将来高齢者支援に活かすことができるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉制度・介護方法について学ぶ。高齢者の福祉・介護に係る法制度の概要について、特に介護保険制度を中心に理解を深める。授業方法は、講義を主とするが、途中、ＤＶＤ等の視聴覚教材を使用したり、グループワークを取り入れたりして授業を行う。

履修上の注意・要望等

「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ」を履修しないと「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ」を履修できないため注意すること。後期開講の「介護概論」も併せて受講すること。卒業必修科目であるため全員履修すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．　少子高齢社会の現状 ２．　高齢者の特性①　社会的理解 ３．　高齢者の特性②　身体的理解 ４．　高齢者の特性③　精神的理解 ５．　高齢者の介護　　認知症ケア・終末期ケア等 ６．　少子高齢社会と高齢者 ７．　高齢者福祉制度の歴史①　ゴールドプランまで ８．　高齢者福祉制度の歴史②　ゴールドプラン以降 ９．　高齢者保健福祉の発展と法体系 10.　高齢者支援の関係法規①　老人福祉法　在宅サービス 11.　高齢者支援の関係法規②　老人福祉法　施設サービス 12.　高齢者支援の関係法規③　その他の関係法規 13.　介護保険法の概要①　介護保険法の目的・理念 14.　介護保険法の概要②　介護保険制度の概要 15.　まとめ	１.出身市町村の高齢化率を調べてくる。 3.4.高齢者の身体的特徴、心精神的特徴をふまえ、「老年期生活困難に関わる諸要因の関連」をまとめる 7.8.ゴールドプランから老人福祉法改正までの一連の流れをまとめる 14.15.出身市町村の介護保険制度についてレポートを作成する。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業前にテキストの該当の箇所を読み予習をすること、授業後に疑問点等を配布資料やテキストで確認しておくこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（ＤＶＤによる映像を取り入れた授業　）	○

評価方法	試験（80％）・レポート（10％）・受講態度（10％）により総合的に評価する。
教　　材	教科書：社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（中央法規出版） その他：社会福祉小六法・授業中に配布する資料
キーワード	少子高齢社会　高齢者支援　老人福祉　介護保険制度（介護保険法）

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	2	堀川涼子（527）	社会福祉学科１年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、社会的課題となっている少子高齢社会における高齢者福祉の諸問題を理解し、高齢者福祉に関する制度やサービスを学ぶことを目標とする。

【授業の到達目標】
学生が高齢者支援に活かすことができるようになることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】
高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について学ぶ。特に介護保険制度を中心に、制度の概要とサービス体系、高齢者支援の実際として高齢者虐待の現状と課題等について理解する。
授業方法は、講義を主とするが、途中、ＤＶＤ等の視聴覚教材を使用したり、事例演習を取り入れたりして授業を行う。

履修上の注意・要望等

「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ」を履修しないと「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ」を履修できないため注意すること。相談援助実習必修科目。「介護概論」も併せて受講すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．　介護保険法の概要①　要介護認定の仕組みとプロセス ２．　介護保険法の概要②　保険給付 ３．　介護保険法の概要③　介護予防と地域支援事業 ４．　介護保険のサービス体系①　介護支援専門員 ５．　介護保険のサービス体系②　居宅サービス ６．　介護保険のサービス体系③　施設サービス ７．　介護保険のサービス体系④　介護予防サービス ８．　介護保険のサービス体系⑤　地域密着型サービス ９．　介護保険のサービス体系⑥　その他のサービス 10.　高齢者虐待防止・養護者支援について 11.　高齢者支援の方法と実際 12.　高齢者を支援する組織と役割①　行政機関の役割 13.　高齢者を支援する組織と役割②　地域包括支援センターの役割 14.　高齢者を支援する組織と役割③　居宅介護支援事業者・指定サービス事業者 15.　高齢者を支援する組織と役割④　社会福祉協議会・ボランティア等	１～3.出身市町村の介護保険制度について作成したレポートをもとに授業を行う。 9.介護保険制度におけるサービス内容を整理し、覚えてくる。（理解できているかどうか小テストを実施し、評価する） 10.高齢者虐待の現状について国の報告書をもとに整理しまとめる。 14.ユニットケア、グループホームケアについて資料をもとにまとめる。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業前にテキストの該当の箇所を読み予習をすること、授業後に疑問点等を配布資料やテキストで確認しておくこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　ＤＶＤによる映像を取り入れた授業　）	○

評価方法	試験（80%）・小テスト（5%）・レポート（5%）・受講態度（10%）により総合的に評価する。
教　　材	教科書：社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（中央法規出版） その他：社会福祉小六法・授業中に配布する資料
キーワード	少子高齢社会　高齢者支援　老人福祉　介護保険制度（介護保険法）

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
介護概論	2	青景由美　若林美佐江	社会福祉学科　1年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
この授業では、さまざまな生活課題や問題を抱え介護を必要としている高齢者や障害者、その家族に深い関心と問題意識を持ち理解するために必要な知識や介護の基本的な技術の習得を目標とする。

【授業の到達目標】
介護についての説明ができ、介護職や介護問題への理解が深まることで介護ニーズや介護過程、多職種との連携についても説明できる。また基本的な介護技術を習得することができる。

【授業の内容及び方法】
授業計画に沿って教科書や資料を中心とした授業を進めていく。新聞記事やインターネットからの情報を参考にするなどし、またグループ討議や演習などでさらに理解を深めていくこととする。介護技術の基本的な知識と技術を習得するために、講義とグループやペアでの技術演習を行う。また、介護用品や福祉機器を実際に使用しての演習も行う。

履修上の注意・要望等

授業には主体的参加と協働の意識を持って出席してください。介護技法の授業では運動の出来る服装（ジャージ等）を準備してください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（1）介護（ケア）とは何か　1）介護の概念と歴史　2）今日の介護問題とその背景 （2）介護を必要としている人の理解と介護の役割①（生活の概念　自立支援に向けた介護） （3）介護を必要としている人の理解と介護の役割②（高齢者の心身の特徴と介護の役割） （4）介護と必要としている人の理解と介護の役割③（障害のある人への理解と介護の役割） （5）介護を必要としている人の理解と介護の役割④（認知症のある人への理解と介護の役割） （6）介護を必要としている人への理解と介護の役割（終末期にある人への理解と介護の役割） （7）介護技法の基本①（住環境の整備と安全管理、福祉用具の活用） （8）介護技法の基本②（衣服の着脱介助） （9）介護技法の基本③（移動・移乗の介助） (10) 介護技法の基本④（杖歩行と車いす介助） (11) 介護技法の基本⑤（身体の清潔と感染予防） (12) 介護技法の基本⑥（食事の介助） (13) 介護技法の基本⑦（介護過程の展開） (14) 介護を担う保健・医療・福祉の専門職との連携 (15) さまざまな介護現場における介護活動（介護現場における社会福祉士と介護福祉士の役割）	（1）～（15）授業後に講義を振り返りレポート課題に取り組む

授業外の学修（予習・復習等）について

授業後に講義・演習を振り返り、より理解を深めるために授業で学習した内容について、毎回授業で出されれぽと課題に取り組み自主学習すること。概ね30時間の自主学習あ必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	受講態度（２０％）、レポート課題（２０％）、定期試験（６０％）
教　　材	教科書：社会福祉士養成講座１３「高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規出版　　　参考書：社会福祉学双書2017「介護概論」全社協、新・介護福祉士養成講座３「介護の基本Ⅰ」、４「介護の基本Ⅱ」中央法規出版、「介護概論」建帛社
キーワード	尊厳の保持　自立支援　介護問題　ＱＯＬの向上　介護予防　多職種との連携　認知症介護

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
低所得者に対する支援と生活保護制度	2	武田英樹　（自室番号523 ）	社会福祉学科1年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業では生活保護制度を柱にしながら、低所得者に対する制度や政策を学んでいくことを目標としている。授業の中では低所得者や生活困窮者のさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できるように行う

【授業の到達目標】
学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。
１．貧困とは何かについての説明ができる。
２．低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解できる。
３．相談援助活動において必要となる生活保護制度の仕組みについて説明できる。
４．生活保護制度以外の低所得者支援に関する制度について説明できる。

【授業の内容及び方法】
本授業では担当教員の生活困窮者やホームレスを対象とした支援活動の経験を踏まえつつ、貧困に関係する身近な社会問題を取り上げながら、公的扶助の全体像を把握する。さらに相談援助活動における生活保護制度やその他の低所得者対策の具体的な活用方法について、ゲストスピーカーの招聘、グループディスカッションや事例検討を交えながら学んでいきます。適宜、DVDなどによる映像教材も活用する。

履修上の注意・要望等

授業には主体的参加と協働の意識をもって出席してください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．　公的扶助とは何か：概念・範囲・意義・役割	（１）書き込み式資料の振り返りとまとめ
２．　貧困問題を取り巻く社会状況：何が問題で、何が議論されているのか	
３．　貧困と社会的排除	(3) 書き込み式資料の振り返りとまとめ
４．　公的扶助の歴史：日本と諸外国	
５．　生活保護制度の原理・原則	(5) 書き込み式資料の振り返りとまとめ
６．　生活保護制度の種類と内容	
７．　生活保護制度における保護基準	(7) 書き込み式資料の振り返りとまとめ
８．　被保護者の権利と義務	
９．　保護施設の種別と目的	(9) 書き込み式資料の振り返りとまとめ
１０．生活保護の実施体制	
１１．生活保護における自立支援プログラム	(11) 書き込み式資料の振り返りとまとめ
１２．低所得者対策：生活福祉資金貸付制度、社会手当ほか	
１３．生活困窮者対策：生活困窮者自立支援制度	(13) 書き込み式資料の振り返りとまとめ
１４．生活保護の動向	
１５．　事例検討：ゲストスピーカにより近年の社会問題から事例提供。 テーマ例：ワーキングプア、無縁社会、こどもの貧困	(15) ゲストスピーカーの講義内容についてのレポート作成

授業外の学修（予習・復習等）について

講義終了時に告知した次回の講義箇所についてのテキスト予習（次回講義までに60分程度）講義内で配布した書き込み式資料の復習（次回講義までに60分程度）を行っておいてください。その他休日や長期休業期間などを利用して復習や課題作成をすること。自主学修時間は概ね30時間必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	期末試験90％　レポート10％
教　　材	教科書：新社会福祉士養成講座『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版 参考文献：成清美治ほか編『低所得者に対する支援と生活保護制度』学文社 生活保護制度研究会編『保護のてびき』第一法規 生田武志『釜ヶ崎から…貧困と野宿の日本…』ちくま文
キーワード	生活保護　貧困　低所得　生存権　自立

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2	薬師寺明子（520）	社会福祉学科1年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識について習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
ソーシャルワーク及び専門職としての基礎的な概念や意義、理念、価値、倫理等について習得する。

【授業の内容及び方法】
ソーシャルワークの基礎的な知識や価値や倫理について講義及び演習を通して学ぶ。

履修上の注意・要望等

卒業必修及び資格必修科目である。後期開講科目の「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」を履修するためには、履修し受講しておかなければならないため、注意すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション・社会福祉士とは ２．社会福祉士の役割と意義 ３．現代社会と地域生活 ４．専門的な援助関係とコミュニケーション ５．ソーシャルワークの定義 ６．ソーシャルワークの概念 ７．ソーシャルワークの構成要素 ８．ソーシャルワークの理念①価値 ９．ソーシャルワークの理念②実践と価値 １０．ソーシャルワークの構成要素④知識・技術 １１．ソーシャルワークの構成要素⑤社会資源 １２．クライエントの尊厳と自己決定 １３．ノーマライゼーション １４．ソーシャルワーク実践と権利擁護 １５．専門職倫理と倫理的ジレンマ	１．社会福祉士の基礎的知識としての科目について調べる。 ２．事例の中の専門職について挙げる。 ５．ソーシャルワークの定義について覚える。

授業外の学修（予習・復習等）について

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語等については随時確認するとともに約30時間程度の自主学修を行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	受講態度（20%）・提出課題（10%）・定期試験（70%） なお、定期試験の成績が６割未満の場合は不可となる。
教　　材	相談援助の基盤と専門職　（中央法規出版）・随時配布する資料
キーワード	社会福祉士・相談援助・社会福祉援助技術・ソーシャルワークの構成要素

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2	薬師寺明子（520）	社会福祉学科1年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識について習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
ソーシャルワーク及び専門職としての基礎的な概念や意義、理念、価値、倫理等について習得する。相談援助の形成過程について理解する。

【授業の内容及び方法】
ソーシャルワークの基礎的な知識や価値や倫理について講義及び演習を通して学ぶ。

履修上の注意・要望等

卒業必修及び資格必修科目である。前期開講科目の「相談援助の基盤と専門職Ｉ」を履修、受講してなければ履修できない。注意すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション・ジェノグラムとエコマップ ２．演習（ジェノグラムとエコマップ）・ライフヒストリー ３．演習（ライフヒストリー） ４．社会福祉援助技術の体系と構成内容①直接援助技術 ５．社会福祉援助技術の体系と構成内容②間接援助技術・関連援助技術 ６．相談援助の形成過程①個別援助技術 ７．相談援助の形成過程②集団援助技術・地域援助技術 ８．日本におけるソーシャルワークの展開 ９．個別援助技術の意義・定義 １０．集団援助技術の意義・定義 １１．専門職倫理 １２．社会福祉士の倫理綱領 １３．ケースワークの原則①（バイステックの７原則・原則1～原則4） １４．ケースワークの原則②（バイステックの７原則・原則5～原則7） １５．総合的かつ包括的な相談援助	１．ジェノグラムとエコマップを作成する。 ２．ライフヒストリーを作成する。 ４－５．社会福祉援助技術の体系と構成内容について理解する。 ６－８．相談援助の形成過程について理解する。 長期休暇に「ケースワークの原則」を読み、まとめる課題がある。

授業外の学修（予習・復習等）について

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語等については随時確認するとともに約30時間程度の自主学修を行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　）	

評価方法	受講態度（20%）・提出課題（10%）・定期試験（70%） なお、定期試験の成績が６割未満の場合は不可となる。
教　　材	相談援助の基盤と専門職　（中央法規出版）・随時配布する資料
キーワード	社会福祉援助技術・相談援助技術の体系・相談援助技術の構成内容・相談援助の形成過程 社会福祉士の倫理綱領

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
社会の変化と社会福祉Ⅱ	2	石飛　猛	社会福祉学科１年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、社会の近代化に伴って発生した社会問題とその対策について、哲学、政治学、経済学、社会学等の視点から概要を理解することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生は、福祉国家について自ら説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】
社会政策論および福祉国家論への導入を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

履修上の注意・要望等

厚生労働省からの新着情報配信サービスの情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 社会契約説　ホッブス、ロック、ルソー 2. 産業革命とは 3. 社会契約説批判　スミス（スコットランド啓蒙） 4. 国家と社会　社会的なもの 5. 経済学と貧困　スミス、ベンサム、マルサス、リカード、J.S.ミル 6. 社会の発見　福田徳三「社会の発見」『社会政策と階級闘争』第1章ほか参照 7. 社会問題の発見①エンゲルス、マルクス、ブース、ラウントリー 8. 社会問題の発見②デュルケーム、ヴェーバー 9. 福祉国家の形成①ヘーゲル、シュモラー、ブレンターノ、福田徳三、河上肇 10. 福祉国家の形成②グリーン、ウェッブ夫妻、ビスマルク、ロイド-ジョージ 11. 福祉国家の形成③ベヴァリッジ、ケインズ、産業化論・権力資源論・国家論アプローチ 12. 福祉国家の再編①マーシャル、ティトマス、ウィレンスキー、エスピン - アンデルセン 13. 福祉国家の再編②福祉多元主義、コミュニティケア、ワークフェア 14. 福祉国家の論点①目標、必要、供給 15. 福祉国家の論点②社会的排除、社会的包摂	WebClassに指示・掲載する文献・資料を読んでおくこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

新聞記事を毎日見ること。
この授業を履修するにあたっては、概ね30時間の自主学修を行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　）	

評価方法	定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。
教　　材	教科書　：『社会福祉政策』第３版 坂田周一 2014年 有斐閣 参考文献：『社会福祉思想の革新』山脇直司 2005年 かわさき市民アカデミー講座ブックレット 『ちょっと気になる社会保障』増補版 権丈善一 2017年 勁草書房
キーワード	社会政策、福祉国家、福祉社会、社会保険、社会福祉、社会的排除、社会的包摂、福祉多元主義、 コミュニティケア、ワークフェア

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
心理学理論と心理的支援	2	妻藤真彦(135)	社会福祉学科１学年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
心理学概論からさらに進んだ内容の習得が目標。

【授業の到達目標】
基礎知識の習得と，様々な人間関係や心理的問題の支援に一部でも応用できることを目指す。また社会福祉専門職（ソーシャルワーカー）に必要な心理学面の基礎知識を説明できるようになること。

【授業の内容及び方法】
心理的な問題の支援や解決法として実践的に使われる行動変容法の理論的基礎にあたる内容や性格心理学・心理療法に関係する理論や知見を解説する。応用のために具体例での説明も行う。授業方法は、講義を主とするが，小テストによる理解度確認なども行う。

履修上の注意・要望等

大学の講義に慣れるという意図もあって、黒板を写すだけでなく、話を聞きながら適宜要約しつつ、ノートを取る練習もして欲しい。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 学習と記憶１［エピソード記憶・意味記憶・習慣とスキル・情動条件付け・骨格筋反射条件付け］ 2. 学習と記憶２［習慣行動の形成（オペラント条件付け）］ 3. 認知と記憶［注意機能・ワーキングメモリ・メタ認知，記憶の変容・虚記憶など］ 4. 動機付け［ホメオスタシス性・非ホメオスタシス性動因と，それらの心理的側面など］ 5. 個人差１［基本的感情・発動性パターン：乳幼児の気質研究など］ 6. 個人差２［基本的感情・発動性パターン：古典的理論］ 7. 個人差３［クロニンジャーとグレイの気質説・ロスバート＆ポスナーの気質説］ 8. 個人差４［性格の５要因説］ 9. 個人差５［５要因説続き：各因子の説明など］ 10. 発達［人の一生の変化］ 11. 特定学派１［精神分析など］ 12. 特定学派２［ 防衛機制・来談者中心療法など］ 13. 心理療法［認知行動療法・回想法・音楽療法］ 14. 社会的要因１［返報性ルールなど］ 15. 社会的要因２［認知的不協和（説得，セールス，マインドコントロール）など］	数回ごとに小テストと回答の解説。 数回ごとにTEDなどの視聴・検索の指示

授業外の学修（予習・復習等）について

日々の予習・復習、試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。単元が数回に渡るときは，各回の復習をしておかないと，次回の内容が理解しにくくなる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（TEDの視聴と関連トークの検索　）	○

評価方法	定期試験（90%）と受講態度（10%）
教　　材	板書と配布資料。 また〈参考図書〉は，新・社会福祉士養成講座（２）心理学理論と心理的支援　社会福祉士養成講座編集委員会偏，中央法規出版
キーワード	学習，記憶，動機付け，性格（人格），発達，気質，防衛機制，認知的不協和

社 会 福 祉 学 科　２ 年

１．教養・基礎教育科目

区分	授　業　科　目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	配当学年 1年	配当学年 2年	配当学年 3年	配当学年 4年	資格 教免福祉	備考	頁
導入科目	１年次セミナー	演習	2		○						
共通教養科目	現代生活論	講義		2	○						
	国際社会と日本	講義		2	○						
	地球環境論	講義		2	○						
	人権教育	講義		2	○						
	日本国憲法	講義		2	○				◎		
	調査と統計	講義		2		○					59
	心理学概論	講義	2		○						
	日本語リテラシー	講義		2	○						
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1	○						
	ボランティア論（教育系）	講義		1	未開講						
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○	○	○			16
	インターンシップ実習	実習		1	○	○	○	○			17
	ボランティア実習	実習		1	○	○	○	○			18
情報リテラシー科目	情報リテラシーⅠ	演習		2	○					この３科目の中から、２科目４単位以上選択必修	
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				◎		
	情報リテラシーⅢ	演習		2				○			
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○						
	英語Ⅱ	演習	1		○						
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎	この１０科目の中から、２科目２単位以上選択必修	60
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎		61
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1	○						
	ドイツ語Ⅱ	演習		1	○						
	韓国語Ⅰ	演習		1	○						
	韓国語Ⅱ	演習		1	○						
	中国語Ⅰ	演習		1	○						
	中国語Ⅱ	演習		1	○						
健康スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2	○					この４科目の中から、２科目２単位以上選択必修	
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○						
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎		
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎		
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	－		－	○	○	○	○		通算して４単位まで卒業要件に含めることができる	39
	放送大学科目Ⅱ	－		－	○	○	○	○			39
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	－		－	○	○	○	○			40
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	－		－	○	○	○	○			40
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2	○						
	住まいと福祉	講義		2		○					62
	福祉情報コミュニケーション	演習		2		○					63
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○						
	数学の基礎	講義		2		○					64

【卒業要件】必修科目６単位、選択必修科目８単位以上を含めた計３０単位以上を修得のこと。

【備考１】教員免許欄の◎印科目＝必修科目。

２．専門教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
専門基幹科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2			○			◎	◎	必修科目10単位を含め24単位以上を修得のこと	65
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○			◎	◎		66
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○				▲	◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2				○		▲	◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○				▲	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2			○			◎	◎		67
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2		○			▲	◎		68
	介護概論	講義		2	○				◎			
	加齢の理解	講義		2		○			◎			69
	障害の理解	講義		2		○			◎			70
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2				○				
	NPO・ボランティア活動論	講義		2		○						71
	安全・安心のまちづくり	講義		2			○					
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2		○						72
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2		○						73
	地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2				○				
専門展開科目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○				◎	◎	必修科目4単位を含め40単位以上を修得のこと	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2			○		▲	◎		
	社会福祉事業史	講義		2			○					
	社会保障Ⅰ	講義		2		○			◎	◎		74
	社会保障Ⅱ	講義		2		○			◎	◎		75
	福祉行財政と福祉計画	講義		2				○	◎	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○				◎	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4		○			▲	◎		76
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4			○		▲	◎		
	社会調査の基礎	講義		2			○		▲	◎		
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○							
	福祉サービスの組織と経営	講義		2			○		▲	◎		
	権利擁護と成年後見制度	講義		2			○			◎		
	就労支援サービス	講義		1			○		▲	◎		
	更生保護制度	講義		1			○			◎		
	相談援助演習Ⅰ	演習		1		○			◎	◎		77
	相談援助演習Ⅱ	演習		1			○		◎	◎		
	相談援助演習Ⅲ	演習		1			○		◎	◎		
	相談援助演習Ⅳ	演習		1				○	◎	◎		
	相談援助演習Ⅴ	演習		1				○	◎	◎		
	社会福祉体験実習指導	演習		1			○					
	社会福祉体験実習	実習		1			○					
	相談援助実習指導	演習		3				○	◎	◎		
	相談援助実習	実習		4				○	◎	◎		
	介護実習	実習		1			○		◎			
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2		○				◎		78
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2		○			◎			79
	リハビリテーション論	講義		2		○			▲			80
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○					◎		
	社会理論と社会システム	講義		2		○				◎		81
	医療ソーシャルワーク論	講義		2			○					
	保健医療サービス	講義		2			○			◎		
	精神保健	講義		2			○					
	家庭支援論	講義		2			○					
	福祉情報論及び同演習	演習		2		○			▲			82・83
	ウェブリテラシー演習	演習		2	未開講							
	福祉のまちづくり基礎演習	演習		2			○					
	福祉のまちづくり論	講義		2				○				

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
その他の専門科目	衣生活論	講義		2	未開講							
	食生活論	講義		2	未開講							
	家庭経営学概論	講義		2	未開講						含　家庭経済学	
	保育及び家庭看護学	講義		2	未開講						含　保育実習	
	教育心理学	講義		2		○			◎			84
	福祉デザイン(衣)論	講義		2		○						85
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2		○						86
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2			○					
	パソコン基礎演習	演習		2		○						87
	パソコン演習Ⅰ	演習		2		○						88
	パソコン演習Ⅱ	演習		2	未開講							
	パソコン実践演習	演習		2			○					
	簿記会計学	講義		2			○					
卒業研究系	特別演習Ⅰ	演習	2				○					
	特別演習Ⅱ	演習		2				○				
	特別演習Ⅲ	演習	1					○				
	卒業研究	演習		4				○				

【卒業要件】専門基幹科目24単位以上（必修科目10単位含む）、専門展開科目40単位以上（必修科目4単位含む）、卒業研究系3単位以上（必修科目3単位を含む）及びその他の専門科目を含め、94単位以上修得すること。

【備考】教員免許欄及び福祉士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

３．教職に関する科目

授業科目	授業形態	単位数	配当学年				備考	頁
			1年	2年	3年	4年		
教職論	講義	2		○				89
教育原理	講義	2		○				90
教育経営論	講義	2			○			
教育課程論	講義	2			○			
福祉科教育法	演習	4			○			
特別活動の指導法	講義	2			○			
教育方法・技術論	講義	2				○		
生徒・進路指導論	講義	2				○		
教育相談	講義	2				○		
教職実践演習（高）	演習	2				○		
事前事後指導	実習	1				○		
教育実習	実習	2				○		

【備考】教員免許取得希望者は、この欄の全科目を修得すること。

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
調査と統計	2	森田　築雄（132）	社会福祉学科２年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT（情報通信技術）活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ること。

【授業の目標】
実験データ，調査データなどのデータ分析において必要とされる統計の基礎的知識を与える。

【授業の到達目標】
データの集計、グラフ化、主要な統計量の算出ができる。また相関。回帰の考えを実験データや調査データに適応して貴重な情報を獲得できるようになる。社会福祉士受験指定科目の「社会調査の基礎」を理解できるようになる。

【授業の内容及び方法】
統計的な考え方、見方に重点を置きながら，基本的な統計手法を出来る限りわかりやすく説明する。また企業での統計解析の経験を授業に反映させる。

履修上の注意・要望等

一度でも欠席すると次回から講義内容の理解が困難となる。毎回出席することを期待する

授　業　計　画		課題及び授業時間外の学習内容
（１）統計学とは	統計的な考え方，見方	演習問題Ⅰ:授業計画(2)(3) 演習問題Ⅱ:　(4)(5) 演習問題Ⅲ:　(6)(7) 演習問題Ⅳ:　(8)(9) に関する4つの演習問題を課題として用意する。
（２）データのまとめ方１	データの図表化：ヒストグラムの作成	
（３）データのまとめ方２	ヒストグラムの作成（続き）	
（４）基礎統計量１	分布の中心尺度、分布の拡がり尺度、歪み、尖り尺度	
（５）基礎統計量２	標本平均，標本分散，標準偏差	
（６）相関分析１	相関とは、散布図	
（７）相関分析２	相関係数、相関係数の計算	
（８）回帰分析１	回帰とは、最小自乗法	
（９）回帰分析２	回帰直線、回帰直線を求める	
(10) まとめ（１）		
(11) 確率１	確率の公理，条件付き確率，事象の独立	
(12) 確率２	確率変数，分布関数	
(13) 重要な確率分布１	二項分布，ポアソン分布	
(14) 重要な確率分布２	正規分布，ｔ分布，χ２分布、数値表の見方	
(15) まとめ（２）		

授業外の学修（予習・復習等）について

講義ノートで復習を実践してほしい。自主学習として概ね30時間程度を必要とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	授業態度・学修意欲(30 %)，期末試験(70 %)の結果を併せて評価する
教　　材	教科書：使用しない 参考書：統計のはなし（東京図書）・推定と検定のはなし（東京図書）・統計学入門（統計学入門（裳華房）
キーワード	平均、標本分散、標準偏差、相関係数、回帰直線、正規分布

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
英語 III	1	大谷ショーン	社会福祉学科2年	前　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
The aim of this course is to give students the opportunity to work on all four skills of reading, writing, listening, and speaking. Topics studied will reflect a practical use of the English language with a main emphasis on communication.

【授業の到達目標】
On completion of this course the students' will have a better understanding of the importance of English with regard to globalization and will be able to confidently use English for everyday communication.

【授業の内容及び方法】
I tell my students at the beginning of each semester, "The improvement you make during this course will depend entirely on the effort you put in". The student must assume substantial responsibility in the learning process and take an active approach to learning.

履修上の注意・要望等

No language is easy to learn. English is no exception. To learn English you must use English. So that you can get the most out of this course: take notes and review at home, ask questions whenever you are unsure, use English as much as possible outside of class and most of all, relax and have fun.

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. Introductions 2. Friends and family 3. Different types of families 4. Jobs around the world 5. Continents, countries and cities 6. Houses and apartments 7. Inside the house 8. Possessions 9. Personal possessions and products 10. Daily activities 11. Time, work and activities 12. Getting there 13. Directions and transport 14. Presentation 1 15. Review	1. A general introduction to the course, self introductions, and organization of groups. 2-13. Units 1-6 of the textbook; allocated group work/workbook exercises. 14. Group presentations. 15. Review session for the final test.

授業外の学修（予習・復習等）について

Students should expect to do between 15-20 hours of study and preparation outside the classroom. Time will be allocated for working on group presentations during class time.

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　）	

評価方法	Homework and participation: 30% Presentation: 20% End of semester Examination: 50%
教　　材	World English 1. Second Edition. (Student book with printed workbook) ISBN: 9781305366572. National Geographic Learning/Cengage Learning
キーワード	Confidence, improvement, communication, success, globalization, family & friends, introductions, travel, transportation.

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
英語 IV	1	大谷ショーン	社会福祉学科2年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
The aim of this course is to give students the opportunity to work on all four skills of reading, writing, listening, and speaking. Topics studied will reflect a practical use of the English language with a main emphasis on communication.

【授業の到達目標】
On completion of this course the students' will have a better understanding of the importance of English with regard to globalization and will be able to confidently use English for everyday communication.

【授業の内容及び方法】
I tell my students at the beginning of each semester, "The improvement you make during this course will depend entirely on the effort you put in". The student must assume substantial responsibility in the learning process and take an active approach to learning.

履修上の注意・要望等

No language is easy to learn. English is no exception. To learn English you must use English. So that you can get the most out of this course: take notes and review at home, ask questions whenever you are unsure, use English as much as possible outside of class and most of all, relax and have fun.

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. Summer vacation review 2. Free time 3. Pastimes, games and sports 4. Clothes 5. Colors, fashion 6. Eating well 7. Food types (count/non-count) 8. Health 9. Anatomy, common illnesses 10. Making plans 11. Special plans, holidays 12. On the move 13. Preparing to move 14. Presentation 2 15. Review	1. Group discussions and general review of everyone's summer vacation. 2-13. Units 7-12 of the textbook; allocated group work/workbook exercises. 14. Group presentations. 15. Review session for the final test.

授業外の学修（予習・復習等）について

Students should expect to do between 15-20 hours of study and preparation outside the classroom. Time will be allocated for working on group presentations during class time.

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　）	

評価方法	Homework and participation: 30% Presentation: 20% End of semester Examination: 50%
教　材	World English 1. Second Edition. (Student book with printed workbook) ISBN: 9781305366572. National Geographic Learning/Cengage Learning
キーワード	Confidence, improvement, communication, success, globalization, pastimes, nutrition, organizing plans.

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
住まいと福祉	2	後藤　光雄	社会福祉学科2年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの技法を身につけること。

【授業の目標】
・高齢者・障がいのある方が住み慣れた住居で安全安心して生活できるよう、心身機能に適した福祉住環境（安全安心で使い勝手の良い住環境）整備の相談・支援ができる社会福祉士を養成することを目標とする。

【授業の到達目標】
・高齢者・障がい者に適した福祉住環境整備の住居改修プランを提案することが出来る。

【授業の内容及び方法】
・家屋構造の一般的知識を学ぶ。
・福祉住環境のための住居改修で、基本となる視点、プランニングの知識を学ぶ。
・講義を主とするが、車イス体験、片麻痺疑似体験、高齢者住宅の見学、グループワーク、視覚教材を取り入れ、福祉住環境整備の方法が理解できるよう授業を行う。

履修上の注意・要望等

・教科書は使用しません。配布資料により学習を進めます。配布資料は、整理して毎回持参してください。
・体験考察レポートの提出があります。体験学習に欠席しないように注意してください。
・福祉住環境コーディネーター検定試験2級受験を希望する者への指導に当たります。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1,高齢者・障がい者の心身の特徴と障害のとらえ方 2,福祉住環境の基礎知識　(1)建物の構造工法の種類 3,福祉住環境の基礎知識　(2)施工の流れと主な部所の名称 4,高齢者片麻痺疑似体験、車イス試乗・介助体験（屋外での体験学習） 5,高齢者・障がい者の身体機能と福祉的住環境整備への考え方 6,福祉住環境の基礎知識　(3)見取図の描き方　図面上の記号、平面図の複写 7,福祉住環境の基礎知識　(4)見取図の描き方　平面図の読み取りと複写 8,福祉住環境におけるアセスメントの視点、専門職との連携 9,福祉住環境における共通の基本技術(1)段差の解消、手すりの取り付け、建具の配慮など 10,福祉住環境における共通の基本技術(2)箇所別住環境整備　アプローチ、玄関、廊下 11,福祉住環境における共通の基本技術(3)箇所別住環境整備　トイレ、浴室など 12,福祉住環境整備の案をプランニングする。(1)高齢者住居を下見し見取図を描く。（学外授業） 13,福祉住環境整備の案をプランニングする。(2)グループでプランニングする。 14,福祉住環境整備の案をプランニングする。(3)グループ発表と評価を出し合う。 15,福祉住環境整備と介護保険制度・障害者総合支援制度等の住宅改修費制度	1-3　プリントを復習すること。 4　体験から与えられたテーマを考察し、レポートを作成すること。 5-11.15　プリントを復習すること。 9-11　祖父母の住居を比較検討し、まとめること。 12　チェックした不安・危険個所を書き出しておくこと。 13.14　グループで討議し改修プランをまとめ発表すること。

授業外の学修（予習・復習等）について

・祖父母の方が暮らしておられる住居は、安全安心・使い勝手の良い家屋構造になっているか観察してみる。祖父母の方から不安な箇所はどこか、どうあったら良いか尋ねまとめる。
・体験学習を通して、与えられたテーマに沿って考察しまとめる。
・配布資料を基に１０時間程度の復習が必要である。
・上記の観察、考察、復習を含めて概ね３０時間の自主学修が必要です。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	定期試験（９０％）体験考察レポート（１０％）
教　　材	・教科書：使用しない。適時資料（プリント）を配布する。 ・参考文献：「福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト」東京商工会議所発行
キーワード	福祉住環境整備　バリアフリー　ICF

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉情報コミュニケーション	2	長谷川　勝一（341）	社会福祉学科２年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT（情報通信技術）活用能力の習得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図る。

【授業の目標】
この授業では、福祉分野の実務を支える様々なICT（情報通信技術）活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ることを目標とする。

【授業の到達目標】
パーソナルコンピュータやタブレットコンピュータにおいて各種クラウドサービスが活用できる。文字や音声、動画による各種情報通信サービス・技術を用いてコミュニケーションを取ることができる。有線・無線・モバイルによるインターネット接続インフラが利用できる。福祉の世界において情報通信機器の活用ができる能力を身に付けることを目指す。

【授業の内容及び方法】
福祉の世界で必要とされる情報コミュニケーション技術等について演習形式で学ぶ。

履修上の注意・要望等

受講を希望する学生は必ず初回のガイダンスに出席をすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（１）ガイダンス：オリエンテーションとグループ分け	(2)　(3)　(11)　(12)　(13) レポート課題あり
（２）Dynabookと情報革命：情報革命が社会福祉に与える影響について考える	
（３）情報革命と社会福祉：情報革命が社会福祉の世界に何をもたらすか考える　情報通信白書から	
（４）現在のコミュニケーションツール：電子メール　タブレットでの利用	
（５）現在のコミュニケーションツール：クラウドブックマーキングサービス	
（６）現在のコミュニケーションツール：パーソナルデータベース（１）Evernote	
（７）現在のコミュニケーションツール：パーソナルデータベース（２）共有方法について	
（８）現在のコミュニケーションツール：クラウドオフィススィート（１）　Google Documents	
（９）現在のコミュニケーションツール：クラウドオフィススィート（２）　共有方法について	
(10) 現在のコミュニケーションツール：クラウドオフィススィートとストレージサービス	(11)　(12)　(13)　(14) グループワークあり
(11) 情報社会のこれからを考える　Society 5.0の世界	
(12) これからの情報共有のあり方を考える	
(13) 現在のコミュニケーションツール：オンデマンドテレビ、遠隔地とのテレビ会議システム	(15) 発表あり
(14) 現在のコミュニケーションツール： Wi-Fi接続、電子書籍、動画編集	
(15) これからの福祉とICTのあり方を考える	

授業外の学修（予習・復習等）について

毎回の配布物（実習プリント）を熟読し，実習内容についての概念的な予習・復習を行っておくこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート課題50％、普段の学習態度50％で評価する。
教　　材	教科書：「情報リテラシー」noa出版　　参考書：各種マニュアルと配布資料
キーワード	情報コミュニケーション技術　タブレットコンピュータ　ソーシャルネットワーキング クラウドコンピューティング　キュレーション・サービス　メール　WAN接続サービス アラン・ケイ　ダイナブック　DoCoMo Vision　情報通信白書　Society 5.0

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
数学の基礎	2	森田　築雄（132）	社会福祉学科２年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT（情報通信技術）活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ること。

【授業の目標】
福祉に関する様々な資料や調査データを、整理分析するための数学の基礎知識を与える。

【授業の到達目標】
２年次後期、３年次前期で履修する統計、社会調査で用いられる数式が理解できる。

【授業の内容及び方法】
中学、高等学校で学んだ数学の基本事項の確実な理解に主眼を置く。

履修上の注意・要望等

数学の基礎を復習して、確実なものにしておきたいと考える学生を対象とする。

授　業　計　画		課題及び授業時間外の学習内容
1.　数と式の計算（Ⅰ）	整数、分数、小数、繁分数	
2.　数と式の計算（Ⅱ）	因数分解、平方根	
3.　数と式の計算（Ⅲ）	分数式の計算、無理式の計算	
4.　方程式（Ⅰ）	１次方程式	
5.　方程式（Ⅱ）	１次方程式の利用	
6.　方程式（Ⅲ）	連立方程式	
7.　方程式（Ⅳ）	連立方程式の利用	
8　関数（Ⅰ）	関数とは、１次関数、	
9.　関数（Ⅱ）	２次関数、グラフ	
10.　関数（Ⅲ）	その他関数（三角関数、対数関数、指数関数）	
11.　集合	集合、集合の演算	
12.　順列、組み合わせ	順列と組み合わせ	
13.　確率	確率の基本性質、条件付き確率	
14.　確率分布	期待値、分散と標準偏差	
15.　まとめ		

授業外の学修（予習・復習等）について

授業中に課された演習問題で理解不十分なものに関しては復習により確かなものにしておく。
自主学習として概ね30時間程度を必要とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	授業態度・学修意欲(30 %)，期末試験(70 %)の結果を併せて評価する
教　　材	教科書：使用しない 参考書：必要に応じて紹介する。
キーワード	平均、標本分散、標準偏差、相関係数、回帰直線、正規分布

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
現代社会と福祉Ⅰ	2	武田英樹（自室番号523 ）	社会福祉学科2年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業では現代社会において、個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、様々な社会福祉政策について理解できるよう展開する。

【授業の到達目標】
学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。
・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について説明できる。
・福祉の歴史的変遷について説明できる。
・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について説明できる。
・相談援助活動と福祉政策との関係について説明できる。

【授業の内容及び方法】
現代社会における福祉的ニーズの把握と課題解決に向けた福祉政策の構成要素や展開過程について学びます。講義の中では、各分野に関係するテーマを取り上げ、身近な事例をもとに現代の社会福祉のあり方についてディスカッション・グループ発表を交えながら検討していきます。適宜、DVDなどの映像教材も活用する。

履修上の注意・要望等

主体的参加と協働の意識をもって出席してください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 福祉国家の成立 2. 社会福祉の目的を考える 3. 現代社会の諸問題：人口減少、虐待問題、生活困窮者 4. 現代社会の諸問題：認知症、寝たきり、介護問題 5. 現代社会の諸問題：職場ストレス、犯罪被害者 6. 現代社会の諸問題：緩和ケア、医療分野 7. グループディスカッション：社会福祉の対象となる者の生活課題 8. 社会福祉政策を理解するための枠組み 9. 福祉多元主義からソーシャルインクルージョン 10. グループディスカッション：社会問題とソーシャルワーク 11. 福祉政策の発展過程：戦前までの日本 12. 福祉政策の発展過程：戦後までの日本 13. 福祉政策の発展過程：少子高齢化時代の福祉政策 14. グループディスカッション：共生社会、ノーマライゼーションについて 話題提供のためのＤＶＤ視聴あり 15. ゲストスピーカーによる特別講義：現代社会における社会福祉士の立ち位置	（3）～（6）キーワードになる用語関係する社会状況について調べておくこと。 （11）～（13）事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。 （14）帰宅後、講義で視聴したＤＶＤに関するレポートを作成する。 （15）帰宅後、講義内容についてのまとめと感想のレポートを作成する。

授業外の学修（予習・復習等）について

・予習として講義内で実施する発表資料の準備（次回講義までに60分程度）、講義内での強調した重要項目についての復習（次回講義までに60分程度）を行っておいてください。
・身近で起こっている社会問題について興味をもち、その問題を解決するためにどのような手段があるかについても調べること。
上記の予習・復習、調べについて自主学修時間概ね30時間を使って行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	試験（90％）、レポート（10％）
教　　材	教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座４ 現代社会と福祉』中央法規 参考文献：高間満ほか『第3版　社会福祉論』久美出版 武川正吾『社会政策の社会学』ミネルヴァ書房
キーワード	社会福祉政策、社会福祉、現代社会、社会保障制度、社会保険制度、社会福祉制度、社会福祉援助、社会福祉専門職

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
現代社会と福祉Ⅱ	2	武田英樹（自室番号523 ）	社会福祉学科2年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業では現代社会において、個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、様々な社会福祉政策について理解できるよう展開する。加えて、社会福祉士として地域社会の暮らしに対する強い関心や問題意識、目的意識、柔軟な思考力を養えるようにする。

【授業の到達目標】
学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。
・現代社会における福祉制度の意義や理念､福祉政策との関係について説明できる。
・福祉の原理をめぐる理論と哲学について説明できる。
・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府､市場､家族､個人の役割を含む｡）について説明できる。
・福祉政策と関連政策（教育政策､住宅政策､労働政策を含む｡）の関係について説明できる。
・相談援助活動と福祉政策との関係について説明できる。

【授業の内容及び方法】
現代社会における福祉的ニーズの把握と課題解決に向けた福祉政策の構成要素や展開過程について学びます。講義の中では、各分野に関係するテーマを取り上げ、身近な事例をもとに現代の社会福祉のあり方についてディスカッションを交えながら検討していきます。適宜、DVDなどの映像教材も活用する。

履修上の注意・要望等

本科目の履修は、原則として「現代社会と福祉Ｉ」を履修した者しか履修することができない。履修する者は主体的参加と協働の意識をもって出席してください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 福祉の思想と哲学 2. 社会政策と福祉政策 3. 福祉政策の発展過程 4. 福祉政策の構成要素：必要と資源、効率性と公平性 グループワークと発表「公平性とはどういうことか」 5. 福祉政策の構成要素:普遍主義と選別主義、自立と依存 グループワークと発表「自立とはどのような状態か」 6. 福祉政策の構成要素：自己決定とパターナリズム、ジェンダー グループワークと発表「ジェンダーとは」 7. 福祉政策の理念：生活自己責任、相互扶助、社会責任主義的貧困観 8. 福祉政策の理念：社会権的生存権、普遍主義、ノーマライゼーション 9. 福祉政策の理念：居宅主義、選択と自己決定、社会的包摂、参加と創造 10.グループディスカッションと発表「社会的排除がもたらす不利益」 11.福祉政策の関連領域：人権擁護、保健医療（グループディスカッション含む） 12.福祉政策の関連領域：所得保障、雇用、教育（グループディスカッション含む） 13.福祉政策の関連領域：住宅、災害（グループディスカッション含む） 14.社会福祉制度の体系 15.福祉サービスの提供	（4）～（9）事前にテキストの該当箇所を熟読しておくこと。 （10）グループディスカッションと発表を踏まえ、本テーマについての考察のレポートを作成する。

授業外の学修（予習・復習等）について

シラバスの授業計画や講義内で提示された用語について、事前学習（次回講義までに60分程度）、講義内での強調した重要項目についての復習（次回講義までに60分程度）を行っておいてください。
この授業を履修するにあたって、概ね30時間の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	試験（90%）、レポート（10%）
教　　材	教科書： 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉』中央法規 参考文献：高間満ほか編著『第3版　社会福祉論』久美出版 武川正吾『社会政策の社会学』ミネルヴァ書房
キーワード	公共政策、社会政策、福祉政策、社会問題、福祉哲学、福祉サービス

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	2	薬師寺明子（520）	社会福祉学科2年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
障害児・者におけるさまざまな政策的課題や生活する上での問題等について解決できるよう障害児・者への理解及び施策、サービス等について学ぶ。

【授業の到達目標】
障害児・者への理解、生活実態や障害者施策、法体系やサービス等を理解する。障害者福祉施策の展開過程について理解する。

【授業の内容及び方法】
障害者理解、障害者福祉理念の学習を基礎として、歴史、関係法と施策、活動、課題などについて講義を通して学ぶ。また、グループで課題に取り組み、発表も行う。

履修上の注意・要望等

卒業必修及び資格必修科目である。後期開講科目の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ」を履修するためには、履修し受講しておかなければならないため、注意すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．　オリエンテーション・障害者福祉とは ２．　障害者福祉の理念 ３．　障害者理解①グループ課題発表1グループ ４．　障害者理解②グループ課題発表2グループ ５．　障害者理解③グループ課題発表3グループ ６．　身体障害・知的障害の理解 ７．　精神障害・発達障害の理解 ８．　障害者の実態とニーズ・障害の概念 ９．　障害者福祉の国際的動向 １０．　日本の障害者福祉の動向 １１．　障害者の法的定義・手帳制度 １２．　障害者福祉施策の法体系①障害者基本法 １３．　障害者福祉施策の法体系②障害者基本計画 １４．　障害者福祉施策の法体系③身体障害者福祉法等各法 １５．　障害者福祉施策の法体系④障害者にかかわるその他の法体系	３－４．各グループで課題に取り組み、発表する。 12‐15．法体系及び制度政策について理解するための復習。

授業外の学修（予習・復習等）について

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに約30時間程度の自主学修を行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	受講態度（20%）・提出課題（10%）・定期試験（70%） なお、定期試験の成績が６割未満の場合は不可となる。
教　　材	障害者に対する支援と障害者自立支援制度　第６版（中央法規出版）・随時配布する資料
キーワード	障害者理解・障害者福祉の動向・障害者基本法・障害者総合支援法

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	2	薬師寺明子（520）	社会福祉学科2年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
障害児・者におけるさまざまな政策的課題や生活する上での問題等について解決できるよう障害児・者への理解及び施策、サービス等について学ぶ。

【授業の到達目標】
障害者施策、法体系やサービス等を理解する。障害児福祉施策について理解する。

【授業の内容及び方法】
障害児・者理解、障害者福祉理念の学習を基礎として、歴史、関係法と施策、活動、課題などについて講義を通して学ぶ。

履修上の注意・要望等

資格必修科目である。前期開講科目の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ」を履修、受講してなければ履修できない。注意すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．　オリエンテーション・Ｉの復習 ２．　障害者自立支援制度の経緯①社会福祉基礎構造改革 ３．　障害者自立支援制度の経緯②制度改正の背景 ４．　障害者総合支援法① 体系 ５．　障害者総合支援法② 自立支援給付 ６．　障害者総合支援法③ 訓練等給付 ７．　障害者総合支援法④ 自立支援医療・補装具・障害福祉計画 ８．　障害者総合支援法⑤ 地域生活支援事業他・介護保険との関係 ９．　障害者総合支援法⑥ 組織・機関の役割・苦情解決 １０．　障害者総合支援法⑦ 専門職の役割と実際 １１．　障害者総合支援法⑧ 連携・ネットワーキング・自立支援協議会 １２．　障害児に対する支援① 法改正の背景 １３．　障害児に対する支援② 制度・サービス １４．　教育機関の役割・障害者の雇用・就業 １５．　所得保障・経済負担の軽減・まとめ	４－５．障害者総合支援法について理解する。 １２－１３．障害児福祉施策について理解する。

授業外の学修（予習・復習等）について

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに約30時間程度の自主学修を行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	受講態度（20%）・提出課題（10%）・定期試験（70%） なお、定期試験の成績が６割未満の場合は不可となる。
教　　材	障害者に対する支援と障害者自立支援制度　第６版（中央法規出版）・随時配布する資料
キーワード	障害者総合支援法・障害児福祉・児童福祉法・ネットワーク・特別支援教育・就労支援・所得保障

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
加齢の理解	2	妻藤真彦（135）・堀川涼子（527）	社会福祉学科２年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業は、発達の観点からの老化の理解、そして老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生が高齢者を理解して支援できるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
特に認知症についてその基礎的な知識、認知症のある人の特性について心理学的、社会的に学ぶ。それを踏まえたうえで本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した支援の視点について学ぶ。授業方法は、講義を主とするが、途中、ＤＶＤ等の視聴覚教材を使用したり、グループワークを取り入れたりして授業を行う。

履修上の注意・要望等

3年または4年次に「高齢者分野」に実習を希望する可能性のある者は必ず履修をすること。
「高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ・Ⅱ」の内容を深めるものなので、卒業必修科目ではないが、社会福祉士国家資格をめざす者は履修すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１.認知症高齢者を取り巻く社会的状況、法や制度・サービス【堀川】 ２.高齢者の健康と介護①認知症の理解（アルツハイマー型認知症等）【堀川】 ３.高齢者の健康と介護②認知症の理解（脳血管障害・その他の疾患と症状）【堀川】 ４.老化と心理１：感情（ストレス・不安感情・うつ傾向・グチ・頑固さなど）【妻藤】 ５.老化と心理２：感情と動機づけ(疑い・孤独感など，動機づけの種類など，性)【妻藤】 ６.老化と心理３：感覚・知覚（基本法則と発達・高齢者の聴覚など）【妻藤】 ７.老化と心理４： 認知(注意機能と老化，認知症の注意機能障害，メタ認知と認知症の影響など)【妻藤】 ８.老化と心理５：記憶(記憶・学習能力の分類，レミニッセンス・バンプ・展望的記憶と認知症)【妻藤】 ９.老化と心理６：記憶（陳述的記憶の年齢による変化と個人差，アルツハイマー病におけるエピソード記憶の変化段階とオリエンテーション失調など，有酸素運動)【妻藤】 10.老化と心理７：言語と思考（言語と思考の発達・老化，アルツハイマー病の言語と意味記憶）【妻藤】 11.老化と心理８：知能（流動性知能・結晶性知能と加齢による変化など）【妻藤】 12老化と心理９：心理検査（認知症スクリーニング，知能検査，実行機能検査，注意機能検査，記憶機能検査，その他）【妻藤】 13.老化と心理10：心理療法まとめ（認知行動療法，行動療法，回想法、音楽療法など）【妻藤】 14.老化と心理11：認知症と人間関係（認知症の周辺症状と中核症状，パーソンセンタード・ケア，チャレンジング行動，意思疎通，レスパイトケアなど）【妻藤】 15.認知症の人と家族への支援【堀川】	1.配布資料を基に高齢者福祉施策を復習する。 2. 3.視聴したＤＶＤをもとにレポートを作成する。 15.認知症の人と家族の会や地域包括支援センターの講話を聴き、自分にできること考える。

授業外の学修（予習・復習等）について

日ごろから高齢者に関するニュース等を読んでおくこと。授業後に疑問点等を配布資料で確認しておくこと。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間程度の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（ＤＶＤによる映像を取り入れた授業　）	○

評価方法	定期試験（70%）・レポート（20%）・受講態度（10%）により総合的に評価する。
教　　材	社会福祉士養成講座「高齢者に対する支援と介護保険制度」（中央法規出版）他、適宜指示
キーワード	認知症　ライフサイクル　老化現象　知能　学習・記憶能力　心理的援助・家族介護

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
障害の理解	2	薬師寺明子（520） 安田純（671）・大谷美佐恵	社会福祉学科２年	前期

授業概要・学習の到達目標
【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】 ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。
【授業の目標】 ソーシャルワークに関する障害者に対する基礎的知識と専門的知識について習得することを目標とする。
【授業の到達目標】 障害に対する理解や障害のある人々の生活を理解する。障害を考慮し個々に応じた支援を考えれるようにする。
【授業の内容及び方法】 運動障害、精神遅滞、てんかん、感覚機能の障害、発達障害、精神障害など、障害全般に渡り、それぞれの特性と障害者の心理について講義を通して学ぶ。また、ゲストスピーカーとして当事者の話を聴き、より理解を深める。

履修上の注意・要望等
４年次の相談援助実習において、障害児・者関係施設・事業所・機関に実習を希望する者は履修及び単位取得が必要となる。注意すること。教員によって開講曜日が異なるため、オリエンテーション及び掲示等に注意すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション・出生前診断（薬師寺） ２．障害者の権利条約と差別解消法・障害者虐待防と障害者虐待防止法（薬師寺） ３．精神遅滞について（安田） ４．自閉症について（安田） ５．アスペルガー症候群について（安田） ６．学習障害について（安田） ７．注意欠陥多動性障害について（安田） ８．発達障害者（児）への支援について（安田） ９．てんかんについて（大谷） １０．聴覚・言語障害について（大谷） １１．統合失調症について（大谷） １２．うつ病について（大谷） １３．重症心身障害者について（薬師寺） １４．当事者理解①ゲストスピーカー（薬師寺） １５．当事者理解②ゲストスピーカー（薬師寺）	１．DVDについてのレポート １４－１５．ゲストスピーカーの講義内容についてのレポート

授業外の学修（予習・復習等）について
指示のあったテキストやプリント等を事前に読んでおくこと。専門用語等については随時確認するとともに約30時間程度の自主学修を行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項			
外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　）	

評価方法	受講態度（15%）、定期試験（85%）の総合評価とする。 レポート課題は試験（薬師寺分）の点数に含まれる。 なお、定期試験の成績が6割未満の場合は不可となる。
教　　材	随時配布する資料 参考文献：最新 介護福祉全書 11　障害の理解（メヂカルフレンド社）　他
キーワード	障害者・障害特性・障害理解・障害受容・障害児・者の発達

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
NPO・ボランティア活動論	2	小川孝雄・小坂田稔	社会福祉学科2年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの技法を身につけること。

【授業の目標】
NPO(活動)とボランティア(活動)の意味と役割について理解していく。ここでの学びにより、地域における社会福祉援助活動に活かせる知識と実践力を身につける。

【授業の到達目標】
NPO(NPO法人を含む民間非営利団体)・サードセクターの役割や具体的取り組みについてを学ぶ。また、ボランティア(活動) の歴史や実際の活動事例を通して、ボランティア(活動)の役割や具体的方法について学ぶ。
ここでの学びにより、社会福祉援助活動に活かせる知識と実践力を身につけるとともに、NPO活動やボランティア(活動)への参加やコー ディネートができるようにしていく。

【授業の内容及び方法】
NPO(NPO法人を含む民間非営利団体)・サードセクターが地域にどう貢献をしているか。担当教員がNPO活動や福祉現場の経験を持ち、現在も現場実践に関わっていることから、それぞれの活動について、具体的な実践事例を紹介し、これにより学んでいく。県内の多様な実践者の報告も含めて事例を中心にその理論を学ぶ。ボランティアについては、理論とともに点字や手話の技術講習や災害ボランティアの方法について学び、その方法を修得する。講義を主とするが、グループワークや点字・手話の技術講習を行う。

履修上の注意・要望等

対話形式による授業としているので、積極的に発言していく姿勢を持って出席すること。授業での不明点は確認テストの質問欄に積極的に記入すること。実技講習やグループワークには積極的な参加姿勢で臨むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1.　NPO概論とサードセクターの果たす役割 2.　NPOの活動事例紹介 3.　NPOの課題と活動資金 4.　NPOと地域コミュニティを含めた協働について 5.　津山のNPOの紹介 6.　活動実践者に学ぶNPOの様々な関わり方 7.　NPO活動のまとめ 8.　ボランティア(活動)の意味と役割 9.　技術ボランティアの体験1 　手話ボランティア活動を体験してみよう 10.　技術ボランティアの体験2 　点字ボランティア活動を体験してみよう 11.　災害ボランティア(活動)の役割と課題1・・理論を学ぶ 12.　災害ボランティア(活動)の役割と課題2・・具体的実践事例から学ぶ 13.　災害ボランティア(活動)の役割と課題3・・演習(グループワーク) 14.　事例を基にボランティア(活動)の役割や具体的な支援方法を考える(グループワーク) 15.　ボランティア(活動)のまとめ	自主的に授業に関係した文献を読んでいくこと。授業後に配布した資料を再読し、疑問点をなくすこと。 自主学習時間としては 概ね 30 時間程度を目安として確保すること。 7.11.15.レポートを書く。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業後に、授業で配布した資料を再読し、キーワードについて必ず復習し、疑問点をなくすこと。
グループワークについては、授業外の作業も含めて主体的に参加すること。 自主学習時間としては、概ね 30 時間程度を目安として確保すること。 自主的に授業に関係した文献や資料を読んでいくこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	確認テスト(20%)、受講態度・グループワーク参加状況・発表内容(30%)、レポート(50%)による総合評価
教　　材	講義ごとに事例を含む適切な資料を配布する。また、実践事例のパワーポイントを使用する。 参考文献:澤村 明 他(著)『はじめての NPO 論 -- 一緒に役割を考えよう』有斐閣 巡 静一 他(著)『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』 大阪ボランティア協会
キーワード	NPO サードセクター コミュニティビジネス 住民自治 ボランティア 災害ボランティアセンター ボランティアコーディネーター

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
地域づくりと環境デザイン（演習）	2	大土井　亮輔	社会福祉学科2年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
私たちにとって住みやすい住環境とは何かを身近なテーマを採りあげ、どうすれば理想の地域、住環境を創造できるかを学習する。さらに理想の住環境創造の障壁となる課題について、その解決の手法を演習し、より良い住環境の提案を行えることを目標とする。

【授業の到達目標】
理想の住環境の障壁となっている課題を理解し、特に防災・環境（地球温暖化）・高齢少子化の現状の学習を通じて、持続可能な、理想の地域づくりの提案を行う事を到達目標とする。

【授業の内容及び方法】
理想の住環境とは何かを理解し、実現の為に「安全安心・省エネ・福祉」のテーマを取り上げ、講義の他に、防災教育施設、住宅展示場等の校外学習を取入れ、社会生活の中での現状と最新の取組みを学習し、個々の課題について、グループ討論形式の解決手法と方法を演習する。

履修上の注意・要望等

受講を希望する学生は必ず初回のガイダンスに出席をすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1.地域、住環境とは　概論1（理想の街、住空間） 2.地域、住環境とは　概論2（理想の住空間） 3.理想都市と住環境の事例検証（グループによる事例検証の実務と演習） 4.地域と住生活（地域と住生活の安全と安心）防災 5.社会生活の中での災害への対処と防犯 6.社会生活の中での地域防災と支えあいの共助、課題：安全安心「防災」　（校外演習） 7.地球環境と身近な省エネ生活の課題（省エネと災害） 8.身近な住環境の課題（住生活の中で持続すべきこと） 9.　身近な住環境の実態検証：安全安心・省エネ・UDの最前線（校外演習） 10.　今、日本が考える環境・福祉政策の方向性（デイスカッション形式） 11.生活、住環境の中での福祉とバリアフリー・UDとは 12.問題解決手法の演習、身近なテーマの発案（各自課題起案） 13.各自テーマの実演習作業 14.各自テーマと提案、創造発表(プレゼンテーション) 15.総評とまとめ（受講生からの質疑、評価を含む）	1.～13.各授業後にレポート提出。 14.～15.については、各グループごとにレポートをまとめて提出。最終的に、グループごとに、街づくりについての課題レポートとプレゼンテーション資料提出。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業内での質疑や、感想、意見を講座の中で回答し、討議する時間を設けますので、授業外の日常生活の中でも、日頃より問題意識を持ってほしい。　この講義の履修にあたり、日常生活の中で　講義との関連性と問題点を意識する為、概ね３０時間程度の自主学習が必要となります。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　）	

評価方法	レポート提出（30%）課題テーマ発表の内容と取組み態度（40%）出席数（30%）とし総合評価する。
教　　材	参考文献：福祉のまちづくり条例（岡山県）、改正省エネルギー法（経済産業省）、建築基準法・同施行令・都市計画法（国土交通省） 教科書：無し（必要の場合、各分野より取寄せ、配布予定。有償の場合事前に連絡します。）
キーワード	理想の住環境：安全安心（防災防犯）・環境エコロジー（環境保全と省エネ）・福祉（UD、バリアフリー）身の回りの住環境に対する問題意識の保持と解決能力の向上の為の演習

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
地域づくりと住民参加（演習）	2	大土井　亮輔	社会福祉学科2年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの技法を身につけること。

【授業の目標】
生活地域の理想の環境要素として、家族や、行政の他にどの様な環境や、共助の仕組みが必要かを　実例や、課題等を学習し、自ら地域の住民活動の現状を体験し、いかにすれば、理想の地域・住環境を創造できるかを提案、実行することを目標とする。

【授業の到達目標】
授業を通し、様々な分野での、街づくりの活動の実践を理解し、その問題点の解決手法と、実践の為のコミュニケーション力を習得し、持続可能な、地域活動の提案を行う事を目標とする。

【授業の内容及び方法】
地域活性化を目的とした様々な地域活動が行われているが、その目的、ノウハウ、人材・資金確保及び地域の高齢少子化問題等の諸問題に取り組む、地域活動の実践講師の講義を取り入れ、地域住民としての参加について講義の中から課題を見つけ、最終的にグループ討論形式で解決手法と方法を演習する。

履修上の注意・要望等

受講を希望する学生は必ず初回のガイダンスに出席をすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 地域づくりとは：安心して住める街とは 2. 住民の為の地域づくりの構造：自助・共助・公助の考え方 3. 地域づくりの種類と目的：街の生活機能の維持、少子高齢化、生活地域年齢人口比 4. 地域活動の実践報告：ゲスト講師（行政街づくり担当部署、地域の特色PR） 5. 地域における共助の種類と構造：乳幼児～高齢者までにかかわりあう組織について 6. 乳幼児、青少年への地域活動（校外学習）公民館、児童福祉施設 7. 理想のまちへの精神的気概と安心安全とは、（歴史文化等の情操意義と生活必需機能） 8. 街の活性化活動における住民参加活動：ゲスト講師（地域における、食と歴史文化の広報活動組織） 9.　地域活動における人材と資金確保について：ゲスト講師（地域活動のネットワークづくり組織） 10.　これからの地域活動の課題と問題点について（地域リーダーに求められるもの） 11. 問題解決手法の演習、身近なテーマの発案 12. 問題解決手法の演習、（グループ討論形式） 13. 各自テーマの実演習作業 14. 各自テーマと提案、解決方法発表(グループによるプレゼンテーション) 15. 総評とまとめ（受講生からの質疑、評価を含む)	1. ～13. 各授業後にレポート提出。 14. ～15. については、各グループごとにレポートをまとめて提出。最終的に、グループごとに、街づくりについての課題レポートとプレゼンテーション資料提出。

授業外の学修（予習・復習等）について

質疑や、感想・意見を授業の中で回答し、討議する時間を設けますので、授業外の日常生活の中でも、日頃より問題意識を持つ姿勢が重要。　この講義の履修にあたり、日常生活の中で　講義との関連性と問題点を意識する為、概ね３０時間程度の自主学習が必要となります。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning)	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート提出（30%）課題テーマ発表の内容と取組み態度（40%）出席数（30%）とし総合評価する。
教　　材	参考文献：福祉のまちづくり条例（岡山県）、改正省エネルギー法（経済産業省）、各地域の広報誌等 教科書：無し（必要の場合、各分野より取寄せ、配布予定。有償の場合事前に連絡します。）
キーワード	理想の地域創造の為の共助活動の意義と理想・住民としての地域活動の自己への還元 　今後の地域活動参加への問題意識の保持と解決能力の向上の為の演習

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
社会保障Ⅰ	2	菅原　明美（213）	社会福祉学科2年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、社会保障制度の体系について学び、医療保険制度や年金制度等の具体的内容について知識を修得し、社会福祉の援助が円滑に遂行出来る力を身につけることを目標としている。

【授業の到達目標】
１．社会保障の目的について理解することができる。
２．社会保障制度の体系を理解することができる。
３．年金保険制度の内容を理解することができる。

【授業の内容及び方法】
本授業では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みについて学ぶ。
授業方法は、講義を主とするが、各単元終了時に小テストを実施し、理解度の確認を行う。

履修上の注意・要望等

毎回，授業のおわりに小レポートの提出を求める。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション／私たちの生活と社会保障 ２．生活保障の理念と機能 ３．社会保障の歴史①　欧米における社会保障の歴史的展開 ４．社会保障の歴史②　日本における社会保障の歴史的展開 ５．社会保障の構造①　社会保障制度の体系 ６．社会保障の構造②　年金保健の構造 ７．社会保障の構造③　社会扶助の構造 ８．社会保障の財源と費用①　社会保障の費用 ９．社会保障の財源と費用②　社会保障の財源 10．社会保障の財源と費用③　社会保障と経済 11．年金保険制度①　年金保険制度の沿革と概要 12．年金保険制度②　国民年金 13．年金保険制度③　厚生年金保険 14．年金保険制度④　共済保険／年金保険制度をめぐる最近の動向 15．まとめ	6．11．14回には小テストを行う。

授業外の学修（予習・復習等）について

・配布された資料を再読すること。
・制度改訂が毎年行われるため、日頃よりニュースなどで情報を把握しておくことが必要である。
・授業で紹介された文献等を参考に、休日を活用して概ね30時間自主学修すること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）
教　　材	・新・社会福祉士養成講座、『社会保障』（中央法規出版株式会社） ・参考文献：「はじめての社会保障」有斐閣　「社会保障入門」中央法規 ・適宜、資料を配布する。
キーワード	福祉国家，ベヴァリッジ報告，社会福祉基礎構造改革，社会保障と税の一体改革，社会保険方式 租税方式，社会保障費用統計，所得の再分配

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
社会保障Ⅱ	2	菅原　明美（213）	社会福祉学科2年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、社会保障制度の体系について学び、医療保険制度や年金制度等の具体的内容について知識を修得し、社会福祉の援助が円滑に遂行出来る力を身につけることを目標としている。

【授業の到達目標】
本授業は、社会保障Ⅰで学んだ社会保障・福祉の知識を基盤とし、日本の社会保障が抱える問題や改革の現状と課題について、自らの生活と照らし理解することが出来、またその解決のための方法を具体的に考えることを到達目標とする。

【授業の内容及び方法】
本授業では、現行の日本における社会保障制度の基本的な仕組みについて学ぶ。
授業方法は、講義を主とするが、各単元終了時に小テストを実施し、理解度の確認を行う。

履修上の注意・要望等

毎回，授業のおわりに小レポートの提出を求める。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1．医療保険制度①　医療保険制度の沿革と概要 2．医療保険制度②　健康保険と共済制度／国民健康保険制度 3．医療保険制度③　後期高齢者医療制度 4．医療保険制度④　国民医療費と医療をめぐる最近の動向 5．介護保険制度①　介護保険制度創設の経緯／介護保険制度の概要 6．介護保険制度②　介護保険制度をめぐる最近の動向 7．労働保険制度①　労働保険制度の沿革と概要 8．労働保険制度②　労働者災害補償保険 9．労働保険制度③　労働保険制度をめぐる最近の動向 10. 雇用保険制度 11. 社会福祉制度　　社会福祉制度の沿革と概要／生活保護制度 12. 社会保障と民間保険 13. 社会保障が当面する課題 14. 諸外国における社会保障制度 15. まとめ	6. 11. 14回には小テストを行う。

授業外の学修（予習・復習等）について

・配布された資料を再読すること。
・制度改訂が毎年行われるため、日頃よりニュースなどで情報を把握しておくことが必要である。
・授業で紹介された文献等を参考に、休日を活用して概ね30時間自主学修すること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　）	

評価方法	定期試験（80％）、提出課題（10％）、受講態度（10％）
教　　材	・新・社会福祉士養成講座、『社会保障』（中央法規出版株式会社） ・参考文献：「はじめての社会保障」有斐閣　「社会保障入門」中央法規 ・適宜、資料を配布する。
キーワード	全国健康保険協会　後期高齢者医療広域連合　求職者給付基本手当　育児休業給付　日本型雇用慣行 非正規雇用職員

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助の理論と方法Ⅰ	4	新谷　芳子　（528）	社会福祉学科　2年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、相談援助について実践活動の基盤となる考え方や方法を学び、ソーシャルワークの理解と認識を深めることを目標とする。

【授業の到達目標】
1. 相談援助についての考え方や方法を説明できるようになる。
2. クライエントが直面する問題は諸要因の関係によって生まれ、クライエントの置かれている状況を全体的、総合的に捉えることができるようになる。
3. 学生相互の討議を通して、クライエントのニーズをとらえ相談援助の方法について示すことができるようになる。

【授業の内容及び方法】
講義を主に人と環境との交互作用で生じている問題の見方や相談援助の展開過程、面接技術について概説し、グループ・ディスカッションを交えながら様々な考え方を共有できるようにする。また、当事者を招き、その人が置かれている状況を具体的に学び、理解を深められるようにする。

履修上の注意・要望等

原則「相談援助の基盤と専門職Ⅰ・Ⅱ」の履修者を対象とする。社会福祉士になるための必要な科目である。本科目を履修していなければ「相談援助の理論と方法Ⅱ」が履修できないので注意すること。

授　業　計　画		課題及び授業時間外の学習内容
1. 相談援助とは	16. 相談援助の過程⑧ ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ（演習）	(4) ワークシートを作成する。
2. 相談援助の構造と機能	17. 相談援助の過程⑨ 支援の実施とﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ	(7-8)ワークシートを作成する。
3. 人と環境の交互作用①　概論	18. 相談援助の過程⑩ 再ｱｾｽﾒﾝﾄ、ｱｳﾄﾘｰﾁの技術	(9-19)教科書および板書したことを熟読する。
4. 人と環境の交互作用②　事例をもとに検討	19. 相談援助の過程⑪　ｱﾌﾀｰｹｱ	
5. 相談援助の対象①　概念の理解	20. 効果測定・評価の技術	
6. 相談援助の対象②　対象の範囲の理解	21. 記録の技術　意義と概念	
7. 援助関係の形成①　自己覚知	22. ｸﾗｲｴﾝﾄ理解（外部講師）	
8. 援助関係の形成②　ﾗﾎﾟｰﾙの形成	23. 面接技術①　面接技術の意義・目的	
9. 相談援助の過程①　相談援助の展開過程	24. 面接技術②　面接の技術	(25-29)ワークシートを作成する。
10. 相談援助の過程②　ｹｰｽの発見・ｲﾝﾃｰｸ	25. 面接の実際①　電話相談　ｹｰｽ発見	
11. 相談援助の過程③　問題把握からﾆｰｽﾞ確定	26. 面接の実際②　ｲﾝﾃｰｸ	
12. 相談援助の過程④　ｱｾｽﾒﾝﾄ	27. 面接の実際③　ｱｾｽﾒﾝﾄ	
13. 相談援助の過程⑤　ｱｾｽﾒﾝﾄの技術	28. 面接の実際④　ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ	
14. 相談援助の過程⑥　支援目標の設定	29. 面接の実際⑤　社会資源の活用	
15. 相談援助の過程⑦　ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ　契約の技術	30. まとめ	

授業外の学修（予習・復習等）について

講義前にテキストの該当箇所を読み疑問点をあげておくこと。復習は講義で話した内容を振り返り理解を深め、適宜、指示された課題作成に取り組むこと。これらに加え、試験対策や休日、長期休業期間などを利用して自主学修すること。自主学修時間は通年で概ね60時間とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　）	

評価方法	授業の到達度を評価する定期試験(70%)、課題作成・課題レポート（20%）、授業への参加態度(10%)
教　　材	新・社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法Ⅰ」中央法規
キーワード	ソーシャルワーク、システム理論、面接技術、アウトリーチ

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助演習Ⅰ	1	薬師寺（520）・有岡・小坂田・菅原・武田・田中・新谷・堀川	社会福祉学科２年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する社会福祉援助技術について理解し、実践できるように身につけること。

【授業の目標】
ソーシャルワークに関する援助技術について、実践を通して身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
相談援助実習に備え、グループでの演習と体験実習を通して実践現場と当事者への理解を深め、実践力、当事者理解を深める。そして、基礎的な実践力、考察力等を身につけ、次年度以降の相談援助実習に備えられる力を習得する。

【授業の内容及び方法】
障害者支援施設での体験実習に向け、グループ課題及び発表を行う事前学習、レクリエーションの準備等を行う。後半は3年次の実習に向けたオリエンテーション、実習報告聴講、グループ学習等を行う。

履修上の注意・要望等

３年次の社会福祉体験実習を受講するために履修及び単位取得が必要となる。注意すること。全講義及び演習に必ず出席しなければならない。やむを得ず遅刻・欠席した場合は実習委員会にて対応を決定することとする。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション ２．障害者の理解（グループ課題発表） ３．障害者支援施設の理解（グループ課題発表） ４．知的障害者に向けたレクリエーション（オリエンテーション） ５．知的障害者に向けたレクリエーション（上級生からのアドバイス） ６．知的障害者に向けたレクリエーション（準備） ７．知的障害者に向けたレクリエーション（リハーサル①前半グループ） ８．知的障害者に向けたレクリエーション（リハーサル②後半グループ） ９．オリエンテーション（来年度の相談援助実習に向けて） １０．体験実習（１日） １１．グループスーパービジョン（体験実習を終えて） １２．上級生による実習体験発表 １３．実習相談会 １４．実習先グループ学習 １５．実習先グループ学習　発表	２－３．グループ課題の準備、発表をする。 ４－８．グループでレクリエーションの準備をする。 １０．知的障害児・者施設でレクリエーションを行う。 １４－１５．実習先理解をグループで学習、発表する。

授業外の学修（予習・復習等）について

レクリエーションの準備やグループ学習は授業時間以外に（15時間程度）グループメンバーで活動していくことになる。協働して取り組むこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　）	

評価方法	遅刻・欠席なく、出席することが前提。受講態度（50%）、課題（50%）
教　　材	参考文献：レクリエーションの本等必要に応じて指示
キーワード	相談援助演習・社会福祉援助技術・体験実習・グループスーパービジョン・実習事前学習

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
人体の構造と機能及び疾病	2	貫名　慈見（678）	社会福祉学科２年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】
本授業では　福祉に関係した仕事に関わるものとして必要な医学の基本的知識の理解を目指す。

【授業の到達目標】
学生は将来必要となる基礎的医学知識を得ることができる。

【授業の内容及び方法】
身体各所の構造と機能、そして一般的な疾患についての概略を学んでいく。社会福祉士養成用につくられた教科書に沿って　板書、プリントを使用して授業は進めていく。

履修上の注意・要望等

福祉は人と直接関わる仕事である。幅広い視野と豊かな人間性の構築に努力してもらいたい。授業では積極的に質問をしてもらいたい。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．身体の成長・発達、精神の成長・発達	2まとめ問題の予習
２．老化	6まとめ問題の予習
３．身体各器官の構造と機能（１）：水分と脱水、血液成分、心臓と循環器系	11まとめ問題の予習
４．身体各器官の構造と機能（２）：腎臓と泌尿器、呼吸器、消化と吸収	14まとめ問題の予習
５．身体各器官の構造と機能（３）：脳・神経系、内分泌器官、生殖器、支持運動器官	15課題問題
６．身体各器官の構造と機能（４）：目・耳・皮膚などの感覚器、自律神経系・免疫系	
７．生活習慣病と未病、悪性腫瘍	
８．脳血管疾患、心疾患、高血圧	
９．糖尿病、および内分泌疾患	
10．呼吸器疾患、消化器疾患	
11．血液疾患、腎・泌尿器系疾患、骨・関節疾患	
12．目・耳の疾患、視覚障害及び聴覚障害	
13．感染症	
14．高齢者に多い疾患、終末医療	
15．健康のとらえ方	

授業外の学修（予習・復習等）について

はじめて学ぶことが多いので毎週1時間程度は復習をしっかりしてもらいたい。日常の生活の中で、例えば新聞・書籍などでの医療や福祉に関わる事柄に興味を持ってもらいたい。日々の復習に加え、休日や長期休業期間に概ね30時間の自主学修時間が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　）	

評価方法	定期試験（８０％）、受講態度・学習意欲（２０％）、により総合評価する。
教　　材	福祉士養成講座編集委員会編：新・社会福祉士養成講座１．『人体の構造と機能及び疾病』——医学一般（中央法規）。
キーワード	身体各部の構造と機能、身体各臓器の疾患、加齢と身体機能、健康・福祉。

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
人体構造及び日常生活行動に関する理解	2	武田英樹(523)　妻藤真彦(135) 若林美佐子(142)	社会福祉学科２年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
本授業はソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識として、人体構造と病態ごとの日常生活行動についての理解を促進できるように展開する。

【授業の到達目標】
学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。
1. 介護技術の基本となる人体の構造について説明できる。
2. こころのしくみの基礎的な内容について説明できる。
3. 介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について説明できる。

【授業の内容及び方法】
対象者の状況に応じた適切な介護が実施できるよう、ライフサイクルの心理的側面、からだのしくみ、認知症、終末期のケア、生活行動におけるこころとからだのしくみ等の基礎知識について、事例検討も交えながら学びます。

履修上の注意・要望等

日頃から文献やテレビ、新聞等で医療や介護に関わる事柄に興味を持ち、授業に参加してください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．ガイダンス【若林】 ２．心のしくみの理解１：ライフサイクルの心理的側面１（青年中年老年の生活と立場の変化）【妻藤】 ３．心のしくみの理解２：ライフサイクルの心理的側面２（結婚・家族・仕事との関係の変化、趣味・友人・地域社会との関係の変化）【妻藤】 ４．からだのしくみの理解１：呼吸と循環のしくみ【武田】 ５．からだのしくみの理解２：嚥下機能、食べ物の消化と吸収　【武田】 ６．からだのしくみの理解３：ホメオスタシス、内分泌・自律神経の関わり　【武田】 ７．からだのしくみの理解４：排尿・排便と体液の調節　【武田】 ８．からだのしくみの理解５：睡眠のしくみ　【武田】 ９．医学的側面から見た認知症の基礎１：認知症による障害、認知症と間違えられやすい症状【武田】 10. 医学的側面から見た認知症の基礎２：認知症の原因となる主な病気の症状、若年性認知症、検査　及び治療の実際【武田】 11. 認知症に伴う機能の変化と日常生活【武田】 12. 死にゆく人のこころとからだのしくみ・・死の捉え方とこころの理解、終末期から危篤・死亡時のからだの理解、医療職との連携　【武田】 13. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ【若林】 14. 排泄に関連したこころとからだのしくみ【若林】 15. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ【若林】	（2）～（15）授業終了後、当日の内容を復習しておくこと。 (4)～（7）授業内で説明した解剖生理について復習しておくこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

キーワードに上げた用語とその関連用語について予習（次回講義までに60分程度）しておいてください。ノート・配布資料をきちんと管理し、前回講義内容の復習（次回講義までに60分程度）をして理解を深めてください。上記の予習・復習に加え、課題作成や試験対策について学習した内容を自主学修すること。概ね30時間必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	終了時試験（80%）、学習態度（20%）の総合評価とする。
教　　材	教科書　：適宜、資料配布 参考文献：社会福祉士養成講座編集委員会編『人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版
キーワード	ライフサイクル、日常生活動作、医療、心理、介護、こころとからだのしくみ

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
リハビリテーション論	2	安本　勝博	社会福祉学科2年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】
本授業では、医療で行われる狭義のリハビリテーションだけではなく、全人間的復権を目指した様々なリハビリテーションの種類や時期を知ることを目標とする。

【授業の到達目標】
広義のリハビリテーションの意義と目的を理解することができる。

【授業の内容及び方法】
多様なリハビリテーションの場面を実例から学び、さらに歴史・介入時期・支援方法・生活動作の改善・住居改善など、様々な視点から学ぶ。講義形式およびグループワーク等を通じて、授業は実施する。

履修上の注意・要望等

私語など他者への授業の妨害行為は厳しく対応します。また遅刻がないようにしてください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．リハビリテーションとは① ２．リハビリテーションとは② ３．リハビリテーション支援の領域①（対象・支援別） ４．リハビリテーション支援の領域②（自立支援） ５．リハビリテーション支援の領域③（介護予防） ６．リハビリテーションの4分野（医学的リハビリテーションを中心に） ７．介入時期別リハビリテーション①（予防期・急性期） ８．介入時期別リハビリテーション②（回復期　日常生活動作の回復を中心に） ９．介入時期別リハビリテーション③（回復期　手段的日常生活動作の回復を中心に） １０．介入時期別リハビリテーション④（生活期・終末期） １１．環境とリハビリテーション①（住居改善とは） １２．環境とリハビリテーション②（住居改善のリハビリテーション支援プロセス） １３．環境とリハビリテーション③（身体機能と環境から事例を通してプランを考える①） １４．環境とリハビリテーション④（身体機能と環境から事例を通してプランを考える②） １５．事例発表　授業まとめ	１，２，７，１２はレポート提出 １４はグループで、検討し発表

授業外の学修（予習・復習等）について

この授業を履修するにあたり、概ね３０時間の自主学修を必要とする。
次の授業までに行うべき課題を出す場合があります。課題を忘れないよう注意してください。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	定期試験・レポート・授業態度を総合して評価。評価の配分は試験（８０％）、レポート（１０％）、受講態度（１０％）
教　　材	特になし
キーワード	自立支援　介護予防　急性期　回復期　廃用症候群　日常生活動作　手段的日常生活動作　住居改善

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
社会理論と社会システム	2	田中　涼	社会福祉学科2年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
　個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
本授業は、社会の成り立つ仕組みを知り、人々の関係性や生活世界に関心を寄せ、社会問題の所在についてミクローメゾーマクロの各レベルから検討し認識することによって、「社会を観る眼」を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
⑴現代社会の特徴について説明できる
⑵生活について説明できる
⑶個人と社会の関係について説明できる
⑷日本社会における社会問題について説明できる

【授業の内容及び方法】
社会学の立場から、現代社会の特徴、生活、個人と社会の関係、社会問題について概説する。その際、具体的なイメージが沸きやすいよう、公表されているデータや図表を積極的に活用するとともに担当教員の福祉現場での実務経験を踏まえた事例の紹介を行う。また必要に応じてグループワーク等の時間を設ける。

履修上の注意・要望等

授業に意欲的に参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
⑴オリエンテーション／社会学とは ⑵現代社会の理解①（社会システム） ⑶現代社会の理解②（法と社会システム） ⑷現代社会の理解③（経済と社会システム） ⑸現代社会の理解④（社会変動） ⑹現代社会の理解⑤（人口からみた社会変動） ⑺生活の理解①（生活のとらえ方／家族） ⑻生活の理解②（生活のとらえ方／地域） ⑼人と社会の関係①（社会的行為） ⑽人と社会の関係②（社会的役割） ⑾人と社会の関係③（社会集団と組織） ⑿人と社会の関係④（社会的ジレンマ） ⒀人と社会の関係⑤（社会関係資本と社会的連帯） ⒁社会問題の理解①（社会問題の捉え方） ⒂社会問題の理解②（日本社会と社会問題／共生社会と権利）	⑴～⒂ 教科書の該当部分を熟読してくること ⑵～⒂ 授業終了時に配布する小テストに取り組み、次回の授業の出席時に提出すること

授業外の学修（予習・復習等）について

教科書や適宜配布する資料を熟読し、予習・復習を欠かさない姿勢で臨むこと。社会問題・福祉問題に関する新聞やニュースなどに関心を持ち情報を得ること。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学習が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	試験（70%）、小テスト（20%）、受講態度（10%）により総合的に評価する。
教　　材	教科書：新・社会福祉士養成講座　「社会理論と社会システム（第3版）」　中央法規 参考文献：小田切紀子・野口康彦・青木聡　「家族の心理　変わる家族の新しいかたち」　金剛出版 ＊適宜、資料を配布する。
キーワード	社会学、西欧近代社会、ミクローマクロリンク、システム理論、生活、家族、地域、社会的ジレンマ、社会関係資本（ソーシャルキャピタル）、社会問題、スティグマ

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉情報論及び同演習	2	岡崎　起恵子 長谷川　勝一（341）	社会福祉学科２年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT（情報通信技術）活用能力の習得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図る。

【授業の目標】
この授業では、福祉分野の実務を支える様々なICT（情報通信技術）活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ることを目標とする。

【授業の到達目標】
支援技術が必要な視覚障害者向けの情報機器やICTについての知識を習得し、使用あるいは利用することができる。また、社会福祉の専門家として視覚障害者の支援に役立てることができる。

【授業の内容及び方法】
この講義においては，視覚障害者が情報機器を活用する際に必要なハードウェア／ソフトウェアについてと，視覚障害者のパソコンやインターネットの利用を支援する技術について、演習形式として実際の機器を操作しながら身に付ける。

履修上の注意・要望等

・２回目以降から、アイマスクを着けてタッチタイピングの練習を行う。
・巌淵守先生の同科目を履修の上、二科目を持って２単位とする。岡崎・巌淵の両先生の講義は、ともに集中講義である。学期始めのガイダンスで、集中講義のスケジュールの説明がある。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（１）オリエンテーション① （２）オリエンテーション②・視覚障害者の理解・視覚障害者と情報機器・視覚障害者の講師と共に盲導犬や点字についても理解を深める （３）Windowsの基礎とショートカットキーについて （４）視覚障害者向けソフトウェアの紹介と実習・キーボードによる操作・音声化ソフト・画面拡大ソフト （５）視覚障害者向けソフトウェアの紹介と実習・点字入力ソフト・点字エディタ・音声ブラウザ・メールソフト・自動書籍読み上げソフト （６）視覚障害者の支援技術・支援者の心構えと基本技術・Web上の視覚障害者向けの各種サービス・パソコン以外の情報機器の紹介 （７）Webアクセシビリティの理解・視覚障害者に読みやすいWebページの作成 （８）スカイプで遠方の人と話す・スカイプでファイルの送受信をする・スマフォやタブレットPCなどの、ボイスオーバーを用いての体験をする （９）まとめ・支援技術の実技テスト（画面を見ないでキーボードで操作をする）・レポート作成（後日提出）	

授業外の学修（予習・復習等）について

この授業を履修するにあたって、課題作成や試験対策、授業に関連する情報を集めるなど、授業で学修した内容を自主学修すること。概ね10時間程度の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	講義内容のレポート（70％）および実技試験（30％）。評価に受講態度も加味する。
教　　材	教科書：配布資料 参考書：参考書および参考となるWebサイトは随時紹介する。
キーワード	視覚障害者のパソコン利用とその支援　スクリーンリーダー　点字プリンター　スカイプ

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉情報論及び同演習	2	巖淵守、平林ルミ	社会福祉学科２年	通　年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT（情報通信技術）活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ること。

【授業の目標】
障害のある人や高齢者の自立を支援する様々なテクノロジーや関連するサービスについての知識を得ることを目標とする。

【授業の到達目標】
パソコンやスマートフォンなどのOSに標準的に備わるアクセシビリティ機能を理解し、設定することができる。その他の支援技術や関連するサービスを将来活用できる基礎能力を養う。

【授業の内容及び方法】
障害のある人や高齢の人の自立活動やコミュニケーションを支援する技術・技法について、身の周りにあるテクノロジーを利用した方法を中心に解説する。さらに実習における支援機器の操作を通じて理解を深める。

履修上の注意・要望等

紹介される支援技術を授業の中で実際に試し、利用者が持ちうる疑問や不安について授業の中で話し合うこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（１）障害とテクノロジー （２）身近にあるテクノロジーを利用した支援 （３）重度障害のある人の残存機能を引き出す技術 （４）支援技術サポート （５）パソコンのアクセシビリティ機能①　肢体不自由の人対応機能 （６）パソコンのアクセシビリティ機能②　視覚障害のある人対応機能 （７）コンピューターアクセス①　ハードウェア （８）コンピューターアクセス②　ソフトウェア （９）スマホやタブレットのアクセシビリティ機能 (10) 学習を支援するテクノロジー (11) 生活を支援するテクノロジー (12) コミュニケーション支援入門 (13) コミュニケーション支援テクノロジー (14) コミュニケーション支援実習 (15) まとめ	(1-14)授業で習った障害や病気に関する基本情報を自ら調べ，理解しておくこと

授業外の学修（予習・復習等）について

授業後、新たに学んだ障害や病気についての情報を、概ね30時間程度を使って自ら調べてみること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	試験60％、レポート20％、受講態度20％により総合的に評価する。
教　　材	教科書　：なし 参考文献：「AAC入門　コミュニケーションに困難を抱える人とのコミュニケーションの技法」こころリソースブック出版会
キーワード	支援技術、障害、アクセシビリティ、バリアフリー

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
教育心理学	2	安田　純（671）	社会福祉学科2年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
本授業においては、教職に関する専門的識見を涵養することを目的とする。

【授業の到達目標】
教育の諸場面における人間の行動の理解を深めるとともに、そこで発生した課題について解決する方策を検討できるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
本授業においては、子どもの発達の過程および学習の様相に関する様々な領域の研究を紹介する。あわせて、それらが教育場面において、いかなる意味を持つのかについて、講義を主として概説する。

履修上の注意・要望等

積極的な姿勢での参加を望みます。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 教育心理学とは 2. 発達心理学と教育心理学 3. 人間の発達の過程 4. 動機づけと教育 5. 教育に生かす学習理論①　連合理論 6. 教育に生かす学習理論②　認知理論 7. 認知心理学と教育心理学 8. 知能と学力およびそれらの評価 9. 人格の理解 10. 教育現場に見る社会（集団） 11. 教育現場に見る社会（コミュニケーション） 12. 学級の心理学 13. 発達障害に対する理解・支援 14. 人間の行動の理解 15. 教育心理学再考	

授業外の学修（予習・復習等）について

この講義を履修するにあたり、概ね30時間程度の自主学習を必要とする。配布資料等を再読し、確実に知識を蓄積すること。また、書籍、文献等を参考にし、自身の知識を確かなものにしておくこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	定期試験（50%）、レポート（30%）、受講態度（20%）
教　　材	教 科 書：なし 参考文献：鎌原 雅彦・竹綱 誠一郎「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
キーワード	発達、動機、学習、認知

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉デザイン（衣）論	2	小山　京子　（141）	社会福祉学科　2年	前　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
この授業では、 福祉の専門職を目指している皆さんが、 個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、今後の仕事（生活を含む）における衣生活に関する知識の向上を目指す。

【授業の到達目標】
終了後は、身の回りにいる人の衣服全般の問題や課題に対して、学んだ知識を持って解決できるようになる。

【授業の内容及び方法】
デザインの基礎から始め、高齢者や障がい者の状態を把握して、問題点に応じた機能性・ファッション性を具備し、さらには、着用者自身の好みや介護者の意見も反映された衣服のデザインや素材、製作上留意すべき事項について考え、実践に向けて展開する。授業は講義が基本ではあるが、デザインにかかわる多くの資料を提示し、学生の意見や感想、質問を聞き、それに対して解答する。最後は各自デザインの発表を行う。講義の中間にインターミッションを入れ、皆さんの生き方に対してコメントを与える。

履修上の注意・要望等

この講義でしか聞くことのできない独自の内容を話すので、欠席しないこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．被服デザインの基礎１　　オリエンテーション、被服の起源・目的 ２．被服デザインの基礎２　　デザインの基本条件、点・線 ３．被服デザインの基礎３　　面・立体、シルエット、ディティール ４．被服デザインの基礎４　　色・柄、イメージ、カラーコーディネート ５．被服デザインの基礎５　　素材 ６．人体と被服１　　高齢者・障がい者の体型 ７．人体と被服２　　高齢者・障がい者の生活行動、動作 ８．人体と被服３　　高齢者・障がい者用衣服デザインの要点 ９．人体と被服４　　高齢者・障がい者用衣服の観察・評価 １０．人体と被服５　　ユニバーサルデザイン １１．人体と被服６　　ユニバーサルファション １２．人体と被服７　　ユニバーサルファションの発表①（前半） １３．人体と被服８　　ユニバーサルファションの発表②（後半） １４．被服のデザイン１　　着装衣服の評価、静電気 １５．被服のデザイン２　　日常着のデザイン、まとめ	１２．１３において、これまでに学んだデザイン、素材、高齢者・障がい者、UDなどから各自デザインを考え、発表する。

授業外の学修（予習・復習等）について

予習は、次回講義予定のテキストを読んでおく。講義後は、テキストの内容を再確認するとともに、身の回りの事柄を観察し、学習を深めるなど、自主学修の総時間数は、概ね30時間必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート（70%）、授業への取り組み（30%）により総合的に評価する
教　　材	教科書　：手作りのテキスト 参考文献：「デザイン」「服装デザイン」「ユニバーサルファッション宣言」他
キーワード	被服デザイン、高齢者、障がい者、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルファッション

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉デザイン（衣）演習	2	小山　京子　（141）	社会福祉学科　2年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
この授業では、前期履修した福祉デザイン（衣）論を基礎に、自分たちだけでなく、高齢者・障がい者それぞれの体型を理解し、発表したデザインを再考して、使いやすく、着やすい作品をデザインし、製作する。

【授業の到達目標】
高齢者・障がい者の話も聞き、グループワークの中で最善のデザインを考え、作品製作ができる。

【授業の内容及び方法】
各自が考えたデザインを製作するにあたり、まず、ミシンに慣れるために小物を製作する。その後、各自でデザインした衣服を製作するか、既製品をより着やすくするためのリフォームを考えても良い。完成作品は、着装してその感想を発表し、今後の課題を考える。

履修上の注意・要望等

福祉デザイン（衣）論を履修済みであること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション ２．福祉デザイン（衣）論で発表したデザインについて、グループワークを行う ３．「２」を受けてより良いデザインを考える ４．ミシン練習　小物製作 ５．ミシン練習　エコバッグ作り１　布裁断 ６．ミシン練習　エコバッグ作り２　持ち手 ７．ミシン練習　エコバッグ作り３　脇・底 ８．ミシン練習　エコバッグ作り４　仕上げ、完成 ９．「３」のデザインを製作１　　製図 １０．「３」のデザインを製作２　布裁断、標付け １１．「３」のデザインを製作３　本縫い１ １２．「３」のデザインを製作４　本縫い２ １３．「３」のデザインを製作５　本縫い３ １４．「３」のデザインを製作６　本縫い４ １５．着装、まとめ	８．１５　レポートを書く １１－１４　各自が考えたデザインで制作するため、それぞれの進度による指導を行う

授業外の学修（予習・復習等）について

エコバッグは、各自製作方法を見ながら製作するため、予習をしておく。その後の各自デザインした衣服やリフォームは、製作方法が異なるので、それぞれの指示に基づき、予習・復習を行う。履修にあたり、自主学修の総時間数は、概ね30時間必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	作品製作（50%）、レポート（30%）、授業への取り組み（20%）により総合的に評価する。
教　　材	教科書　：　プリント配布 参考文献：　高齢者・障害者の衣服
キーワード	小物製作、高齢者、障がい者、衣服のリフォーム

<table>
<tr><th>授業科目名</th><th>単位数</th><th>担当教員（自室番号）</th><th>対象学生</th><th>学　期</th></tr>
<tr><td>パソコン基礎演習</td><td>2</td><td>荻野　真介（322）</td><td>社会福祉学科２年</td><td>前期</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>授業概要・学習の到達目標</th></tr>
<tr><td>【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の習得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ること。</td></tr>
<tr><td>【授業の目標】
この授業では、福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の一つであるエクセルの基礎を身に付けることを目標とする。</td></tr>
<tr><td>【授業の到達目標】
どの分野でもよく使われ、習得することが必須となっているエクセルの基礎を、実用的な例題を実際に作りながら学ぶ。この演習により学生は、エクセルによる四則演算・多様なグラフの作成・アンケートの集計や分析などができるようになる。</td></tr>
<tr><td>【授業の内容及び方法】
まず、簡単な表計算・グラフ作成を家計簿を例にとって学ぶ。次に、データ集計・分析に威力を発揮する度数分布(ヒストグラム)・ピボットテーブル(クロス集計)を学ぶ。その具体的な応用として実践的なアンケート集計・分析を学ぶ。最後に、多くの場面で使用されている役に立つ関数：IF関数とVLOOKUP関数を、実用的なソフトを作りながら学ぶ。</td></tr>
<tr><th>履修上の注意・要望等</th></tr>
<tr><td>初心者を想定して授業をするので、初めての人でも安心して受けられる。エクセルは福祉の分野でも非常に役立つので全員必ず履修すること。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>授　業　計　画</th><th>課題及び授業時間外の学習内容</th></tr>
<tr><td>（１）入門編Ⅰ　エクセルの画面やメニューの説明及び実際の操作
（２）入門編Ⅱ　表計算，グラフ，データベース(並べ替え・抽出)の操作
（３）初級編Ⅰ　例題「家計簿１」による表計算・グラフの作成：円グラフ
（４）初級編Ⅱ　例題「家計簿２」による表計算・グラフの作成：棒グラフ・折れ線グラフ
（５）初級編Ⅲ　例題「家計簿２」による表計算・高度なグラフの作成：混合グラフ・第２軸
（６）中級編Ⅰ　度数分布(ヒストグラム)の基本操作
（７）中級編Ⅱ　ピボットテーブル(クロス集計)１：基本操作
（８）中級編Ⅲ　ピボットテーブル(クロス集計)２：具体例(書店の顧客名簿)を使った集計・分析
（９）中級編Ⅳ　アンケート集計への応用１：リスト入力・単数選択問題と複数選択問題の区別
（10）中級編Ⅴ　アンケート集計への応用２：度数分布とヒストグラムの作成
（11）中級編Ⅵ　アンケート集計への応用３：ピボットテーブルによる集計・分析
（12）中級編Ⅶ　アンケート集計への応用４：卒業研究で実際に使われたデータの集計・分析
（13）中級編Ⅷ　BMI指数による標準体重の計算とグラフ
（14）中級編Ⅸ　if関数
（15）中級編Ⅹ　vlookup関数</td><td>授業中に完成できなかった①～⑮の授業用例題を、完成させること。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>授業外の学修（予習・復習等）について</th></tr>
<tr><td>授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">アクティブ・ラーニングに関する事項</th></tr>
<tr><td>外部機関と連携した課題解決型学習</td><td></td><td>実習、フィールドワーク</td><td></td></tr>
<tr><td>討議（ディスカッション、ディベート）</td><td>○</td><td>ICTを活用した双方向型授業</td><td>○</td></tr>
<tr><td>グループワーク</td><td></td><td>ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）</td><td>○</td></tr>
<tr><td>発表（プレゼンテーション）</td><td></td><td>その他（　　　　　　　　　）</td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価方法</th><td>演習成果・定期試験(実技)の評価に，通常の演習態度を加味して行う。
定期試験：80％・課題：10％・受講態度：10％</td></tr>
<tr><th>教　　材</th><td>教員作成プリント</td></tr>
<tr><th>キーワード</th><td>エクセル、表計算、グラフ作成、データベース、ピボットテーブル、クロス集計、アンケート集計・分析</td></tr>
</table>

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
パソコン演習Ⅰ	2	荻野　真介 (322)	社会福祉学科２年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ること。

【授業の目標】
この授業では、福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の一つであるエクセルの応用を身に付けることを目標とする。

【授業の到達目標】
どの分野でもよく使われ、習得することが必須となっているエクセルの応用を、実用的な例題を実際に作りながら学ぶ。２年前期のパソコン基礎演習の知識を前提とする。

【授業の内容及び方法】
まず、IF関数やVLOOKUO関数を使った簡単な応用ソフト(カロリー計算・運動消費エネルギーの計算・見積書・成績管理など)を作成する。次に、高度な機能であるマクロとプログラミングを応用ソフト(給与計算ソフト・家計簿入力ソフトなど)を作成しながら学ぶ。

履修上の注意・要望等

２年前期の科目：パソコン基礎演習の知識を前提とする。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（１）カロリー計算１：標準体重・基礎カロリー・必要カロリーの計算 （２）カロリー計算２：IF関数を使ったエラーメッセージ処理 （３）運動消費エネルギーの計算 （４）見積書の作成１：商品名・価格などの入力など （５）見積書の作成２：消費税の計算・合計価格の表示・見積有効期限の表示など （６）利子計算(絶対参照の＄に注意する) （７）成績管理：偏差値・「優・良・可・不可」の評価・自動記録マクロによる並べ替え （８）給与計算１：給与一覧表の作成(基本給・残業手当・税金控除など) （９）給与計算２：給与明細表の作成と印刷 (10) 給与計算３：印刷のプログラミングによる制御 (11) コンピュータ注文フォーム１：コンボボックスによるグレードの選択 (12) コンピュータ注文フォーム２：チェックボックスによるオプション選択 (13) 家計簿入力フォーム１：入力画面の作成 (14) 家計簿入力フォーム２：コンボボックスのプログラミングによる制御 (15) まとめ	授業中に完成できなかった①～⑭の授業用例題を、完成させること。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　）	

評価方法	演習成果・定期試験(実技)の評価に，通常の演習態度を加味して行う。 定期試験：80％・課題：10％・受講態度：10％
教　　材	教員作成プリント
キーワード	エクセル、表計算、グラフ、データベース、抽出、ピボットテーブル、ヒストグラム、ＩＦ関数、ＶＬＯＯＫＵＰ関数、給与計算、マクロ、ＶＢＡプログラミング

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
教職論	2	野々上　正成	社会福祉学科２年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】
本授業は教職についての意義並びに教師に課せられた使命・役割について理解を深め、教育への関心と意欲を高めるために行う。

【授業の到達目標】
1　教職について関心を持ち、学校教育の目的や教員の職務内容、服務、研修等の基礎的基本的内容について、調べ考え理解を深め、表現することができる。
2　教師の教育活動を多面的に理解するとともに、教師に求められる資質や能力について考え、自己分析を行い、教職への取り組みや見通しをわかりやすく説明できる。
3　教育への関心と意欲を高め、進路選択に資する一助とすることができる。

【授業の内容及び方法】
1　教職の意義や教員の役割について概説し、受講者が教職への意欲や適性等について多角的に考察する機会を提供し、進路選択の過程を支援する。
2　受講者が、教員の職務内容等について、具体的実践的に理解できるように演習やグループ討議などを行い、当事者としてのイメージを持てるようにする。

履修上の注意・要望等

1　人として、当たり前の行動が当たり前にできること。
2　この講座は、教職課程への導入的性格を持つ科目である。教職について、目的意識を持って真摯に取り組むこと。

授　業　計　画		課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション	教職の意義、教育とは	
２．時代の変化と教師	教師の魅力・生きがい、教育をとりまく環境	2-7　教員としての思い、見方・考えについてレポートを作成する。
３．教職への進路（1）	求められる資質・能力	
４．学校教育と教員の役割	学校教育の目的、教員の使命・・・教育基本法、学校教育法	
５．学校と教職の歴史	学校教育と教職の歴史	
６．教職の特性と教職観	教師像の変遷、教育公務員	
７．教員の職務	職務、教育を担う、学校を担う	8・9　指導案を作成する。
８．教育活動（1）	教育課程と学習指導・生徒指導	
９．教育活動（2）	教科指導、指導と評価（PDCA）	10-14　教育の諸課題・諸問題について考え、レポートを作成する。
１０．教育活動（3）	学級集団づくり、健全育成	
１１．学校組織と教員	学校運営と学校組織マネジメント	
１２．教員の服務と身分	地方公務員法、教育公務員特例法	
１３．教員の資質向上と研修	力量形成、養成・採用・研修	※毎時間、教科書を使用して講義の復習をしておく。
１４．教職への進路（2）	教員養成カリキュラム、免許更新制	
１５．教職への進路（3）	教員採用に向けて	

授業外の学修（予習・復習等）について

1　新聞や雑誌等において扱われる教育や教員に関する記事などに関心を持ち、収集し、感想等をまとめておく。
2　日々の予習・復習、指示された課題や試験対策に積極的に取り組み、加えて休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を概ね３０時間程度自主学習すること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　）	

評価方法	筆記試験（５０％）　課題・レポート（２０％）　小テスト（２０％）　学習態度（１０％）
教　　材	教職論　新井保幸・江口勇治　編著　培風館 必要に応じてプリント配布
キーワード	社会人基礎力、資質能力の育成、学校組織マネジメント、教育実践、アクティブ・ラーニング

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
教育原理	2	遠藤健治（673研究室）	社会福祉学科2年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本講義は、義務教育制度を主とした現在の教育制度について、その成立までの歴史的経緯をふまえたうえで、制度的特質や思想的、理念的意味を学び、加えて関連、内包する諸課題について考察を深めることをめざす。

【授業の到達目標】
受講者は、これから就くであろう教育現場の成り立ちについて理解し、さらにそこでの現在的諸課題解決への糸口を探ることができる。

【授業の内容及び方法】
本講義では、①戦前、日本における義務教育制度成立の経緯と思想的、理念的背景、②戦後教育の原理、およびその思想と理念、③学校の種類、④義務教育制度のしくみ、⑤学校における子ども、⑥学校における教職員を柱として学ぶ。

履修上の注意・要望等

①失格につながる不用意な欠席、遅刻は避ける、②遅刻者、中抜け者の出席は認めない、③指名時に、寝ている者の出席も認めない、④授業態度不良の者は、その場で失格にし、その後の講義への出席は一切認めない。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
(1)ガイダンス (2)戦前、日本における義務教育制度成立の経緯と思想的、理念的背景 (3)戦後教育の原理、およびその思想と理念1――教育法規をめぐる勅令主義と法令主義―― (4)戦後教育の原理、およびその思想と理念2――学習権の保障と日本国憲法および教育基本法―― (5)学校の種類1――義務教育諸学校と学校の設置者―― (6)学校の種類2――設置者管理主義と設置者経費負担主義―― (7)義務教育制度のしくみ1――義務教育制度と就学義務―― (8)義務教育制度のしくみ2――学校設置義務と就学保障義務、避止義務―― (9)学校における子ども1――懲戒と体罰、出席停止―― (10)学校における子ども2――就学をめぐる諸手続―― (11)学校における子ども3――児童虐待防止法と少年法―― (12)学校における教職員1――教職員の名称と職務内容―― (13)学校における教職員2――教員免許状制度の原則と免許状の種類および効力―― (14)学校における教職員3――教育公務員の任免、研修、服務・義務―― (15)学校における教職員4――分限処分と懲戒処分――	(2-14)配布プリントの熟読と復習

授業外の学修（予習・復習等）について

本講義を履修するにあたって、おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して、授業で学修した内容を自主学修すること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	試験(80%)、受講態度(20%)により総合的に評価する。
教　　材	講義に際し、プリントを配付する。参考文献は、田嶋一編著『やさしい教育原理』（有斐閣、2016年）ほか、適宜指示する。
キーワード	教職、学校教育、義務教育、教育の目的および理念、教育の歴史

社会福祉学科 3年

１．教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格	備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉		
導入科目	１年次セミナー	演習	2		○						
共通教養科目	現代生活論	講義		2	○						
	国際社会と日本	講義		2	○						
	地球環境論	講義		2	○						
	人権教育	講義		2	○						
	日本国憲法	講義		2	○				◎		
	調査と統計	講義		2		○					
	心理学概論	講義	2		○						
	日本語リテラシー	講義		2	○						
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1	○						
	ボランティア論（教育系）	講義		1	不開講						
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○	○	○			16
	インターンシップ実習	実習		1	○	○	○	○			17
	ボランティア実習	実習		1	○	○	○	○			18
情報リテラシー科目	情報リテラシーⅠ	演習		2	○					この３科目の中から、２科目４単位以上選択必修	
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				◎		
	情報リテラシーⅢ	演習		2				○			
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○						
	英語Ⅱ	演習	1		○						
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎	この１０科目の中から、２科目２単位以上選択必修	
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎		
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1	○						
	ドイツ語Ⅱ	演習		1	○						
	韓国語Ⅰ	演習		1	○						
	韓国語Ⅱ	演習		1	○						
	中国語Ⅰ	演習		1	○						
	中国語Ⅱ	演習		1	○						
健康スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2	○					この４科目の中から、２科目２単位以上選択必修	
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○						
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎		
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎		
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	－		－	○	○	○	○		通算して４単位まで卒業要件に含めることができる	39
	放送大学科目Ⅱ	－		－	○	○	○	○			39
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	－		－	○	○	○	○			40
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	－		－	○	○	○	○			40
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2	○						
	住まいと福祉	講義		2		○					
	福祉情報コミュニケーション	演習		2		○					
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○						
	数学の基礎	講義		2		○					

【卒業要件】必修科目６単位、選択必修科目８単位以上を含めた計３０単位以上を修得のこと。

【備考１】教員免許欄の◎印科目＝必修科目。

２．専門教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
専門基幹科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2			○			◎	◎		
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○			◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○				▲	◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2				○		▲	◎		97
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○				▲	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2			○			◎	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2		○			▲	◎	必修科目10単位を含め24単位以上を修得のこと	
	介護概論	講義		2	○				◎			
	加齢の理解	講義		2		○			◎			
	障害の理解	講義		2		○			◎			
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2				○				
	NPO・ボランティア活動論	講義		2		○						
	安全・安心のまちづくり	講義		2			○					98
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2		○						
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2		○						
	地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2				○				
専門展開科目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○				◎	◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2			○		▲	◎		99
	社会福祉事業史	講義		2			○					100
	社会保障Ⅰ	講義		2		○			◎	◎		
	社会保障Ⅱ	講義		2		○			◎	◎		
	福祉行財政と福祉計画	講義		2				○	◎	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○				◎	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4		○			▲	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4			○		▲	◎		101
	社会調査の基礎	講義		2			○		▲	◎		102
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○							
	福祉サービスの組織と経営	講義		2			○		▲	◎		103
	権利擁護と成年後見制度	講義		2			○			◎		104
	就労支援サービス	講義		1			○		▲	◎		105
	更生保護制度	講義		1			○			◎		106
	相談援助演習Ⅰ	演習		1		○			◎	◎		
	相談援助演習Ⅱ	演習		1			○		◎	◎		107
	相談援助演習Ⅲ	演習		1			○		◎	◎	必修科目4単位を含め40単位以上を修得のこと	108
	相談援助演習Ⅳ	演習		1				○	◎	◎		
	相談援助演習Ⅴ	演習		1				○	◎	◎		
	社会福祉体験実習指導	演習		1			○					109
	社会福祉体験実習	実習		1			○					110
	相談援助実習指導	演習		3				○	◎	◎		
	相談援助実習	実習		4				○	◎	◎		
	介護実習	実習		1			○		◎			111
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2		○				◎		
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2		○			◎			
	リハビリテーション論	講義		2		○			▲			
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○					◎		
	社会理論と社会システム	講義		2		○				◎		
	医療ソーシャルワーク論	講義		2			○					112
	保健医療サービス	講義		2			○			◎		113
	精神保健	講義		2			○					114
	家庭支援論	講義		2			○					115
	福祉情報論及び同演習	演習		2		○			▲			
	ウェブリテラシー演習	演習		2	未開講							
	福祉のまちづくり基礎演習	演習		2			○					116
	福祉のまちづくり論	講義		2				○				

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
その他の専門科目	衣生活論	講義		2	未開講							
	食生活論	講義		2	未開講							
	家庭経営学概論	講義		2	未開講						含　家庭経済学	
	保育及び家庭看護学	講義		2	未開講						含　保育実習	
	教育心理学	講義		2		○			◎			
	福祉デザイン(衣)論	講義		2		○						
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2		○						
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2			○					117
	パソコン基礎演習	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅰ	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅱ	演習		2	未開講							
	パソコン実践演習	演習		2			○					118
	簿記会計学	講義		2			○					119
卒業研究系	特別演習Ⅰ	演習	2				○					120
	特別演習Ⅱ	演習		2				○				
	特別演習Ⅲ	演習	1					○				
	卒業研究	演習		4				○				

【卒業要件】専門基幹科目24単位以上（必修科目10単位含む）、専門展開科目40単位以上（必修科目4単位含む）、卒業研究系3単位以上（必修科目3単位を含む）及びその他の専門科目を含め、94単位以上修得すること。

【備考】教員免許欄及び福祉士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

３．教職に関する科目

授業科目	授業形態	単位数	配当学年				備考	頁
			1年	2年	3年	4年		
教職論	講義	2		○				
教育原理	講義	2		○				
教育経営論	講義	2			○			121
教育課程論	講義	2			○			122
福祉科教育法	演習	4			○			123
特別活動の指導法	講義	2			○			124
教育方法・技術論	講義	2				○		
生徒・進路指導論	講義	2				○		
教育相談	講義	2				○		
教職実践演習（高）	演習	2				○		
事前事後指導	実習	1				○		
教育実習	実習	2				○		

【備考】教員免許取得希望者は、この欄の全科目を修得すること。

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
地域福祉の理論と方法I	2	小坂田 稔（自室番号:521）	社会福祉学科　3年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの技法を身につけること。

【授業の目標】
地域福祉に関連する基本的な理念・地域福祉理論と知識、根拠法、そして地域福祉実践方法について理解を深める。

【授業の到達目標】
本授業では、地域福祉の基本的理論および実践方法について理解を深めていくことをめざす。この学びを基に地域福祉理論と知識、方法を基にした地域福祉実践ができるようにする。

【授業の内容及び方法】
担当教員が地域福祉現場の経験を持ち、現在も現場実践の指導をしていることから、地域福祉の理論・
知識・実践方法を具体的事例により教授する。講義を主とするが、事例を基にしたグループワークも行う。
毎回、授業内容に沿った資料を配布し、本資料とテキストにより授業を進める。

履修上の注意・要望等

毎回確認テストを配布する。確認テストは、次回の授業までに必ず提出すること。
授業での不明点は、このテストの質問欄に記入すること。
グループワークは、メンバー全員で協力し、一人ひとりが主体的に取り組むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 地域福祉とは何か(1) 　地域福祉の必要性と基本的な考え方(理論、根拠法など) 2. 地域福祉とは何か(2) 　事例を基にコミュニティ・ソーシャルワーク考える 3. 地域福祉の構成要素と予防的福祉活動(3 つの壁へのチャレンジ) 4. 予防的福祉サービス(活動) 　福祉教育の必要性と取り組み方法・・当事者の話から考える 5. ニーズキャッチの必要性と方法 6. ニーズキャッチの仕組み 7. 「組織活動」の必要性と「組織活動」の種類 8. 「組織活動」の原則と組織活動の方法 　事例を基に考える 　地区社協の意味と活動内容 9. 実践的地域包括ケアシステムとは何か(1) 必要な背景・目的・意義 10. 実践的地域包括ケアシステムとは何か(2) 　内容・機能・国の地域包括ケアシステムとの相違 11. 社会福祉協議会の組織目的・活動内容と活動原則 12. 社会福祉協議会の現状・課題とこれからのあり方 　全国社会福祉協議会「社協・生活支援活動強化方針」が示すこれから 13. 地域福祉と権利擁護-日常生活自立支援事業と成年後見制度、権利擁護支援センター活動 14. 「地域共生社会」の意味と地域福祉との関係 15. 事例を基に地域福祉実践を考えてみる	自主的に授業に関係した文献を読んでいくこと。授業後に配布した資料を再読し、疑問点をなくすこと。事例については必ず予習し、授業に臨むこと。 自主学習時間としては 概ね 30 時間程度を目安として確保すること。

授業外の学修（予習・復習等）について

毎回確認テストを配布する。確認テストは、次回の授業までに必ず提出すること。
授業での不明点は、 このテストの質問欄に記入すること。概ね30時間の自主学修が必要である。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	確認テスト(20%)、受講態度・グループワーク内容(20%)、本試験(60%)との総合評価。 但し、本試験の点数が 60 点以上ない場合は不可とする。
教　　材	教科書:新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』中央法規出版 その他:社会福祉小六法・毎回の授業時に配布するレジメ資料
キーワード	2つの生活けん 3 つの壁 4 つの力 組織活動　社会福祉法 実践的地域包括ケアシステム 社会福祉協議会 コミュニティ・ソーシャルワーク 地域共生社会　福祉コミュニティ

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
安全・安心のまちづくり	2	大西　一嘉	社会福祉学科3年	前期集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの知見を養うこと。

【授業の目標】
安全・安心を脅かす要因としての加害力となる各種の災害事象への理解を深めると共に、被災側の地域空間や地域社会とそこに暮らす人々、とりわけ高齢者や障がい者といった、災害時において特別な配慮や支援を必要とする人々の脆弱性がどのように増大し、危機的な状況に至るかについて構造的に把握することで、地域の安全や安心確保のための理論と手法を実際に即して学ぶ。

【授業の到達目標】
①地域空間における火災や地震、事故などの災害外力による破壊と被災のメカニズムの理解。
②被害を軽減する技術や手法を学び，日常生活の中における具体的行動として説明できる。
③地域を巡る様々なリスクやハザードに対処する、社会の防災力向上のための道筋を思い描く事ができる。
④危険な状態を回避するための、安全安心のまちづくりにおける各種意思決定の得失を評価できる。

【授業の内容及び方法】
前半は講義を中心に進める。後半になると災害に関するビデオ教材を視聴した後に、テーマを決めてグループディスカッションを行い、議論の成果を発表するなどのアクティブ・ラーニングも取り入れて行う。

履修上の注意・要望等

復習をしっかりと行い、自ら授業に参画する心構えで、臨んでほしい。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１）都市の成立と安全 ２）災害の定義 ３）福祉のまちづくり ４）防災と福祉（災害時要援護者） ５）ビル火災 ６）福祉施設の火災安全 ７）グループ討論（障がい者の防火対策） ８）火災図上演習（ＦＩＧ） ９）避難と情報 10）正常化の偏見 11）災害対応とタイムライン 12）災害救助 13）福祉避難所 14）津波災害 15）グループ討論（何が生死を分けたか）	本講義専用ノート（Ｂ５判）に、講述内容と共に、各自が興味を持ったテーマについて授業後に各種情報を収集してノート内容を充実させる。最後に学修の記録として提出。

授業外の学修（予習・復習等）について

本講義専用ノート（Ｂ５判）に、講述内容と共に、各自が興味を持ったテーマについて授業後に各種情報を収集してノート内容を充実させること。最後に学修の記録として提出をする。この授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の学修時間が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　）	

評価方法	講義ノート（70%）、小テスト（20%）、受講態度（10%）により総合的に評価。 評価基準は、以下の諸点。①講義内容の整理、②内容の理解の正確さ、③聞き取る力、④関連学修の成果、⑤自分の意見や考え方が具体的に示されているか。
教　　材	配布資料 参考文献：①「高齢者福祉施設の夜間火災時の防災・避難マニュアル」、大西一嘉他（日本防火技術者協会），近代消防社、②「大都市の社会基盤整備」，松澤敏雄編、東京大学出版会、③「建築防災・安全」室崎益輝，鹿島出版会、④「防災学原論」ベン ワイズナー他，築地書館
キーワード	福祉、安心、安全、災害、リスク、ハザード、災害時要援護者、火災、水害、地震、津波、避難、災害救助法、まちづくり

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
地域福祉の理論と方法II	2	小坂田 稔（自室番号:521）	社会福祉学科 3年	後期

授業概要・学習の到達目標
【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】 地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの技法を身につけること。
【授業の目標】 地域福祉に関連する理念・地域福祉理論と知識、そして地域福祉実践方法について理解を深める。
【授業の到達目標】 「地域福祉の理論と方法I」の学び等を基にして、具体的事例検討やグループワークを行い、地域コミュニティ・ソーシャルワークを基にした地域福祉実践ができるようにする。
【授業の内容及び方法】 担当教員が地域福祉現場の経験を持ち、現在も現場実践の指導をしていることから、具体的実践事例を基にして地域福祉理論・知識・実践方法を教授する。講義を主とするが、グループワークを加える。 毎回、授業内容に沿った資料を配布し、本資料とテキストにより授業を進める。

履修上の注意・要望等
「地域福祉の理論と方法I」の履修が必要。毎回確認テストを配布する。確認テストは、次回の授業までに必ず提出すること。 授業での不明点は、このテストの質問欄に記入すること。 グループワークは、メンバー全員で協力し、一人ひとりが主体的に取り組むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 地域福祉と共同募金 　共同募金の歴史・目的・意義・内容 2. 地域福祉と民生委員・児童委員 　民生委員・児童委員の歴史・役割・活動内容 3. 地域福祉における福祉施設の役割 　施設の地域化の意味・社会福祉法人の地域公益事業の意義 4. 施設の地域化の考えを基に理想の福祉施設を設計する(1)(グループワーク) 5. 同 上(2)・・・設計施設のプレゼンテーション(グループ発表) 6. 「7 人の若者が取り組んだ福祉施設づくりの物語」を通して地域福祉での福祉施設の役割を考える 7. 環境改善活動の必要性と意義、方法 8. 大学内の施設点検活動に取り組んでみる(グループワーク) 　点検結果を基に物理的環境改善活動の意味とソーシャルアクションの方法を理解する 9. 地域福祉と福祉委員(福祉委員の役割・活動内容) 10. 地域福祉における社会資源の意味と役割 　事例を基に社会資源の必要性と活用方法を考える(グループワーク) 11. 事例を基にコミュニティソーシャルワークの展開を考える(グループワーク) 12. 地域福祉計画・地域福祉活動計画の意義・種類、地域福祉推進に果たす役割 13. 地域福祉計画・地域福祉計画策定策定の様々な手法 14. 地域福祉の歴史(わが国の地域福祉) 15. 地域福祉の歴史(海外の地域福祉)	自主的に授業に関係した文献を読むこと。配布した資料を必ず再読し、疑問点をなくすこと。 グループワークについては、授業外も含めて主体的に参加すること。 自主学習時間としては、グループワークを含めて概ね 30 時間程度を目安として確保すること。 4.5.10.11.グループワーク 8.点検票と改善要望書の作成

授業外の学修（予習・復習等）について
配布した授業資料を基にしっかりと復習しておくこと。自主学習時間としては、グループワークを含めて概ね 30 時間程度を目安として確保すること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　）	

評価方法	確認テスト(20%)、受講態度及びグループワーク参加状況・発表内容(20%)、本試験(60%)との総合評価。 但し、本試験の点数が 60 点以上ない場合は不可とする。
教　　材	教科書:新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法』中央法規出版 その他:社会福祉小六法・毎回の授業時に配布するレジメ資料
キーワード	共同募金 民生委員児童委員 福祉委員 環境改善活動 社会資源 コミュニティソーシャルワーク 地域福祉計画 社会福祉法人の地域公益事業 ソーシャルサポートネットワーク

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
社会福祉事業史	2	石飛猛	社会福祉学科３年	前　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
本授業は、17世紀以降の社会福祉の制度・実践活動・思想を、資本主義の発展段階と対応させながら理解することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生は、社会保障・社会福祉の歴史について説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】
17世紀以降の英国の社会福祉の制度・実践活動・思想の歴史を概説し、図表を多用して、学生との対話を重視しながら理解を深める。

履修上の注意・要望等

厚生労働省からの新着情報配信サービスの受信設定を行い、必要な情報をパソコンに保存し活用できるようにすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 貧困問題の発生と旧救貧法　　英国1601年法 2. 産業革命と社会問題 3. 新救貧法の成立　救貧法の人道主義化、産業革命、1834年原則、ＪＳミル、 4. 民間部門の役割　慈善、セツルメント、リッチモンドのソーシャルワーク 5. 社会主義の台頭　ユートピア社会主義、マルクス主義、フェビアン主義、ドイツの社会国家 6. 救貧法の廃止と擁護をめぐる対立　ビアトリス・ウェブ、平行棒・振出理論、少数派報告 7. 社会立法の動き　　ドイツ社会保険　貧困調査　英国自由改良主義、米ニューディール政策 8. ベヴァリッジ体制の確立　　社会保障制度の3つの方法、福祉国家体制 9. ベヴァリッジ体制の展開　　福祉国家のゆらぎ、貧困の再発見 10. パーソナルソーシャルサービス形成と展開　ﾔﾝｸﾞﾊｽﾞﾊﾞﾝﾄﾞ、シーボーム、バークレイ報告 11. コミュニティケア改革　サッチャリズム、グリフィス報告、ワグナー報告、福祉多元主義 12. 近年のイギリスにおける福祉改革 13. 第2次大戦前の日本の慈善　社会事業　民間慈善活動、感化救済事業、救護法、方面委員、厚生事業 14. 第2次大戦後の日本の社会福祉　占領期、皆保険・皆年金、福祉６法、社会保障運動、福祉見直し 15. 2000年以降の日本の社会福祉	WebClassに指示・掲載する文献・資料を読んでおくこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

新聞記事を毎日見ること。
この授業を履修するにあたっては、概ね30時間の自主学習を行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　）	

評価方法	定期試験（50%）、提出課題（30%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。
教　　材	教科書　：『社会福祉のあゆみ』金子光一著 2005年 有斐閣 参考文献：『福祉の経済思想家たち』増補版 小峯敦編 2012年 ナカニシヤ出版
キーワード	産業革命、福祉国家、新自由主義、社会福祉基礎構造改革、社会保障と税の一体改革、ワークフェア、福祉多元主義、コミュニティケア

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助の理論と方法Ⅱ	4	堀川涼子（527）	社会福祉学科３年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
　ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
　本授業は、社会福祉士の主要な業務である相談援助について、その援助技術と理論モデルを理解することを目標とする。

【授業の到達目標】
　学生がソーシャルワークの知識・価値・技術の習得をめざし、専門職として活用できるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
　相談援助における人と環境との交互作用、相談援助の展開過程、相談援助のための様々な技術等を学ぶ。
授業方法は、講義を主とするが、途中、ＤＶＤ等の視聴覚教材を使用したり、グループワークを取り入れたりして授業を行う。

履修上の注意・要望等

　ソーシャルワーカー（社会福祉士）になるための必要不可欠な科目のため、履修すること。
「相談援助の理論と方法Ｉ」を履修していないと「相談援助の理論と方法Ⅱ」を履修できないため、注意すること。

授　業　計　画

1．社会福祉援助活動の概念と定義
2．相談援助の対象
3．グループワークの意義
4．グループワークの展開過程
5．事例を基にしたグループワーク基礎①
6．事例を基にしたグループワーク応用②
7．ケアマネジメントの基本
8．ケアマネジメントの展開過程
9．事例を基にしたケアマネジメント基礎①
10. 事例を基にしたケアマネジメント応用②
11. コーディネーションの目的と意義
12. コーディネーションの方法・技術
13. ネットワーキングの意義と目的
14. ソーシャル・サポート・ネットワーク
15. 地域福祉を推進するためのネットワーキングと地域包括ケアシステム
16. ｼﾞｪﾈﾗﾘｽﾄ･ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの展開と実践ﾓﾃﾞﾙ
17. 実践モデルとアプローチ①
　機能的ｱﾌﾟﾛｰﾁと心理社会的ｱﾌﾟﾛｰﾁ
18. 実践モデルとアプローチ②
　問題解決ｱﾌﾟﾛｰﾁと課題中心ｱﾌﾟﾛｰﾁ
19. 実践モデルとアプローチ③
　その他のｱﾌﾟﾛｰﾁ
20. 実践モデルとｱﾌﾟﾛｰﾁをめぐる課題
21. スーパービジョンの意義と目的
22. スーパービジョンの方法と留意点
23. コンサルテーションの意義と目的
24. ケースカンファレンスの意義と目的
25. ケースカンファレンスの運営と展開過程
26. 相談援助における個人情報の保護
27. 相談援助における情報通信技術の活用
28. 事例研究・分析①対象者別
29. 事例研究・分析②課題別
30. 相談援助の実際

課題及び授業時間外の学習内容

授業で出てきた制度･サービスについては、各自ノートを作り、調べてまとめておくこと。

課題に出た事例について、必要な情報を調べ、活用できる社会資源（制度･ｻｰﾋﾞｽ等）を調べ、支援方法を検討すること。

授業外の学修（予習・復習等）について

　授業中の事例に出てきた、これまで習った制度サービスについては、その都度、各自予習・復習行うこと。さらに、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して、概ね30時間程度の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　ＤＶＤによる映像を取り入れた授業　）	○

評価方法	試験（80％）・レポート（10％）・受講態度（10％）により総合的に評価する。
教　　材	社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版 および　授業中に配布するプリント
キーワード	相談援助　　　ジェネラリスト・ソーシャルワーク　　ソーシャルワーク実践モデル

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
社会調査の基礎	2	有岡道博（529）	社会福祉学科3年生	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
本授業では、社会福祉専門職にとって必要不可欠の理論・技術である社会調査を学ぶ事を目的とする。学生は、地域の生活問題・課題、要擁護者のニーズなどを的確に把握し、分析していくために必要となる社会調査の知識と技術の習得を目指していく。

【授業の到達目標】
社会調査の基礎知識を身に付けたうえで、実際の地域の課題について調査することができ、その結果を分析してまとめをプレゼンテーションすることができる。

【授業の内容及び方法】
教科書を学んでいくだけではなく、実際の社会調査の資料を基としてグループ討議を行たり、地域の社会資源を利用した調査の演習を行う。また、情報処理室を利用して、調査結果の処理・分析を行う。

履修上の注意・要望等

社会福祉援助技術としての社会調査の理解・習得は、ソーシャルワーカーにとっては不可欠である。そのことを理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
(1)　社会福祉と社会調査 (2)　社会調査の概要　社会調査の意義と目的、対象と方法 (3)　社会福祉調査の基本的性格と種類　平均の意味 (4)　社会福祉調査の基本的性格と種類　分散と標準偏差 (5)　社会福祉調査の基本的性格と種類　ｔ検定とχ二乗検定 (6)　量的調査とその方法　量的調査の特徴と種類 (7)　量的調査とその方法　調査票の作成方法と留意点データの解析方法 (8)　質的調査とその方法　質的調査の特徴と種類　対象者の選定と調査手続き (9)　質的調査とその方法　調査方法　質的調査の実施とデータ収集　データの整理と分析 (10)　社会調査実習「地域の課題を探る」 (11)　社会調査実習「地域の課題を探る」 (12)　社会調査実習「地域の課題を探る」 (13)　社会調査実習「地域の課題を探る」 (14)　社会調査実習「地域の課題を探る」 (15)　社会調査のまとめ（調査実習報告会）（実習）	（2）～（9）事前に学習予定分の確認テストを提出する。 （10）～（14）は地元の地域を対象としてグループで調査実習を行なう。そして調査の報告書を作成する。 （15）地域の方を招待して実習調査の報告会を行なう。プレゼンテーションはもとより、準備・進行・片付けまで学生で行なう。

授業外の学修（予習・復習等）について

毎回必ず確認テスト（30分程度）で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次回の授業日までに必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認（30分程度）を授業後に行うこと。（計30時間程度）

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　）	

評価方法	確認テスト（20%）および受講態度（20%）、定期試験（60%）等との総合評価とする。
教　　材	「新・社会福祉士養成講座『社会調査の基礎』」・中央法規出版　毎回、要点を整理したレジメを配付する。
キーワード	平均　分散　標準偏差　量的調査　質的調査　相関係数

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉サービスの組織と経営	2	有岡道博（529）	社会福祉学科3年生	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
社会福祉サービスに関わる組織や団体には様々なものがあり，それぞれ異なる組織内容を持っている。本授業では、社会福祉専門職として必要な知識として、それぞれの組織・団体の定義や役割、運営のやり方を理解する。

【授業の到達目標】
社会福祉サービス事業の運営に必要とされる経営管理の理論と方法・知識を修得し、就職後の実践にそれらを活かすことができる。

【授業の内容及び方法】
教科書を中心として授業を進めていくが、新聞や経済雑誌などの記事、テレビやインターネットの情報をもとにグループ討議を行たり、シュミレーションゲームを利用した経営体験を行い、経営についてより理解を深める。

履修上の注意・要望等

社会福祉援助技術としての福祉サービスの組織と経営の理解・習得は、ソーシャルワーカーにとっては
不可欠である。そのことを理解し、授業に臨むこと。グループ課題もあるので、各自積極的な姿勢で協力していくこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1　福祉サービスにおける組織と経営 2　福祉サービスに関わる組織と団体(1)　法人とは 3　福祉サービスに関わる組織と団体(2)　社会福祉法人とは 4　福祉サービスに関わる組織と団体(3)　NPO法人とは 5　福祉サービスに関わる組織と団体(4)　医療法人とは 6　福祉サービスに関わる組織と団体(5)　営利法人とは 7　福祉サービスに関わる組織と団体(6)　公益法人とは 8　福祉サービスに関わる組織と団体(7)　市民団体、協同組合、自治会とは 9　福祉サービス組織と経営の基礎(1)　戦略、事業計画 10　福祉サービス組織と経営の基礎(2)　組織、管理運営の基礎理論 11　社会福祉法人を作ってみよう（演習） 12　サービス管理(2)　苦情対応とリスクマネジメント 13　人事管理と労務管理　人事管理と労務管理、人材育成 14　会計管理と財務管理 15　経営学演習（演習）	（2）～（10）事前に学習予定分の確認テストを提出する。 (11) グループワークを行い、社会福祉法人の設立を計画する。そしてプレゼンテーションを行なう。 （15）経営学のシュミレーションゲームを利用して経営者体験を行なう。

授業外の学修（予習・復習等）について

毎回必ず確認テスト（30分程度）で予習を行うのでしっかりと履修しておくこと。確認テストは、次回の授業日までに必ず提出すること。授業で不明の点は、このテストの質問欄に記入すること。復習については、レジメ資料などの確認（30分程度）を授業後に行うこと。（計30時間程度）

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　）	

評価方法	確認テスト（20%）および受講態度（20%）、定期試験（60%）等との総合評価とする。
教　材	「新・社会福祉士養成講座『福祉サービスの組織と経営』」中央法規出版　毎回、要点を整理したレジメを配付する。
キーワード	経営管理　マネージメント　イノベーション　社会福祉法人　事業計画　戦略

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
権利擁護と成年後見制度	2	菅原　明美（213）	社会福祉学科3年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人権尊重の価値と倫理に基づく社会福祉の援助観を理解し、福祉ニーズを有する人の立場に立ち、その想いや暮らしに寄り添いながら援助を組み立て、実践できること。

【授業の目標】
本授業は、社会福祉の基礎となる権利擁護について体系的に学び、成年後見制度の仕組みについて理解することである。特に判断能力が低下した人の生命と財産を守るための制度について深め、専門職として必要な社会的責務を身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
１．福祉専門職として基本的な法的知識を理解し、説明できる。
２．福祉専門職として権利擁護の仕組みを理解し、説明できる。
３．成年後見制度の仕組みと課題を理解し、説明できる。

【授業の内容及び方法】
成年後見制度の法的根拠を理解し、実践に生かせる力が獲得できるよう、具体的事例を用いて学習し、総合的に成年後見制度を理解するための講義とグループワークを行う。

履修上の注意・要望等

毎回，授業のおわりに小レポートの提出を求める

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. オリエンテーション，相談援助活動において想定される法律問題 2. 相談援助活動と法の関わり①：日本国憲法と人権 3. 相談援助活動と法の関わり②：行政法の理解 4. 相談援助活動と法の関わり③：民法の理解 5. 成年後見制度についての理解①：成年後見制度の概要 6. 成年後見制度についての理解②：法定後見における類型と特徴 7. 成年後見制度についての理解③：成年後見人の義務と責任 8. 成年後見制度についての理解④：成年後見制度の最近の動向 9. 日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業 10. 権利擁護にかかわる組織、団体 11. 権利擁護にかかわる専門職の役割 12. 成年後見活動、権利擁護活動の実際：事例研究「児童虐待」 13. 成年後見活動、権利擁護活動の実際：事例研究「高齢者虐待」 14. 成年後見活動、権利擁護活動の実際：事例研究「多問題重複ケース」 15. 社会福祉士と権利擁護、まとめ	９．ＤＶＤを観て、グループワークを行う。 11. 外部講師（成年後見人）による講演とグループワーク

授業外の学修（予習・復習等）について

・予習用の資料に目を通し、事前学習を進めること。教科書や配布資料を再読し、理解を深めること。
・日々の予習・復習や試験対策に加えて、休日等を利用し概ね30時間の自主学修を要する。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　）	

評価方法	定期試験（80％）、提出課題（10％）、受講態度（10％）
教　　材	教科書：新・社会福祉養成講座『１９　権利擁護と成年後見制度』（中央法規出版株式会社） 参考文献：社会福祉小六法　資料等適宜配布
キーワード	権利擁護、日本国憲法、行政法、民法、成年後見制度、日常生活自立支援事業

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
就労支援サービス	1	薬師寺明子（520） 武田英樹（523）	社会福祉学科３年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
「就職困難者」といわれる人への就労におけるさまざまな政策的課題や問題等について解決できるよう施策、サービス等について学ぶ。

【授業の到達目標】
様々な背景のある「就職困難者」といわれる人々の理解とともに、労働問題、雇用問題を理解する。また、福祉的就労支援施策について理解する。

【授業の内容及び方法】
雇用・就労の動向を理解するとともに、ソーシャルワークにおいて必要となる各種の就労支援制度、組織、団体、専門職、各関係機関との連携について講義を通して学ぶ。

履修上の注意・要望等

社会福祉士国家試験受験資格に必要な科目である。履修要項及び相談援助実習の手引きをよく確認すること。
講義回数は８回であるため、講義日程及び試験については掲示にて指示する。確認すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション・働くことの意味と社会福祉士の役割（武田） ２．低所得者と就労支援①　生活保護受給世帯への就労支援（武田） ３．低所得者と就労支援②　生活保護受給世帯等への就労支援と生活福祉資金貸付制度（武田） ４．低所得者と就労支援③　児童扶養手当受給世帯への就労支援（武田） ５．障害者と就労支援①　障害者の就労の現状（薬師寺） ６．障害者と就労支援②　障害者福祉施策における就労支援（薬師寺） ７．障害者と就労支援③　障害者雇用施策における就労支援（薬師寺） ８．障害者と就労支援④　特別支援学校における就労支援・民間の取り組み（薬師寺）	２－４．低所得者に対する就労支援について理解する。 ５－８．障害者に対する就労支援について理解する。

授業外の学修（予習・復習等）について

事前にテキストを読んでおくこと。専門用語や制度等については随時確認するとともに約30時間程度の自主学修を行うこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　）	

評価方法	受講態度（20％）・定期試験（80％） なお、定期試験の成績が６割未満の場合は不可となる。
教　　材	就労支援サービス　（中央法規出版） 随時配布する資料
キーワード	就労支援制度・自立支援プログラム・就労支援プログラム・障害者総合支援法・障害者雇用促進法

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
更生保護制度	1	坂手康祐	社会福祉学科3年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
この授業では、刑事政策の一翼を担う更生保護制度が、その根底において社会福祉政策に包摂されるものであることを理解することを目標とする。

【授業の到達目標】
保護観察対象者や更生緊急保護対象者の中に、福祉的措置を必要とする人が多くいることを理解し、少年非行の背後に、発達障害や虐待の問題が潜んでいること等を理解することによって、更生保護が社会福祉に包摂されていることを理解する。

【授業の内容及び方法】
授業は全編講義形式で行うが、途中、学生諸君の理解度を確認するため、社会福祉士国家試験の過去問等の施行も考えている。

履修上の注意・要望等

社会福祉六法を用意すること（小六法は不可）及び授業には必ず持参すること

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（１）刑事司法手続きと更生保護制度の概要 （２）仮釈放制度と生活環境調整 （３）保護観察総論 （４）保護観察各論 （５）更生緊急保護 （６）犯罪被害者等施策・恩赦 （７）更生保護制度の担い手・犯罪予防活動 （８）精神保健観察	（１－８）教科書の該当箇所を精読すること

授業外の学修（予習・復習等）について

授業で使用する教科書（該当箇所）を必ず読んで授業に臨むこと。その際には社会福祉六法を開き、該当法律にあたること。出来得れば、毎日新聞に目を通し、刑事事件記事を一読し、事件の背後に潜む事情や、被疑者のその後の処遇等についても考えてみること。おおむね１５時間の自主学習が必要である。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　）	

評価方法	学習態度５０％、課題レポート５０％で評価する。
教　　材	更生保護入門第4版　出版社＝成文堂　　参考書：犯罪白書
キーワード	司法福祉 更生保護　保護観察　更生緊急保護　更生保護事業　社会内処遇　精神保健観察

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助演習Ⅱ	1	○新谷芳子・小坂田稔 堀川涼子・菅原明美	社会福祉学科3年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する社会福祉援助技術について理解し、実践できるよう身につけること。

【授業の目標】
これまで学んできた相談援助について、演習を通して相談援助実践の価値・知識・技術を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
1. クライエントやクライエントの環境を理解するための面接ができるようになる。
2. ソーシャルワークの展開過程およびミクロ、メゾ、マクロのそれぞれの実践レベルを理解し、実践レベルに応じた介入が提示できるようになる。
3. 学生相互の演習を通して、自己を再発見し対人関係上必要なスキルを身につけることができる。

【授業の内容及び方法】
4グループに分かれ、それぞれのテーマを担当する教員により、ロールプレイやグループ・ディスカッション、マッピング技法を通して実践力を養えられるようにする。その際、相談援助事例を用いて総合的かつ包括的な援助について検討し、多様な考え方を共有できるようにする。場合によって2コマ連続になることがある。

履修上の注意・要望等

グループ討議や体験学習を主とするため積極的に参加すること。前期Ⅱ・後期Ⅲは連動しており基本的に両方を受講し、グループによってテーマ（前期Ⅱ・後期Ⅲ）の中で順番が変更するため注意すること。遅刻・欠席のないようにすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. オリエンテーション 2. 基本的なコミュニケーションと面接の基礎 3. 面接を展開する技法（ロールプレイ） 4. ケースワークの展開過程（インテーク）の演習① 　（事例によるグループ・ディスカッション） 5. ケースワークの展開過程（インテーク）の演習② 　（演習①をもとにしたロールプレイ） 6. ケースワークの展開過程（アセスメント）の演習（ロールプレイ） 7. ケースワークの展開過程（プランニング）の演習（グループディスカッション） 8. ケースワークのまとめ　プランニングの発表 9. グループワークの基本構想の設定 10. グループワークの展開過程（準備期：波長合わせ）の演習 11. グループワークの展開過程（開始期：メンバーとの援助関係の形成）の演習 12. グループワークの展開過程（作業期：グループづくりへの始動）の演習 13. グループワークの展開過程（作業期：相互援助システムの形成）の演習 14. グループワークの展開過程（作業期：相互援助システムの活用）の演習 15. グループワークの展開過程（終結・移行期：グループワークの評価）の演習	(4-6)グループワークで討議、その内容を講義中にロールプレイをする。 (7)ワークシート作成

授業外の学修（予習・復習等）について

授業内で出された課題に個人やグループで調べ、取り組むこと。また、講義後は配布された資料を熟読し、休日や長期休業期間などを利用して自主学習すること。その時間は概ね30時間とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	授業への参加態度(50%)、課題レポート等の提出物(50%)による総合評価
教　　材	毎回プリント等を用意する
キーワード	面接技術、ケースワーク、グループワーク

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助演習Ⅲ	1	○新谷芳子・小坂田稔 堀川涼子・菅原明美	社会福祉学科3年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する社会福祉援助技術について理解し、実践できるよう身につけること。

【授業の目標】
これまで学んできた相談援助について、演習を通して相談援助実践の価値・知識・技術を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
1. クライエントやクライエントの環境を理解するための面接ができるようになる。
2. ソーシャルワークの展開過程およびミクロ、メゾ、マクロのそれぞれの実践レベルを理解し、実践レベルに応じた介入が提示できるようになる。
3. 学生相互の演習を通して、自己を再発見し対人関係上必要なスキルを身につけることができる。

【授業の内容及び方法】
4グループに分かれ、それぞれのテーマを担当する教員により、ロールプレイやグループ・ディスカッション、マッピング技法を通して実践力を養えられるようにする。その際、相談援助事例を用いて総合的かつ包括的な援助について検討し、多様な考え方を共有できるようにする。場合によって2コマ連続になることがある。

履修上の注意・要望等

グループ討議や体験学習を主とするため積極的に参加すること。前期Ⅱ・後期Ⅲは連動しており基本的に両方を受講し、グループによってテーマ（前期Ⅱ・後期Ⅲ）の中で順番が変更するため注意すること。遅刻・欠席のないようにすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1.ケアマネジメントの目的と意義・展開過程 2.ケアマネジメントの理解①　インテーク面接（ロールプレイ） 3.ケアマネジメントの理解②　アセスメント面接（ロールプレイ） 4.　ケアプランの作成①　ケアプランについて講義・演習 5.　ケアプランの作成②　事例をもとにグループ演習 6.　ケアカンファレンスの理解　講義と事例をもとに演習 7.　ケアカンファレンスの実際（ロールプレイ） 8.コミュニティワークの目的と意義 9.コミュニティワークの展開過程 10.コミュニティワークの理解・事例を通して①　個別支援の検討 11.コミュニティワークの理解・事例を通して②　社会資源の活用と開発 12.コミュニティワークの理解・事例を通して③　福祉教育の具体的展開 13.事例研究①　障害者の事例を基に考える 14.事例研究②　高齢者の事例を基に考える 15.まとめ	（1-7）これまでの相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱの授業内容を復習して、演習に生かせるように自主学習をして授業に臨む。 (2-3,4-6)事例に基づき、必要な制度･サービスを調べる。さらに次の授業までにグループで支援計画を立てる。 (10-14)グループごとの検討となるため、各自が事例について事前に必要な制度・サービスについて調べて、授業に臨むこと。発表については、時間外にグループでしっかりと準備すること。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業内で出された課題に個人やグループで調べ、取り組むこと。また、講義後は配布された資料を熟読し、休日や長期休業期間などを利用して自主学習すること。その時間は概ね30時間とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	授業への参加態度(50%)、課題レポート等の提出物(50%)による総合評価
教　　材	毎回プリント等を用意する
キーワード	面接技術、ケアマネジメント、コミュニティ・ソーシャルワーク、社会資源

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
社会福祉体験実習指導	1	有岡道博（529）	社会福祉学科3年生	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
社会福祉士の主要技術である相談援助を身に付けるため、相談援助実習に際し、少人数での実習事前オリエンテーションおよび実習事後スーパービジョンを行う。

【授業の到達目標】
①社会福祉施設・機関における相談援助業務②ソーシャルワークの本質（専門的価値・知識・技術の学習等）③将来専門職者としての資質を培えるよう専門職者としての倫理観を学ぶことにより、実習現場での学びを深めることができ、事後学習を通して4年次の実習に備えることができる。

【授業の内容及び方法】
実習の事前及び事後に、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けてのスーパービジョン（個別・グループ）を行う。また、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても学習する。

履修上の注意・要望等

社会福祉体験実習指導Ⅰは、社会福祉体験実習と連動して単位認定する。原則として遅刻・欠席は認めない。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．　実習に際してのオリエンテーション ２．　実習施設・機関の制度理解① ３．　実習施設・機関の制度理解② ４．　実習施設・機関の利用者理解 ５．　実習施設・機関の職員・職場理解 ６．　実習目的と目標設定 ７．　実習直前オリエンテーション ８．　実習事後スーパービジョン　実習の報告①（ＰＰ作成） ９．　実習事後スーパービジョン　実習の報告②（ＰＰ作成） １０．　実習事後スーパービジョン　実習の課題について①（実習記録を基に） １１．　実習事後スーパービジョン　実習の課題について②（実習記録を基に） １２．　実習事後スーパービジョン　実習での自己覚知について①（グループ討議を基に） １３．　実習事後スーパービジョン　実習での自己覚知について②（グループ討議を基に） １４．　実習事後スーパービジョン　実習報告書の作成について １５．　社会福祉体験実習のまとめ	（1）～（15）まで実習分野に分かれて小集団で行なう。但し（1）と（7）は前半集団で実習のオリエンテーションを行なう。また、随時プレゼンテーションやグループワークを行い、学びを深めていく。 (15) 最終回までに社会福祉体験実習のまとめを行い。実習報告書を作成する。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業前後の予習・復習は必ず行うこと。（各30分程度　計15時間程度）最終的に実習報告書を作成して提出すること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	受講態度（50%）・記録（25%）・報告（25%）等で総合評価する。
教　　材	本学科作成「相談援助実習の手引き」、学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする。資料等は必要に応じてその都度、配布する。
キーワード	相談援助実習　社会福祉援助技術　スーパービジョン

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
社会福祉体験実習	1	○有岡道博・堀川涼子・小坂田稔・菅原明美・武田英樹・田中涼・薬師寺明子（527他）	社会福祉学科3年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
社会福祉士指定科目としての相談援助実習の前段階において、実習の前後に事前および事後の学習を受けるための授業であり、社会福祉専門職としての業務を体験的に学習することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生が現場の実践に触れ、社会福祉専門職の幅広い多様な課題を知ることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
実習分野ごとに各担当教員に分かれて開講する。実習においては、ソーシャルワーク実践の他、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等について体験しながら学習する。
実習時間は40時間以上とする。大学においては、実習の事前及び事後に、スーパービジョン（個別・グループ）を行い、次年度の相談援助実習に向けて知識・技術・価値等を学習する。実習報告書の作成・提出をもって修了とする。

履修上の注意・要望等

社会福祉体験実習指導Ｉと連動して単位認定を行う。遅刻・欠席は認めない。積極的な態度で臨むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
「社会福祉体験実習」（40時間以上）を実習指定施設・機関等において行う。夏季休暇中を利用して、それぞれ担当教員の下、前期に事前学習をした内容及びこれまでの講義･演習を踏まえて実習を行なうことにより、社会福祉専門職に必要な知識と価値観を体験的に学ぶ。 事後に実習報告書の作成等一連の課題を行うことで、福祉実践力を身につける。 １．　オリエンテーション ２．　実習施設・機関の理解 利用者やその家族等の理解 ３．　制度・サービスの理解 ４．　地域社会とのかかわりの理解 ５．　実習報告書の作成	実習指導は受身ではなく、自ら主体的に学ぶことが基本なため、実習に必要な知識・技術・価値倫理について適宜学ぶこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

実習に向けて各自、必要な自主学修を行い実習準備について怠らない。実習日誌は日々作成すること。概ね30時間程度の自主学修を必要とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	課題の作成・発表（30％）、受講態度（40％）、記録・報告（30％）により総合的に評価する。
教　　材	「相談援助実習の手引き」、資料等は必要に応じてその都度、配布する。 学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする。
キーワード	相談援助技術　　相談援助実習　　相談援助実習指導　　相談援助実習指定施設・機関等

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
介護実習	1	武田英樹(523)	社会福祉学科３年 （原則　教職志望者）	後期集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
少人数教育により、専門分野の研究会参加や現場体験を重視し、社会福祉士として必要な現場対応力、実践力を身につけること。

【授業の目標】
本授業は福祉分野の現場体験を重視し、福祉専門職に必要な現場対応力、実践力を修得できる展開とする。

【授業の到達目標】
学生は下記の項目についての能力を身につけることを目指す。
1. 福祉施設・機関の種類、役割やその施設・機関の利用者対象者について説明できる。
2. 実際の介護現場での体験から、介護現場の置かれている現状や課題を分析できる。

【授業の内容及び方法】
福祉教育に必要な介護現場の知識について、具体的な事例を交えながら学習していきます。また、基本的な介護技術も習得していきます。

履修上の注意・要望等

履修対象は原則、教職希望者。遅刻・欠席のないようにしてください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
【授業の計画】 1. 実習事前学習　①介護実習オリエンテーション 2. 実習事前学習　②実習施設の機能と役割 3. 実習事前学習　③実習施設の利用者理解 4. 実習事前学習　④介護実技 5. 学外での介護実習　5日間（7時間×5日間＝35時間） 6. 実習事後スーパービジョン （学外実習35時間を含む計45時間）	(1)実習施設の概要についてのレポートを作成する。 (2)実習目標について具体的に表現できるように留意すること。 (6) 実習終了後に自己の学びと残された課題についてレポートを作成する。

授業外の学修（予習・復習等）について

講義前に事前学習（次回講義までに30分程度）として提示するテーマについて事前学習をしておくこと。
講義中に重要項目として強調した部分の復習のレポート（次回講義までに30分程度）を提出すること。
また、実習前後・実習中は自主学修の時間を利用して、事前準備やまとめなどを行うこと。必要な自主学修時間は15時間程度。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	実習事前レポート（50%）・ 実習事後レポート（50%）等で総合評価する。
教　　材	適宜、資料を配布する。 参考文献：上原千寿子・池田明子編『新・介護福祉士養成講座　１０介護総合演習・介護実習』中央法規出版
キーワード	ケアワーク　　介護等体験　　社会福祉施設　　利用者理解

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
医療ソーシャルワーク論	2	新谷　芳子　（528）	社会福祉学科3年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人権尊重の価値と倫理に基づく社会福祉の援助観を理解し、福祉ニーズを有する人の立場に立ち、その想いや暮らしに寄り添いながら援助を組み立て、実践できること。

【授業の目標】
保健医療領域のソーシャルワーク実践に必要な支援観・知識・技術を修得することを目標とする。

【授業の到達目標】
1. 患者や家族にとって非日常的な闘病世界を感じられるようになる。
2. 患者や家族を当事者の視点で捉えることができるようになる。
3. 保健医療の中で営まれる支援関係がイメージでき、その中で社会福祉専門職に求められる役割について、学生相互の討議を通して示すことができるようになる。

【授業の内容及び方法】
支援者側からの見方だけではなく患者や家族など当事者側からの見方を身につけられるよう、必要な知識や技術を概説する。また、グループ・ディスカッションとICTを活用したプレゼンテーションを通じて学生が主体的に活動し、相互に協力・協働して課題に取り組めるようにする。さらにゲストを招き、現場で起こっている状況や支援について具体的に学び理解が深められるようにする。

履修上の注意・要望等

グループ・ディスカッションやロールプレイに積極的に参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. 医療福祉とソーシャルワーク	(3-4)ワークシートを作成する
2. 患者の理解①　　病気の社会的・心理的影響	
3. 患者の理解②　　事例から考える	
4. 家族の理解　　　事例から考える	
5. 保健医療におけるソーシャルワークの倫理①　総論	(5)レポートを作成する
6. 保健医療におけるソーシャルワークの倫理②　事例から考える	
7. 医療ソーシャルワーカーとしてのアドボカシー　（ゲスト講師）	(7)レポートを作成する
8. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程①　がん患者の支援事例　アセスメント	
9. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程②　がん患者の支援事例　　プランニング	(9)ワークシートを作成する
10. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程③ 脳血管障害の患者の支援事例　アセスメント	
11. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程④ 脳血管障害の患者の支援事例　プランニング	
12. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程⑤ HIV陽性者の支援事例　アセスメント	
13. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程⑥ HIV陽性者の支援事例　プランニング	(14)ワークシートを作成する
14. 医療ソーシャルワークの視点と援助過程⑦　多職種連携	
15. まとめ	

授業外の学修（予習・復習等）について

新聞のコラム等で患者の闘病記があれば読んでおくこと。配布した資料を再読し復習すること。また休日、長期休業期間などを利用して自主学修し、その時間は概ね30時間とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　）	

評価方法	授業の到達度を評価する定期試験(60%)、課題レポート(20%)、授業への参加態度(20%)
教　材	必要に応じて資料を配布する。 参考文献：安井豊子『CVA保健医療ソーシャルワークと人権』2016　風詠社 小西加保留『HIV/AIDSソーシャルワーク：実践と理論への展望』2017　中央法規
キーワード	患者理解、家族システム、意思決定支援、多職種連携、倫理綱領、アドボカシー

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
保健医療サービス	2	新谷　芳子	社会福祉学科3年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
保健医療サービスの体系を学ぶとともに、社会福祉と保健医療の統合の原理や多職種連携について理論と実践方法を学び、保健医療サービス領域における社会福祉専門職の役割を理解することを目標とする。

【授業の到達目標】
1. 保健医療をめぐる社会環境やサービスの体系、またそれらに関する基本的な課題を理解し説明できるようになる。
2. 医療福祉に関する制度・政策について理解し説明できるようになる。
3. 社会福祉の価値に基づいたソーシャルワーカーと保健医療職の対比や連携について学び、学生相互の討議を通じてソーシャルワーカーの基本的な考え方や取り組む姿勢について説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】
講義を主に、保健医療領域での実践に必要な価値・知識・技術を概説する。また、医療機関だけでなく地域にまで展開する医療と福祉の連携についても概説する。適宜、グループ・ディスカッションを交え様々な考え方が共有できるようにする。医療ソーシャルワーカーをゲストに招き、具体的なソーシャルワーク実践を知り理解が深められるようにする。

履修上の注意・要望等

講義には主体的に参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1.　保健医療をめぐる社会環境の変化①　医療の概況 2.　保健医療をめぐる社会環境の変化②　医療制度の体系 3.　保健医療サービスの基本的構成 4.　医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題① 　　医療計画による医療機能の分化・連携 5.　医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題②　在宅医療の推進 6.　保健医療サービスを提供する施設とシステム① 　　医療法による医療施設の機能・類型 7.　保健医療サービスを提供する施設とシステム② 　　保健医療政策による医療施設の機能・類型 8.　保健医療サービスを提供する施設とシステム③ 　　診療報酬における医療施設の機能・類型 9.　保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 　　MSWの歴史と業務の枠組み 10.　保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割　業務内容 11.　保健医療サービスの専門職の役割 12.　医療福祉に関わる医療保障制度①　医療保険制度　公費負担医療制度 13.　医療福祉に関わる医療保障制度②　診療報酬制度 14.　保健医療サービスにおける専門職の連携と実践 15.　保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践	毎回講義で配布する資料を熟読すること。 (11)レポートを作成する

授業外の学修（予習・復習等）について

この講義を履修するにあたって、概ね30時間の自主学修が必要となる。日々の新聞やニュース等に目を通し、医療や福祉に関する記事があれば読んで情報を得ることを期待する。講義後は、テキストや配布された資料を見直し理解を深めること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	授業の到達度を評価する定期試験(80%)、授業への参加態度(20%)
教　　材	教科書：新・社会福祉士養成講座「保健医療サービス」中央法規 参考文献：二木立『地域包括ケアと福祉改革』2017　勁草書房
キーワード	医療ソーシャルワーク、倫理、医療提供体制、医療保険制度、診療報酬、連携

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
精神保健	2	菅原　明美（213）	社会福祉学科3年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
本授業は、我が国の精神保健の現状を知り、福祉専門職に必要な精神保健に関する基本的視点と知識を修得し、支援に活用できることを目的としている。

【授業の到達目標】
１．精神保健福祉活動が必要な領域について理解できる。
２．精神障害を持つ人の直面しやすい困難とその回復について理解できる。
３．福祉専門職に従事する者として、必要な援助や支援体制について考察できる。

【授業の内容及び方法】
本授業では、精神保健に関する基礎知識を学習し、身近な話題を取り上げて、その対策について学ぶ。
講座を中心に、適宜グループワークを取り入れる。

履修上の注意・要望等

毎回，授業のおわりに小レポートの提出を求める

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション、精神保健の概要と課題①精神保健の概要 ２．精神保健の概要と課題②精神保健の歴史、精神保健の課題 ３．社会構造の変化と新しい健康観 ４．ライフサイクルと精神の健康①出生前～学童期 ５．ライフサイクルと精神の健康②思春期～老年期 ６．ストレスと精神の健康 ７．精神の健康への関与と支援 ８．精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ①結婚生活、育児をめぐる精神保健 ９．精神保健の視点からみた家族の課題とアプローチ②社会的ひきこもり、病気療養と介護、高齢者 10. 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ①うつ病、飲酒やギャンブル 11. 精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ②心身症と生活習慣病、相談機関 12. 精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ 13. 地域精神保健に関する諸活動 14. 自分自身のメンタルヘルスの保持・増進について考える 15. 授業のまとめ	９．ＤＶＤを観て、グループワークを行う。 14. 外部講師（岡山県精神保健センター）による講義とグループディスカッション

授業外の学修（予習・復習等）について

・配布された資料を再読すること。
・授業で紹介された文献等を参考に、休日を活用して概ね30時間自主学修すること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　）	

評価方法	定期試験（80%）、提出課題（10%）、受講態度（10%）
教　　材	・適宜、資料を配布する。 ・参考文献：新・精神保健福祉士養成講座『精神保健の課題と支援』（中央法規出版株式会社）
キーワード	精神保健、危機と危機介入、メンタルヘルス、リカバリー、家族支援、地域精神保健

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
家庭支援論	2	若林　美佐子　（自室番号　142　）	社会福祉学科３年	後　期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、ソーシャルワークに必要な「家庭の理解」に関する基礎知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助についての理解を目的とする。

【授業の到達目標】
現代の家庭の状況から家庭支援が必要になっている背景を学ぶ。さらにクライアントを含む家庭の構造が理解できるようになる。

【授業の内容及び方法】
支援の対象としての家庭について理解し、援助ができるよう、家庭の機能やその歴史的変遷、家族の発達段階や課題について学ぶ。また事例から、実際の家族の構造を理解し、支援の方法について学ぶ。

履修上の注意・要望等

支援対象の家庭、自分が育ってきた家庭、未来の家庭、以上の３つの視点で、縦横無尽に行き交いながら学習してください。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．家庭と家族の定義	
２．家庭携帯、家族機能の変化	
３．家庭と健康	
４．家族の発達段階と発達課題	
５．ジェノグラム面接法（１）事例を用いた面接	
６．家族構造①（境界）	
７．家族構造②（サブシステム）	
８．家族構造③（パワー）	
９．映画にみる家族構造（１）情報収集	
１０．映画にみる家族構造（２）情報分析・統合	１０．課題レポート作成
１１．ジェノグラム面接法（２）近辺の事例を用いた面接	
１２．現代の家庭の諸相（母子密着、DVなど）	
１３．さまざまな家庭への支援①老親の介護	
１４．さまざまな家庭への支援②	１４．課題レポート作成
１５．まとめ	

授業外の学修（予習・復習等）について

予習：単元ごとに概念やそれに関する社会的出来事を調べておくこと
復習：配布資料を次の時間までに再読し、身の回りの出来事と照らし合わせて家庭理解を深めること
・この授業を履修するにあたって、おおむね３０時間程度の自主学修が必要となる。日々の予習・復習、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間など利用して施設ボランティア活動等を通して、授業で学修した内容を自主学修すること

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート（８０％）　受講態度（２０％）の総合評価とする
教　　材	・授業内容ごとに資料を提示 ・参考文献：「児童の福祉を支える家庭支援論」　吉田眞理　萌文書林 「家庭支援論　家族の発達に目を向けて」　松村和子ほか編著　建帛社 「家族理解入門」団士郎　中央法規出版
キーワード	家族構造理論　家族の発達段階　ライフサイクル　ライフイベント

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉のまちづくり基礎演習	2	岸田　かおる	社会福祉学科　3年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
　地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの技法を身につけること。

【授業の目標】
本授業は、地域福祉の推進（社会福祉法第４条）の理念である「福祉『で』まちづくり」の基礎的な実践力を総合的に養うために、地域情報紙(コミュニティペーパー)の作成を行う。情報紙製作を通じて、様々な世代の方や生き方を知り、地域振興に貢献できる人材づくりをめざす。

【授業の到達目標】
情報紙の取材のために、ふだん話をする機会がない世代の異なる人と打ち解けて会話をすることで、コミュニケーション能力が向上する。チームで１つの情報紙というプロジェクトを遂行するという、社会に出る前の練習ができる。チラシなど情報発信ツールを作るノウハウが得られる。様々な地域の問題や資源を発見することで、地域振興に関心が高まる。

【授業の内容及び方法】
（１）講義（２）取材（３）製作の流れで行う。（１）講義①地域情報紙(コミュニティペーパー)を地域住民の一員として製作する意義や基本的な考え方の説明。②テーマ：シニア世代を活き活きと活動している人を中心に津山の情報を発信すること。③取材対象：人物取材（シニア世代を元気に活き活きと豊かに楽しく活動している人）、および、ソーシャルキャピタル(商店街周辺の社会資本)。④取材エリア：津山の中心市街地(商店街)周辺。（２）グループごとに事前に情報を集め、アポをとり取材をする。（３）教室内でパソコン(パソコン数台、スキャナを使用)による執筆（人物は全員が取材記事を書き、読み手の立場に立って精査する。）・レイアウト・校正・学内での印刷作業を経て8ページの情報紙を完成させる。

履修上の注意・要望等

取材や製作のスケジュールは、実際の進捗状況に応じて対応する。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
(1) 「地域づくりと情報紙の役割」情報紙のテーマや製作方法等のオリエンテーション。 (2) (3) 「地域づくりと情報紙の役割」の講義説明。グループディスカッションと取材先の検討。 (4)，(5) 学外取材（人物、ソーシャルキャピタル数か所） (6)，(7)　学外取材（人物、ソーシャルキャピタル数か所） (8)，(9)　学外取材（人物、ソーシャルキャピタル数か所） (10)，(11)　製作　パソコン操作 (12)，(13)　製作　パソコン操作 (14)，(15)　製作・印刷・合評・配布計画　※２出来上がった情報紙を取材先等に配布すること。	(2),(3)取材の授業までに、必ずテーマに沿った地域の取材先・人物を探し、アポ取りをしておくこと。 (14),(15)出来上がった情報紙は、授業終了後、取材先や商店街等に配布すること。

授業外の学修（予習・復習等）について

地域の実情を知り、情報収集やアポ取り、取材、原稿の修正など、自主的活動として６時間程度、自主学修として30時間程度は必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	１ふりかえりシートの提出（５０％）（記録や感想やアイディアなど自由記述。） ２出席・授業態度（５０％）：グループで話し合い協力して作業ができたか。積極的にアイディアを出し行動できたか。建設的な意見を出し議論ができたか。地域の人と円滑にコミュニケーションができたか。
教　　材	地域福祉の源流と創造(中央法規)、既存のコミュニティペーパー（橿原市、津山市）
キーワード	地域福祉、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション、地域づくり、コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルビジネス

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
情報のユニバーサルデザイン論	2	関根　千佳	社会福祉学科3年	前期集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】この授業では、学生が世界最高齢国家の日本で、福祉職として仕事をする上で必要不可欠な考え方であるユニバーサルデザインと、その基礎学問であるジェロントロジー（高齢学）について学び、周囲にこの概念について説明できることを目標とする。

【授業の到達目標】この授業で、学生は、ユニバーサルデザインの基礎概念を学び、歴史的な社会背景や構成要素について説明することが可能になる。障害のある方の就学、就労、社会参加について、世界と日本の状態の違いを理解し、説明できるようになる。高齢社会とはどのような社会なのか、そのために社会が変わるべき点は何か、問いと答えを考えることが可能になる。

【授業の内容及び方法】基本的に講義形式であるが、障害者の社会参加や高齢社会に関する多くの映像を見て、課題や解決策をグループで話し合ったり、その結果を発表するなどのアクティブラーニング形式を取り入れる。なお受講者の関心やゲストスピーカーなどの都合により、シラバスの内容や順番は変更されることがある。

履修上の注意・要望等

テキストは事前に購入し、読んでおくこと。授業内では音読する。積極的な発言を期待する。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1、 自己紹介とアイスブレイク「私の考えるユニバーサルデザイン」 2、 ユニバーサルデザインの考え方はなぜ必要か 3、 まちのユニバーサルデザイン 4、 もののユニバーサルデザイン 5、 サービスやスポーツのユニバーサルデザイン 6、 情報やＩＣＴのユニバーサルデザイン 7、 テレワークとワークライフバランス 8、 障害のある学生の就学と就労 9、 ジェロントロジーの基礎概念 10、 アクティブシニアのライフスタイル 11、 高齢者の社会参加、就労、学び 12、 若者の介護離職をどう防ぐか 13、 高齢者とのコミュニケーション方法 14、 よく生きて、よく死ぬための死生学入門 15、 人生を完成させるためのデザイン	テキストを事前に読んでおく

授業外の学修（予習・復習等）について

集中講義の前には、テキストを熟読しておくこと。また、講義の間には チームでのグループワークも行われる。レポートも、深く考えることが重要なので、合計で授業以外に30時間程度の学びの時間が必要になる 可能性がある。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	△
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	出席点　40%　授業中の議論への参加と発表　30%　最終レポート30% レポートのコピペ等の不正行為は、当学期の単位を全て無効とし、氏名を公表する。
教　　材	テキスト「ユニバーサルデザインのちから」生産性出版　2010年　関根千佳著 参考書「東大が作った高齢社会の教科書」東京大学出版会　2017年
キーワード	ユニバーサルデザイン、ジェロントロジー（高齢学）、ワークライフバランス、障害者、高齢者、インクルージョン、ダイバーシティ、死生学

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
パソコン実践演習	2	荻野　真介（322）	社会福祉学科３年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ること。

【授業の目標】
この授業では、福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の一つであるエクセルの実践的なテクニックを身に付けることを目標とする。

【授業の到達目標】
本授業の目標は、今までに習ったエクセル[パソコン基礎演習(2年前期)]の復習をしながら、まだ習っていない実用的で役に立つエクセルのテクニックや機能を身に付けることにある。そのためにMOS(Microsoft Office Specialist)検定試験用の教科書を使い、就職した後のオフィスや福祉施設で必要になるエクセルの様々な実践的な知識を身に付け、さらなるスキルアップを目指す。

【授業の内容及び方法】
MOS検定試験用の教科書の例題や問題を解くことにより、実践的なテクニックや機能を身に付けていく。例題を解くことにより新しいスキルを学び、練習問題を繰返し多く解くことによりスキルを自分のものとする。

履修上の注意・要望等

２年前期の科目：パソコン基礎演習の知識を前提とする。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
扱う主な実践的テクニックは以下の通り(これ以外にも多数ある) （１）テキストファイルのインポート （２）ファイルの互換性 （３）印刷範囲の調整(余白・改ページ・拡大縮小など) （４）条件付き書式を設定する （５）スパークラインを作成する （６）名前付き範囲を作成する （７）アウトラインを作成する （８）小計を挿入する （９）テーブルの作成・変更・抽出・ソート (10) COUNT関数・COUNTBLANK関数を使用する (11) SUMIF関数・AVERAGEIF関数・COUNTIF関数を使用する (12) UPPER関数・LOWER関数・RIGHT関数・LEFT関数・MID関数を使用する (13) TRIM関数・CONCATENATE関数を使用する (14) SmartArtグラフィックの挿入・編集 (15) ファイルのアクセシビリティを高める	授業中に完成できなかった①～⑮の授業用例題を、完成させること。また、それらを繰り返し練習し身に付ける。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　）	

評価方法	演習成果・定期試験(実技)の評価に，通常の演習態度を加味して行う。 定期試験：80％・課題：10％・受講態度：10％
教　　材	教 科 書：「よくわかるMOS EXCEL 2010」 FOM出版 参考文献：教員作成プリントなど
キーワード	エクセル、MOS検定、Microsoft Office Specialist検定、表計算、グラフ、データベース、抽出

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
簿記会計学	2	黒田　善宏	社会福祉学科３年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
　地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの技法を身につけること。

【授業の目標】
　この授業の目標は、パソコンでの会計処理を前提として財務諸表が出来上がる仕組みを理解することと、社会福祉法人会計簿記の基本を理解することである。

【授業の到達目標】
　社会福祉法人における財務諸表の意義が理解できる。施設の現場で用いられている実務簿記が理解できる。

【授業の内容及び方法】
　社会福祉法人会計の財務諸表を作成するための複式簿記の基礎を学び、問題演習や課題を通じたインプットとアウトプットを繰り返し、知識の定着をはかる。

履修上の注意・要望等

　受講に際しては初回ガイダンスに出席すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（１）ガイダンス：社会福祉法人簿記の全体	
（２）簿記会計とは	（２）配布プリント課題
（３）勘定科目	
（４）仕訳と転記	（４）配布プリント課題
（５）支払資金の取引：資産・負債勘定	
（６）支払資金の取引：収益・費用勘定	
（７）精算表：試算表の構造と精算表	（７）配布プリント課題
（８）資産の会計処理：固定資産と減価償却	
（９）負債の会計処理：固定負債と引当金	
(10) 純資産の会計処理：基本金・国庫補助金等	
(11) 決算：決算の意義と決算手続	(12) 配布プリント課題
(12) 税務：法人税・所得税・消費税・印紙税の知識	
(13) 税務：決算修正事項と計算書類の作成	
(14) 財務管理：財務諸表をどう使うか	(14) レポート作成
(15) まとめ：	

授業外の学修（予習・復習等）について

毎回配布するテキスト等を熟読し、予習・復習を行うこと。特にアウトプットの課題等自主学習は、個人差もあるが概ね30時間程度（１回当たり１～２時間）は必要と思われる。簿記の予備知識はなくてよいが、日商簿記３級程度の自学をしていただくのが望ましい。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	定期試験（40%）、提出課題（30%）、受講態度（30%）により総合的に評価する。
教　　材	教科書：プリント・資料配布 参考書：社会福祉法人会計簿記テキスト（入門編・初級編）・（中級編）　（一財）綜合福祉研究会
キーワード	社会福祉法人会計簿記　社会福祉法人会計基準　社会福祉法人モデル経理規程細則　貸借対照表　事業活動計算書　資金収支計算書　仕訳　総勘定元帳　試算表　精算表

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
特別演習Ⅰ	2	○新谷　小坂田　長谷川　桐生 小山　堀川　武田　有岡　薬師寺 菅原　田中	社会福祉学科3年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
少人数教育により、専門分野の研究会参加や現場体験を重視し、社会福祉士として必要な現場対応力、実践力を身につけること。

【授業の目標】
生活者の立場や地域住民の視点から、いきいきとした暮らしの実現に向けてさまざまなテーマで研究を行い、諸課題の解決を目指し、社会福祉、地域社会づくりに貢献できる実践力を身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
関心のあるテーマみつけ、現場体験等を通して現状と課題を理解し、必要とされる取り組みについて提言できるようになる。

【授業の内容及び方法】
学科教員がそれぞれの専門分野をいかして実施する少人数のゼミナールである。各担当教員のテーマや内容はオリエンテーションで説明する。研究室の配属はオリエンテーション後に調査し、学生の希望と教員の受け入れ条件等で決定する。授業方法は、各研究室によって異なるが、文献の輪読、グループワーク、課題発表を中心にゼミナール形式で学習する。

履修上の注意・要望等

卒業必修科目のため全員が受講すること。少人数のゼミナール形式のため、一人ひとりが追及したい課題と積極性を持って参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
各担当教員の授業計画の詳細は別途提示する 1．オリエンテーション　研究室配属に関しての説明 2．研究テーマとは 3．研究のテーマ決め 4．テーマに沿った情報収集 5．テーマに沿った文献検索 6．文献のまとめ 7．課題の整理 8．テーマに沿った活動の展開①　研究計画の作成 9．テーマに沿った活動の展開②　調査対象者の選択 10．テーマに沿った活動の展開③　インタビューガイドの作成 11．テーマに沿った活動の展開④　現地調査 12．テーマに沿った活動の展開⑤　分析 13．テーマに沿った活動の展開⑥　結果 14．テーマに沿った活動の展開⑦　考察 15．まとめ	グループ討議が中心となるため、各自、授業までに必要な資料、文献を集め熟読しておくこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

課題発表、グループ討議が中心となるため準備を怠らず、授業後に残った課題は復習として取り組むこと。　概ね30時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　）	

評価方法	授業への取り組み（50%）、研究レポート等（50%）により総合的に評価する。
教　　材	それぞれの担当教員が指示する。
キーワード	福祉理念、人権擁護、地域福祉、社会貢献、生活課題、QOL

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
教育経営論	2	芦田　愛五　640-2	社会福祉学科　3年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
・本授業は、教育経営の理念や組織・運営について基礎的事項を取り上げ、学校経営を中心とした基本的な知識の習得をめざす。

【授業の到達目標】
学校教育における現状と課題、展望を理解し、必要とされる自らのキャリア設計を描くことができる。

【授業の内容及び方法】
学校経営を中心とした基本的な知識の習得を図るために、学校経営における学校組織マネジメント、開かれた学校づくり、危機管理、学校評価など系統的に学ぶ。

履修上の注意・要望等

当講義は、教育職員免許状一種高等学校家庭科（又は福祉科）・中学校家庭科ならびに栄養教諭免許状取得希望者は教職に関する科目において必修科目である。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
(1)　教育経営の意義・・・考え方、定義を学ぶ (2)　教育経営の展開と開かれた学校 (3)　国・地方公共団体における教育経営 (4)　家庭、学校、地域社会の協働と教育経営 (5)　学校経営と組織マネジメント・・・PDCAサイクル、SWOT分析 (6)　保護者、地域に開かれた学校組織マネジメント (7)　学級経営と学級教育目標 (8)　教師の職務と制度 (9)　学校教育目標達成のためのカリキュラムマネジメント (10) 学校の危機管理　その１・・・危機管理とは (11) 学校の危機管理　その２・・・学校における事故の事例から学ぶ (12) 学校評価　　その１・・・法的根拠から学ぶ (13) 学校評価　　その２・・・取り組みの実際を学ぶ (14) 教育経営・制度の課題・・・学校、家庭、地域との連携（学校支援ボランティア、課題の把握と考察） (15) 総括・まとめ	(5)グループ討議と発表 (11)リポートを作成する (13)リポートを作成する (14)グループでの討議と発表

授業外の学修（予習・復習等）について

理解を深めるために、配布した資料を参考に「予習･復習」を概ね３０時間程度必ずすること。
日頃より教育関係の記事、ニュース等に関心を持ち、人間性を高められるようにすること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	受講態度（２０％）　レポート・期末試験（７０％）　各回の感想および質問（１０％）
教　　材	テキスト：プリント配布によってかえる。 参考文献：高階玲治編集『学校の組織マネジメント』／岡東壽隆監修『教育経営学の視点から教師・組織・実践を考える子どものための教育の創造』／佐々木正治他編著『新教育経営・制度論』他
キーワード	教育経営／学校組織マネジメント／PDCAサイクル／研究と修養／教職の専門職性/危機管理/学校評価

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
教育課程論	2	岡村健太（679）	社会福祉学科　3年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
教員として必要な教育課程に関する実践的知識を理解することを目標とする。

【授業の到達目標】
学習指導要領をはじめとする基礎知識を用い、適切な教育課程の編成のあり方について論じられる様になることを目指す。

【授業の内容及び方法】
「基礎編」では教育課程に関する理論・歴史について、「実用編」では学習指導要領について、「発展編」では教育課程を取り巻く問題について学ぶ。特に「実用編」と「発展編」に関しては、ディスカッション等を交えながら主体的な理解を深める。

履修上の注意・要望等

授業時間内で理解を終えようとするのではなく、授業を基に予習復習を行い、理解を深めていくこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
基礎編	
(1) 教育課程とは何か①：教育課程の領域と構造	
(2) 教育課程とは何か②：カリキュラムの6つの型と経験主義・系統主義	
(3) 教育課程の歴史①：明治～昭和戦前期	
(4) 教育課程の歴史②：学習指導要領の変遷	(4) レポート作成
実用編	
(5) 学習指導要領改訂の流れ	
(6) 現行学習指導要領の改訂における議論	
(7) 2017年の学習指導要領改訂の要点	
(8) 教育課程とアクティブ・ラーニング	
(9) カリキュラム・マネジメントと教科等横断的な視点	
(10) 教科書の編成と採択	(10) レポート作成
発展編	
(11) 諸外国の教育課程	
(12) 教育課程の評価	
(13) 教育課程と学力	
(14) 教育課程の編成と学習指導案の作成	
(15) これからの教育課程とは：教育課程研究の動向と総括	(15) レポート作成

授業外の学修（予習・復習等）について

講義の前に、各講義回に関連する学習指導要領の該当箇所を読んでくること。また講義後、もう一度該当箇所を読み、理解を深めること。尚、この授業を履修するにあたって、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　）	

評価方法	期末試験（55%）、課題（30%）受講態度（15%）により総合的に評価する。
教　　材	テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房、2018年 文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』東山書房、2017年 参考文献：尾崎博美・井藤元編『ワークで学ぶ教育課程論』ナカニシヤ出版、2018年
キーワード	教育課程　学習指導要領　教育評価　教育環境　学力

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉科教育法	4	鈴木　美緒	社会福祉学科　3年	集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】
本授業では教科「福祉」の創設の意義やねらい、科目構成・内容を理解し福祉科教員として必要とされる教材研究能力及び指導技術を身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
学習指導案の作成や教材研究・模擬授業等を通して実際に授業を行うための知識や技術を身につける。

【授業の内容及び方法】
教科「福祉」以外にも視野を広げ、学校教育の様々な場面や地域・家庭において福祉教育を推進する力を形成するためにテーマ別指導案を作成し、模擬授業を行う。

履修上の注意・要望等

教職を目指す学生としてふさわしい態度や行動で意欲的に取り組んでもらいたい。欠席をしない。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．福祉教育改定の経緯、基本方針 ２．「福祉」の概念と社会福祉サービス ３．福祉教育と地域活動・ボランティア学習 ４．教科「福祉」の目標と科目編成 ５．教科「福祉」の教育課程の編成と指導計画 ６．学習指導案作成に関する講義（手順） ７．学習指導案作成に関する講義（配慮事項） ８．アクティブラーニングの内容と方法 ９．科目「社会福祉基礎」の目標、内容とその取扱い １０．教材研究と学習指導案の作成①（社会福祉基礎） １１．模擬授業とその検討①（社会福祉基礎） １２．科目「介護福祉基礎」の目標、内容とその取扱い １３．教材研究と学習指導案の作成②（介護福祉基礎） １４．模擬授業とその検討②（介護福祉基礎） １５．教科「コミュニケーション技術」の目標・内容とその取扱い １６．教材研究と学習指導案の作成③（コミュニケーション技術） １７．模擬授業とその検討③（コミュニケーション技術） １８．科目「生活支援技術」の目標、内容とその取扱い １９．教材研究と学習指導案の作成④（生活支援技術） ２０．模擬授業とその検討④（生活支援技術） ２１．科目「介護過程」の目標、内容とその取扱い ２２．教材研究と学習指導案の作成⑤（介護過程） ２３．模擬授業とその検討⑤」（介護過程） ２４．科目「心と体の理解」の目標、内容とその取扱い ２５．教材研究と学習指導案の作成⑥（心と体の理解） ２６．模擬授業とその検討⑥（心と体の理解） ２７．科目「介護総合演習」「介護実習」の目標、内容とその取扱い ２８．科目「福祉情報活用」の目標、内容とその取扱い ２９．高等学校教育における教科「福祉の実際と課題」 ３０．まとめ	（10. 13. 16. 19. 22. 25） 教材研究の資料を事前に準備しておくこと （11. 14. 17. 20. 23. 26） グループワークでの討議・検討を行う

授業外の学修（予習・復習等）について

課題（レポート・学習指導案・模擬授業等で使用する教材等）は必ず提出をすること。日々の予習、復習、課題作成等に加え、休日や長期休業期間などを利用して授業で学修した内容を自主学修すること。概ね30時間の自主学修が必要。

評価方法

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　）	

評価方法	学習指導案作成２５％、模擬授業５０％、普段の学習態度（発表・提出物・出欠状況）２５％
教　　材	高等学校学習指導要領解説　福祉編（文部科学省）
キーワード	高等学校福祉　福祉教育　教材研究

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
特別活動の指導法	2	土居　道宏	社会福祉学科　3年	後期

授業概要・学習の到達目標
【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】 人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。
【授業の目標】 本授業では、学習指導要領の特別活動についての目標・特質・内容、教育的意義、各教科等との関連と具体的指導を理解することを通して、特別活動の実践力の基礎を養うことをめざす。
【授業の到達目標】 特別活動の目標・特質・内容、教育的意義、各教科等との関連を説明できる。また、学級活動の指導の在り方の基礎を習得して、学級活動学習指導案を作成し模擬授業を実施できる。
【授業の内容及び方法】 学習指導要領の特別活動の基本的考え方、目標及び各内容、学級活動の具体的指導についての基礎的事項を講義と演習を通して学ぶ。

履修上の注意・要望等
教員としての知識理解と実践力を身に付けるという目的意識をもって授業に臨むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
（1）特別活動とは何か（特別活動に期待されるもの） （2）特別活動の目標と内容（特別活動の目標の特質と内容の概略） （3）特別活動の意義（特別活動の基本的性格と教育的意義） （4）特別活動の指導（特別活動の指導原理） （5）学級活動（学級・ホームルーム活動の目標と内容） （6）学習指導案作成の方法（学級活動の学習過程と学習指導案作成の方法） （7）指導案作成演習（学級活動の学習指導案作成演習） （8）模擬授業①（作成した学級活動学習指導案①で実施） （9）模擬授業②（作成した学級活動学習指導案②で実施） (10) 模擬授業③（作成した学級活動学習指導案③で実施） (11) 学校行事（学校行事の目標と内容） (12) 生徒会活動（生徒会･児童会活動の目標と内容） (13) クラブ活動と評価（クラブ活動の目標と内容、学習評価） (14) 特別活動の充実（各教科等との関連） (15) 特別活動のまとめ	（1－5）振り返り用ワークシートの記入 （6－7）学習指導案についてグループワークでの討議、作成 （8－10）模擬授業（プレゼンテーション）、模擬授業の省察の記入 （11－14）振り返り用ワークシートの記入

授業外の学修（予習・復習等）について
概ね30時間程度の自主学修が必要となる。講義の前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に毎回の配布物と振り返り用ワークシートを利用し理解を深めること。

アクティブ・ラーニングに関する事項			
外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	試験成績（５０％）、受講態度（３０％）、模擬授業（２０％）を総合して行う。
教　　材	教科書：中学校学習指導要領解説　特別活動編（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　特別活動編（文部科学省） 参考文献：小学校学習指導要領解説　特別活動編（文部科学省）、特別活動研究　第三版（教育出版）
キーワード	学級活動の授業づくり、合意形成と意思決定、生徒会(児童会)活動、学校行事、特別活動と自己指導能力の育成、特別活動と学級経営

社 会 福 祉 学 科　4 年

１．教養・基礎教育科目

区分	授　業　科　目	授業形態	単位数		配当学年				資格	備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉		
導入科目	１年次セミナー	演習	2		○						
共通教養科目	現代生活論	講義		2	○						
	国際社会と日本	講義		2	○						
	地球環境論	講義		2	○						
	人権教育	講義		2	○						
	日本国憲法	講義		2	○				◎		
	調査と統計	講義		2		○					
	心理学概論	講義	2		○						
	日本語リテラシー	講義		2	○						
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1	○						
	ボランティア論（教育系）	講義		1	不開講						
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○	○	○			16
	インターンシップ実習	実習		1	○	○	○	○			17
	ボランティア実習	実習		1	○	○	○	○			18
情報リテラシー科目	情報リテラシーⅠ	演習		2	○						
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				◎	この３科目の中から、２科目４単位以上選択必修	
	情報リテラシーⅢ	演習		2				○			131
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○						
	英語Ⅱ	演習	1		○						
	英語Ⅲ	演習		1		○			◎		
	英語Ⅳ	演習		1		○			◎		
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1	○					この１０科目の中から、２科目２単位以上選択必修	
	ドイツ語Ⅱ	演習		1	○						
	韓国語Ⅰ	演習		1	○						
	韓国語Ⅱ	演習		1	○						
	中国語Ⅰ	演習		1	○						
	中国語Ⅱ	演習		1	○						
健康スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2	○						
	レクリエーション実技・実習	実習		2	○					この４科目の中から、２科目２単位以上選択必修	
	スポーツ健康講義	講義		1	○				◎		
	スポーツ健康実習	実習		1	○				◎		
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	－		－	○	○	○	○			39
	放送大学科目Ⅱ	－		－	○	○	○	○		通算して４単位まで卒業要件に含めることができる	39
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	－		－	○	○	○	○			40
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	－		－	○	○	○	○			40
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2	○						
	住まいと福祉	講義		2		○					
	福祉情報コミュニケーション	演習		2		○					
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○						
	数学の基礎	講義		2		○					

【卒業要件】必修科目６単位、選択必修科目８単位以上を含めた計３０単位以上を修得のこと。

【備考１】教員免許欄の◎印科目＝必修科目。

【備考２】レクリエーション実技・実習は現場実習（スタッフ参加・事業参加）を含む。

２．専門教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	配当学年 1年	配当学年 2年	配当学年 3年	配当学年 4年	資格 教免福祉	資格 福祉士	備考	頁
専門基幹科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2			○			◎	◎		
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2		○			◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○				▲	◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2				○		▲	◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2	○				▲	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2			○			◎	◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2		○			▲	◎	必修科目10単位を含め24単位以上を修得のこと	
	介護概論	講義		2	○				◎			
	加齢の理解	講義		2		○			◎			
	障害の理解	講義		2		○			◎			
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2				○				132
	NPO・ボランティア活動論	講義		2		○						
	安全・安心のまちづくり	講義		2			○					
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2		○						
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2		○						
	地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2				○				133
専門展開科目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○				◎	◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2			○		▲	◎		
	社会福祉事業史	講義		2			○					
	社会保障Ⅰ	講義		2		○			◎	◎		
	社会保障Ⅱ	講義		2		○			◎	◎		
	福祉行財政と福祉計画	講義		2				○	◎	◎		134
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○				◎	◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○				◎	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4		○			▲	◎		
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4			○		▲	◎		
	社会調査の基礎	講義		2			○		▲	◎		
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○							
	福祉サービスの組織と経営	講義		2			○		▲	◎		
	権利擁護と成年後見制度	講義		2			○			◎		
	就労支援サービス	講義		1			○		▲	◎		
	更生保護制度	講義		1			○			◎		
	相談援助演習Ⅰ	演習		1		○			◎	◎		
	相談援助演習Ⅱ	演習		1			○		◎	◎		
	相談援助演習Ⅲ	演習		1			○		◎	◎	必修科目4単位を含め40単位以上を修得のこと	
	相談援助演習Ⅳ	演習		1				○	◎	◎		135
	相談援助演習Ⅴ	演習		1				○	◎	◎		136
	相談援助実習指導Ⅰ	演習		1			○		◎	◎		
	相談援助実習指導Ⅱ	演習		2				○	◎	◎		137
	相談援助実習	実習		4			○		◎	◎		138
	介護実習	実習		1			○		◎			
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2		○				◎		
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2		○			◎			
	リハビリテーション論	講義		2		○			▲			
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○					◎		
	社会理論と社会システム	講義		2		○				◎		
	医療ソーシャルワーク論	講義		2			○					
	保健医療サービス	講義		2			○			◎		
	精神保健	講義		2			○					
	家庭支援論	講義		2			○					
	福祉情報論及び同演習	演習		2		○			▲			
	ウェブリテラシー演習	演習		2	未開講							
	福祉のまちづくり基礎演習	演習		2			○					
	福祉のまちづくり論	講義		2				○				139

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年				資格		備考	頁
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	教免福祉	福祉士		
その他の専門科目	衣生活論	講義		2	未開講							
	食生活論	講義		2	未開講							
	家庭経営学概論	講義		2	未開講						含　家庭経済学	
	保育及び家庭看護学	講義		2	未開講						含　保育実習	
	教育心理学	講義		2		○			◎			
	福祉デザイン(衣)論	講義		2		○						
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2		○						
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2			○					
	パソコン基礎演習	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅰ	演習		2		○						
	パソコン演習Ⅱ	演習		2	未開講							
	パソコン実践演習	演習		2			○					
	簿記会計学	講義		2			○					
卒業研究系	特別演習Ⅰ	演習	2				○					
	特別演習Ⅱ	演習		2				○				140
	特別演習Ⅲ	演習	1					○				141
	卒業研究	演習		4				○				142

【卒業要件】専門基幹科目24単位以上（必修科目10単位含む）、専門展開科目40単位以上（必修科目4単位含む）、卒業研究系3単位以上（必修科目3単位を含む）及びその他の専門科目を含め、94単位以上修得すること。

【備考】教員免許欄及び福祉士欄の◎印の科目は、必修科目。同じく△印の科目は選択必修科目、▲印は選択科目。

３．教職に関する科目

授業科目	授業形態	単位数	配当学年				備考	頁
			1年	2年	3年	4年		
教職論	講義	2		○				
教育原理	講義	2		○				
教育経営論	講義	2			○			
教育課程論	講義	2			○			
福祉科教育法	演習	4			○			
特別活動の研究	講義	2			○			
教育方法・技術論	講義	2				○		143
生徒・進路指導論	講義	2				○		144
教育相談	講義	2				○		145
教職実践演習（高）	演習	2				○		146
事前事後指導	実習	1				○		147
教育実習	実習	2				○		148

【備考】教員免許取得希望者は、この欄の全科目を修得すること。

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
情報リテラシーⅢ	2	荻野　真介(322)・蜂谷　俊隆(677)	社会福祉学科４年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の修得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ること。

【授業の目標】
この授業では、福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)の中の研究論文作成のための技術を中心に学ぶ。

【授業の到達目標】3つの目標がある。
(1)統計的検定を理論的に理解する。実際のデータについてエクセルで検定結果が出せるようになる（荻野担当）。
(2)エクセルにより実践的なアンケート集計・分析ができるようになる(荻野担当)。
(3)ワードにより学術論文をまとめられるようになる(蜂谷担当)。

【授業の内容及び方法】上記目標に対応して3つに分かれる。
(1)エクセルによる統計的検定（荻野担当）：確率論に基づく検定理論を解説し､エクセル検定ツールで実際のデータの検定を実行する
(2)エクセルによる実践的アンケート集計(荻野担当)：実際のアンケートデータを使い、データ入力・ピボットテーブルによる集計・集計結果のグラフ化などを行い、結果を分析する。
(3)ワードによる学術論文のまとめ方(蜂谷担当)：学術論文作成の機能(レイアウトやページ番号の設定・差込印刷など)を学ぶ。

履修上の注意・要望等

卒業研究を希望する学生は必ず履修すること。卒業研究を希望しない学生も、将来の研究・論文作成に役立つので履修すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
① オリエンテーション (1)エクセルによる統計的検定（荻野担当） ② エクセルの中の検定用ツールの紹介 ③ 検定の基本的な考え方(帰無仮説・対立仮説・確率分布・有意水準・t分布・P値など) ④対応のある2標本によるｔ検定　～研修会の効果の検定～ ⑤対応のある2標本によるｔ検定　～実験前後の平均値の差の検定～ ⑥対応のない2標本によるｔ検定　～2集団のヘモグロビン量の平均値の差の検定～ ⑦福祉介護分野での検定の活用例 ⑧総合演習 (2)エクセルによる実践的アンケート集計(荻野担当) ⑨実際の調査データを使った実践的集計(調査データの入力方法) ⑩実際の調査データを使った実践的集計(ピボットテーブルを使った集計) ⑪実際の調査データを使った実践的集計(グラフ作成と分析) (3)ワードによる学術論文のまとめ方(蜂谷担当) ⑫ワープロでの差し込み印刷機能を使ったアンケート作成 ⑬学術論文をまとめる(ⅰ)レイアウト、ページ番号の設定、スタイルの指定、画像の貼付 ⑭学術論文をまとめる(ⅱ)目次作成、PDF作成、注釈文設定 ⑮学術論文をまとめる(ⅲ)図表番号、参考文献リスト、画像の取り込み	授業中に完成できなかった①～⑮の授業用例題を、完成させること。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　）	

評価方法	演習成果・定期試験(実技)の評価に，通常の演習態度を加味して行う。 定期試験：80％・課題：10％・受講態度：10％
教　　材	(1)と(2)の教材：教員作成プリント (3)の教材：教科書　卒業研究論文を作成するにあたっての注意事項（学修・学術情報センター） 参考書　学生のためのOffice 2010＆情報モラル（ノア出版） 完全マスター　Word2010（ノア出版）
キーワード	アンケート集計　社会調査　統計理論　検定　推定　差し込み印刷　目次作成

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
中山間地福祉のまちづくり	2	作野　広和	社会福祉学科　４年	前期集中

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】
本授業は，我が国において普遍的に広がる中山間地域に関する一般的な理解を深めるとともに，中山間地域における福祉の実態と役割を把握し，福祉と地域との関係性を明確にするとともに，地域における諸課題に対し主体的に解決しようとする態度を育成する。

【授業の到達目標】
本授業を受講することにより，中山間地域の実態を数値データなどで的確に理解できるようになるとともに，自らが主体的に地域課題を見いだし，その解決策について受講生相互の議論を通して提示できるスキルの取得を目指す。

【授業の内容及び方法】
本授業は，３つのセクションに分けて行う。１日目の「中山間地域の現状」では，中山間地域や集落に関する統計データ等を参照しながら，中山間地域の実態を客観的に把握することを目指す。授業中にはワークショップを行いながら，地域課題を立体的に把握することを試みる。
　２日目の「福祉・まちづくりの実際」においては，兵庫県佐用町に出かけていき，地域づくりの実態を現場で把握するフィールドワークを行う。フィールドワークを通して地域住民の方々と直接対話することにより，現地調査の技法やコミュニケーションの方法について体験的に学習する。
　３日目の「中山間地域の可能性」においては，フィールドワークで学んだ人々の生き様を振り返りながら，これからの中山間地域がどうあるべきかについて検討する。その際，福祉の役割を吟味し，その可能性と課題を見いだす。３日目にはグループディスカッションやパネルディスカッションを取り入れることにより，多様な考え方を相互に共有できるよう工夫する。

履修上の注意・要望等

・遅刻をしないこと
・実習準備，試験受験等で１日単位，１コマ単位で授業を欠席せざるを得ない者については代替措置を
　講ずるので，事前ないしは授業時に相談すること
・フィールドワークを意識した授業を展開するのでその心づもりでいること
　なお，フィールドワークの実施日は，集中講義期間（３日間）中の２日目である
・授業間に課題を課すこともあるので，授業期間中の日程には余裕をもって臨むこと
・デジタルカメラ・スマートフォン等，画像の記録媒体を持参する方が好ましい

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1.　中山間地域の現状１　中山間地域の定義 2.　中山間地域の現状２　集落の機能と実態 3.　中山間地域の現状３　中山間地域における人口変動と「関係人口」の概念 4.　中山間地域の現状４　中山間地域におけるイノベーションの可能性（ワークショップ） 5.　中山間地域の現状５　中山間地域の可能性（報告会） 6.　福祉・まちづくりの実際（フィールドワーク）１　地域実態の把握手法 7.　福祉・まちづくりの実際（フィールドワーク）２　まちづくりの実態把握 8.　福祉・まちづくりの実際（フィールドワーク）３　ヒアリングの手法 9.　福祉・まちづくりの実際（フィールドワーク）４　意見交換の手法 10.　福祉・まちづくりの実際（フィールドワーク）５　生活の実態把握 11.　中山間地域の可能性１　中山間地域におけるまちづくりと「小さな拠点」事業 12.　中山間地域の可能性２　中山間地域における地域福祉と「地域運営組織」 13.　中山間地域の可能性３　中山間地域における課題解決手法の検討（グループディスカッション） 14.　中山間地域の可能性４　福祉のまちづくりが目指す未来像（パネルディスカッション） 15.　中山間地域の可能性５　まとめ（授業全体の振り返りと残された課題）	■課題：半日単位程度を目安にミニッツペーパーを記載する。授業の最後には，全体を締めくくる「最終課題」が提示されるので，執筆する。■授業時間外の学習内容：授業で言及される様々な地域課題について，インターネットや書籍等で調べることが望まれる。

授業外の学修（予習・復習等）について

　この授業を履修するにあたって，「学修上のアドバイス」を記した書籍を読むことにより，概ね30時間程度の自主学習は自ずと必要となる。具体的には，授業受講前に２冊の書籍を読むことで15時間程度，授業受講後に３冊の書籍を読むことで15時間程度の時間が必要になると思われる。
　これらの書籍を読むためには，ある程度まとまった時間を必要とするため，休日や長期休業期間などを利用して時間を確保すること。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	・授業に出席した上での学習態度（簡易レポートの提出状況も含める）（40%） ・フィールドワークやワークショップの参加態度（30%） ・授業の到達度を評価する最終レポート（30%）
教　　材	・教科書：使用しない（授業開始時にオリジナルの資料集を配布する） ・参考文献：国立社会保障・人口問題研究所編（2013）：『地域包括ケアシステム』慶應義塾大学出版会．中国新聞取材班（2016）：『中国山地過疎50年』未来社．
キーワード	人口減少社会，中山間地域　地域福祉　まちづくり　地域づくり　集落

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
地域経済・地域財政からみたまちづくり	2	松本　宏光	社会福祉学科4年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】

【授業の目標】
本授業は、津山市第5次総合計画に基づき、地方自治のあり方や津山市行政の現状や課題を把握し、今後のまちづくりや社会生活において基礎知識を身につけることを目標とします。

【授業の到達目標】
本授業を受講することにより学生は、人口の流出入、若い世代の結婚・出産・子育て、時代に合った地域づくりなどを学び、地域の活性化とその好循環の維持を実現していくため、「自分にできることは何か」を常に考えることができるようになる、まちづくりの基礎講義としていきます。

【授業の内容及び方法】
講義及びグループ討議、フィールドワークを組み合わせて進めます。

履修上の注意・要望等

講義を聴く姿勢（傾聴力）を意識して出席してください。特に、フィールドワークでは現場の人の声や目に映るものをしっかりと把握し、自分なりの「気づき」や「発見」を大切に履修してください。

授　業　計　画		課題及び授業時間外の学習内容
1.　津山市の姿	総合計画からみる津山市 （総合企画部　みらいビジョン戦略室）	
2.　津山市の福祉施策①	生活保護の現状と課題　今後の動向 （環境福祉部　生活福祉課）	
3.　津山市の福祉施策②	高齢者の権利擁護について （環境福祉部　高齢介護課）	
4.　津山市の健康施策	津山市の健康施策 （こども保健部　健康増進課）	
5.　津山市の子ども施策	津山市のこども施策 （こども保健部　こども子育て相談室）	
6.　協働のまちづくり①	津山市の中山間地域の課題と取り組み① （地域振興部　協働推進室）＜フィールドワーク＞	
7.　協働のまちづくり②	津山市の中山間地域の課題と取り組み② （地域振興部　協働推進室）＜フィールドワーク＞	
8.　津山市の産業経済①	津山市の産業経済① （産業経済部）	
9.　津山市の産業経済②	津山市の産業経済② （産業経済部）	
10. 津山市の公共施設	公民連携による新しい公共施設と公共サービスのかたち （財政部　財産活用課）	
11. 執行機関と議決機関	市長と議会の関係　法律と条例・規則 （総務部　総務課）	
12. 津山市議会　傍聴	６月定例会　一般質問傍聴　＜市役所＞ （総合企画部　みらいビジョン戦略室）	
13. 津山市の都市建設①	歴史を活かしたまちづくり① （都市建設部　歴史まちづくり推進室）	
14. 津山市の都市建設②	歴史を活かしたまちづくり② （都市建設部　歴史まちづくり推進室）	
15. 元気のあるまちづくり	まとめ （総合企画部　みらいビジョン戦略室）	

授業外の学修（予習・復習等）について

この科目を履修するにあたって概ね30時間の自主学修が必要です。
第5次総合計画や毎月発行の「広報津山」の精読、津山市HP及びFaceBook等の閲覧など、津山市の最新情報の収集を行い、履修に備えてください。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	学習態度（６０％）・レポート（４０％）により総合的に評価します。
教　　材	必要に応じてプリントを配布します。
キーワード	幸福感　人口減少時代　総合戦略　持続可能なまちづくり　公共施設マネジメント 協働　ものづくり　定住自立圏　ブランド化　児童虐待（子ども虐待）、子どもの育ちのニーズ

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉行財政と福祉計画	2	田中　涼	社会福祉学科4年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
　個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、新たな時代の社会問題・福祉問題に対応していくために求められる福祉行政・福祉財政・福祉計画とそれぞれの関係性についての理解を深め、社会福祉を包括的に捉える視点を涵養することを目標とする。

【授業の到達目標】
⑴福祉財政・福祉計画の基本的な仕組みについて説明できる。
⑵福祉行政・福祉専門職が果たすべき機能と役割について説明できる。
⑶分野横断的な包括的支援体制の在り方について説明できる。

【授業の内容及び方法】
福祉行政（福祉政策の立案）・福祉財政（福祉政策の財源）・福祉計画（福祉政策の実行）とそれぞれの関係性について学ぶ。講義に加え、担当教員の実務経験を踏まえた法的倫理的に問題のない事例や実際に作成された各種福祉計画を紹介し、事例検討やグループディスカッションを含めて学生との積極的な対話を重視した授業を展開する。

履修上の注意・要望等

事例検討やグループディスカッションに積極的に参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
⑴オリエンテーション／福祉行政の実施体制（福祉制度の体系） ⑵福祉制度の実施体制①（福祉制度の歴史） ⑶福祉制度の実施体制②（国と地方自治体の関係と役割） ⑷福祉の財源（国・地方自治体の財政システム、公費負担方式と社会保険方式） ⑸福祉行政の組織・団体の役割（公的機関・民間団体・社会福祉法人・社会福祉施設等） ⑹福祉行政における専門職の役割（社会福祉士等福祉専門職の社会的意義及びネットワーク） ⑺福祉行政の組織・団体・専門職の機能と役割（事例検討・グループディスカッション） ⑻福祉行財政の動向①（2000年以前） ⑼福祉行財政の動向②（2000年以後） ⑽福祉計画の目的と意義（福祉計画の歴史と住民参加） ⑾福祉計画の方法（ニーズの種類と測定、評価とモニタリング、費用効果分析・費用便益分析） ⑿福祉計画の実際①（地方自治体の総合計画・地域福祉計画・各分野に関連する計画） ⒀福祉計画の実際②（地方自治体の総合計画・地域福祉計画・各分野に関連する計画） ⒁福祉計画の検討①（地域福祉計画・介護保険事業計画を用いたグループディスカッション） ⒂福祉計画の検討②（地域福祉計画を用いたグループディスカッション）	⑴～⒀（*ただし⑺を除く） 教科書の該当部分を熟読してくること ⒁ 出身地の地域福祉計画・介護保険事業計画を入手し、熟読してくること ⑺及び⒂ 指定されたテーマに基づく課題（レポート）を作成すること

授業外の学修（予習・復習等）について

教科書や適宜配布する資料を熟読し、予習・復習を欠かさない姿勢で臨むこと。社会問題や福祉問題に関する新聞やニュースなどに関心を持って情報を得ること。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学習が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	試験（60%）、提出課題（20%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。
教　　材	教 科 書：永田祐／岡田忠克　「よくわかる福祉行財政と福祉計画」　ミネルヴァ書房 参考文献：磯部文雄／府川哲夫　「概説　福祉行財政と福祉計画」　ミネルヴァ書房 　　　　　森明人　「市町村福祉行政のアドミニストレーション」　中央法規 ＊適宜、資料を配布する。
キーワード	福祉行政、福祉財政、福祉計画、公費負担、社会保険、縦割り、制度の狭間、地域共生社会、我が事・丸ごと、全世代・全対象型地域包括支援体制

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助演習Ⅳ	1	○堀川涼子・有岡道博・小坂田稔・菅原明美・武田英樹・田中涼・新谷芳子・薬師寺明子（527他）	社会福祉学科４年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生がソーシャルワーク実践力を身につけ、専門職として活用できることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
実習分野ごとに各担当教員に分かれて開講する、相談援助実習において必要な知識・技術を、実習前に理解し習得できるよう具体的な事例を用いて学んだり、学生が各自、地域課題を調べて発表するなどの演習を行う。

履修上の注意・要望等

相談援助実習・実習指導と連動する。実習を履修しない学生はこの科目は履修できない。
演習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．オリエンテーション ２・相談援助実習に必要とされる援助技術①ミクロ・ソーシャルワーク ３．相談援助実習に必要とされる援助技術②メゾ・マクロ・ソーシャルワーク ４．自己覚知①講義 ５．自己覚知②演習 ６．基本的なコミュニケーションの技術習得①講義 ７．基本的なコミュニケーションの技術習得②演習 ８．基本的な面接技術の修得①講義 ９．基本的な面接技術の修得②演習 10．社会福祉士の倫理①講義 11．社会福祉士の倫理②演習 12．具体的な課題別相談援助事例の総合的・包括的理解①講義 13．具体的な課題別相談援助事例の総合的・包括的理解②演習 14．事例を題材とした相談援助の各過程における実技指導 15．地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を題材とした援助技術の実技指導	1～15.毎回、課題が出されるため、各自、あるいはグループで調べ、発表できるようにまとめること。

授業外の学修（予習・復習等）について

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。
残った課題は復習を行うこと。おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート（50%）・課題への取り組み態度（50%）により総合評価する。
教　　材	実習の事前学習の資料等　　その他、適宜、資料を配布
キーワード	面接技術　　ケースワーク　　グループワーク　　ケアマネジメント　　コミュニティワーク

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助演習Ⅴ	1	○堀川涼子・有岡道博・小坂田稔・菅原明美・武田英樹・田中涼・新谷芳子・薬師寺明子（527他）	社会福祉学科４年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人権尊重の価値と倫理に基づく社会福祉の援助観を理解し、福祉ニーズを有する人の立場に立ち、その想いや暮らしに寄り添いながら援助を組み立て、実践できること。

【授業の目標】
相談援助にかかる知識と技術について、相談援助実習における個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生がソーシャルワーク実践力を身につけ、専門職として活用できることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
実習分野ごとに各担当教員に分かれて開講する。相談援助実習における学生の個別的な体験等を基にして、事例発表やグループワークを行い、実践と理論、制度サービス等を結びつけられるように振り返りを行う。

履修上の注意・要望等

相談援助実習・実習指導と連動する。実習を履修しない学生はこの科目は履修できない。
演習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１、相談援助実習で体験した実践的知識と技術・倫理の振り返りと習得 ２、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得①（人を理解する） ３、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得②（地域を理解する） ４、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得③（組織・機関を理解する） ５、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得④（制度・サービスを理解する） ６、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得①（自己覚知） ７、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得②（援助過程） ８、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得③（面接技術） ９、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得④（個別支援計画） 10、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得⑤（記録・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ） 11、相談援助実習で体験した実践的場面での価値と倫理の振り返りと習得①（自己決定支援） 12、相談援助実習で体験した実践的場面での価値と倫理の振り返りと習得②（倫理綱領） 13、個別的体験の意味づけと理解①　各自発表 14、個別的体験の意味づけと理解②　評価 15、まとめ	1～15.毎回、課題が出されるため、各自、あるいはグループで調べ、発表できるようにまとめること。

授業外の学修（予習・復習等）について

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。
残った課題は復習を行うこと。おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート（50％）・課題への取り組み態度（50％）により総合評価する。
教　　材	実習の事前・事後学習の資料、実習日誌。　　その他、適宜、資料を配布する。
キーワード	面接技術　ケースワーク　グループワーク　ケアマネジメント　コミュニティワーク　社会保障制度

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助実習指導Ⅱ	2	○堀川涼子・有岡道博・小坂田稔・菅原明美・武田英樹・田中涼・新谷芳子・薬師寺明子（527他）	社会福祉学科４年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉の理念、専門的知識と技術、加えてまちや地域づくりの知見を養う。特に地域福祉の充実のため、生活援助の提案・実践力を身につけること。

【授業の目標】
社会福祉士指定科目としての相談援助実習における、実習事前オリエンテーションおよび実習事後スーパービジョンを受けるための授業であり、社会福祉専門職としての価値・知識・技術を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生が相談援助実習を充実したものとし、ソーシャルワーク専門職としての実践力を身につけられるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
実習分野ごとに各担当教員に分かれて開講する。実習の事前学習と事後の振り返りにより①社会福祉施設・機関等における相談援助業務を理解する、②ソーシャルワークの本質（専門的価値・知識・技術の学習等）を学習する、③将来専門職者としての資質を培えるよう専門職者としての倫理観を学ぶ、これらを実践と理論として結びつける。
実習においては、ソーシャルワーク実践の他、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても学習する。
大学において、実習の事前及び事後に、スーパービジョン（個別・グループ）を行い、各自が調べ発表したり、グループワークを行ったりしながら、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けて学習する。

履修上の注意・要望等

相談援助実習と連動して単位認定を行う。遅刻・欠席は認めない。積極的な態度で臨むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．　実習に際してのオリエンテーション ２．　実習施設・機関の根拠法理解 ３．　実習施設・機関の制度理解 ４．　実習施設・機関の利用者理解 ５．　実習施設・機関の職員・職場理解 ６．　実習目的と目標設定 ７．　実習直前オリエンテーション ８．　実習事後スーパービジョン①　クライエント理解 ９．　実習事後スーパービジョン②　組織・機関の理解 10.　実習事後スーパービジョン③　制度・サービスの理解 11.　実習事後スーパービジョン④　相談援助技術の理解 12.　実習事後スーパービジョン⑤　相談援助展開過程の理解 13.　実習事後スーパービジョン⑥　自己覚知 14.　実習事後スーパービジョン⑦　現代社会や福祉現場の抱える課題への理解 15.　相談援助実習まとめ　（実習体験発表会・報告書作成等の指導を含む）	実習指導は受身ではなく、自ら主体的に学ぶことが基本なため、実習に必要な知識・技術・価値倫理について適宜学ぶこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。
残った課題は復習を行うこと。おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	課題の作成・発表（30%）、受講態度（40%）、記録・報告（30%）により総合的に評価する。
教　　材	「相談援助実習の手引き」、学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする。 資料等は必要に応じてその都度、配布する。
キーワード	相談援助実習　相談援助技術　スーパービジョン

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助実習	4	○堀川涼子・有岡道博・小坂田稔・菅原明美・武田英樹・田中涼・新谷芳子・薬師寺明子（527他）	社会福祉学科４年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する社会福祉援助技術について理解し、実践できるよう身につけること。

【授業の目標】
社会福祉士指定科目としての相談援助実習における、実習事前オリエンテーションおよび実習事後スーパービジョンを受けるための授業であり、社会福祉専門職としての価値・知識・技術を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生がソーシャルワーカーとしての実践力を身につけられるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
実習分野ごとに各担当教員に分かれて開講する。実習においては、ソーシャルワーク実践の他、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても実践しながら学習する。
実習時間は180時間以上とする。大学においては、実習の事前及び事後に、スーパービジョン（個別・グループ）を行い、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けて学習する。実習体験発表会・実習報告書の作成等一連の課題を提出し、すべての実習・実習指導の修了とする。

履修上の注意・要望等

相談援助実習指導Ⅱと連動して単位認定を行う。遅刻・欠席は認めない。積極的な態度で臨むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
「相談援助実習」（社会福祉士国家試験受験資格指定・全180時間以上）を実習指定施設・機関等において行う。夏季休暇中を利用して、それぞれ担当教員の下、前期に事前学習をした内容及びこれまでの講義･演習を踏まえて、専門職としての自覚と知識・技術を高める。 実習体験発表会・実習報告書の作成等一連の課題を行うことで、福祉実践力を身につける。 １．　実習施設・機関の理解 ２．　利用者やその家族等の理解 ３．　職員・関係者の理解 ４．　制度・サービスの理解 ５．　施設･機関運営の理解 ６．　利用者･家族等、職員や地域住民等との円滑な人間関係の形成 ７．　利用者・家族等との援助関係の形成 ８．　利用者やその家族等への権利擁護及び支援 ９．　多職種連携をはじめとするチームアプローチの実際 10.　社会福祉士としての職業倫理および実習施設・機関における就業規則とへの理解 11.　地域社会の中での実習施設･機関の役割 12.　地域への働きかけ（アウトリーチによる支援） 13.　地域への働きかけ（ネットワークの理解） 14.　地域への働きかけ（社会資源の活用・改善・開発） 15.　実習体験発表会・実習報告書の作成	実習指導は受身ではなく、自ら主体的に学ぶことが基本なため、実習に必要な知識・技術・価値倫理について適宜学ぶこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

実習に向けて各自、必要な自主学修を行い実習準備について怠らない。実習日誌は日々作成すること。概ね30時間程度の自主学修を必要とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	課題の作成・発表（30％）、受講態度（40％）、記録・報告（30％）により総合的に評価する。
教　　材	「相談援助実習の手引き」、資料等は必要に応じてその都度、配布する。 学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする。
キーワード	相談援助技術　　相談援助実習　　相談援助実習指導　　相談援助実習指定施設・機関等

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉のまちづくり論	2	岸田　かおる	社会福祉学科4年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
地域社会やそこでの暮らしの中で支援する視点をもち、地域福祉の充実のため、まちや地域づくりの知見を養うこと。

【授業の目標】
本授業は、福祉のまちづくりについて、基本理念となる社会福祉法第４条「地域福祉の推進」を基に、社会情勢や現場実践等を交え、地域における福祉専門職としての総合的な資質を養うために行う。

【授業の到達目標】
「地域福祉の推進」に基づいた地域住民によるまちづくり（ノーマライゼーションでする住民自治）に、専門職として使命感を持ち、どう役割を果たし、行動を起こせるか等、自分なりの考えを持つこと。広く様々な社会問題への関心を持つこと。

【授業の内容及び方法】
2000年社会福祉法に「地域福祉の推進」という新たな理念が加わり、暮らしに関わる全ての課題の解決（まちづくり・地域づくり）を、すべての人の参加で作り上げる仕組みに変わった意義、新たな法改正や関連する法・制度、や現代的な社会情勢まで幅広く抗議する。講師による福祉でまちづくりの実践をベースに、具体的・段階的な方策等も講義する。

履修上の注意・要望等

毎回のレポート（振り返りシート）が必須。欠席でも講義資料を読んで提出が可能。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．地域福祉とは　　新しい福祉の理念と法制度の変革① ２．地域福祉とは　　新しい福祉の理念と法制度の変革② ３．参加民主主義について ４．新しい働き方について① ５．新しい働き方について② ６．新しい市民社会像　ノーマライゼーションでする住民自治 ７．地域福祉計画策定の実際①　行政職員・社協職員・地域住民の意識改革 ８．地域福祉計画策定の実際②　人材養成のための“福祉でまちづくりワークショップ” ９．地域福祉計画策定の実際③　地域福祉推進の単位である校区ごとの計画策定の実際 １０．地域福祉計画推進の実際①　校区ごとの組織づくり １１．地域福祉計画推進の実際②　障碍者の意識改革 １２．地域福祉計画推進の実際③　情報の共有とこれからの課題 １３．住民自治の実現に関するわが国法・制度の新しい動き① １４．住民自治の実現に関するわが国法・制度の新しい動き② １５．福祉国家の未来像を考える	・１－１５において、前回の授業のレポート（振り返りシート）を提出する。振り返りシートは内容や資料について自分で考えたことや感想、疑問点等を記述すること。自ら、新聞記事やニュースで最新の情報をストックしておく。

授業外の学修（予習・復習等）について

・自主的学修として30時間程度は必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（実践関連でのディスカッション）	○

評価方法	１ふりかえりシートの提出（５０％）（記録や感想やアイディアなどレポートとして記述する。） ２出席・授業態度（５０％）（社会に出る前の年齢で常識ある態度で授業を受けること。） 毎回のレポート（振り返りシート）が必須。欠席でも資料を読んでの提出が可能。
教　　材	地域福祉の源流と創造（三浦文夫・右田紀久恵・大橋謙策）地域福祉の源流と創造(中央法規)
キーワード	地域福祉計画　　ソーシャルインクルージョン　ウェルビーイング　ノーマライゼーション 住民自治　参加民主主義　地方自治の本旨　住民自治　まちづくり　ＮＰＯ　社会福祉協議会 コミュニティソーシャルワーク　ワークショップ　コミュニティペーパー　ソーシャルビジネス

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
特別演習Ⅱ	2	○新谷　小坂田　石飛　長谷川 桐生　小山　堀川　武田　有岡 薬師寺　菅原	社会福祉学科　４年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
社会福祉士として社会に貢献できるよう、地域社会の暮らしに対する強い関心や問題意識、目的意識、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養に努めること。

【授業の目標】
特別演習Ⅰをさらに発展させ、生活者の立場や地域住民の視点から、いきいきとした暮らしの実現に向けてさまざまなテーマで研究を行い、諸課題の解決を目指し、社会福祉、地域社会づくりに貢献できる実践力を身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
関心のあるテーマみつけ、現場体験等を通して現状と課題を理解し、必要とされる取り組みについて提言できるようになる。

【授業の内容及び方法】学科教員がそれぞれの専門分野をいかして実施する少人数のゼミナールである。各担当教員のテーマや内容はオリエンテーションで説明する。研究室の配属はオリエンテーション後に調査し、学生の希望と教員の受け入れ条件等で決定する。授業方法は、各研究室によって異なるが、文献の輪読、グループワーク、課題発表を中心にゼミナール形式で学習する。

履修上の注意・要望等

特別演習Ⅰ、卒業研究と連動する研究室があるため注意すること。また、特別演習Ⅰを修得していなければ、本科目は履修できません。少人数のゼミナール形式のため、一人ひとりが追及したい課題と積極性を持って参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
各担当教員の授業計画の詳細は別途提示する １．オリエンテーション ２．特別演習Ⅰの振り返り　課題の整理 ３．テーマに沿った情報収集と文献検察 ４．テーマに沿った活動の展開①　研究計画の作成 ５．テーマに沿った活動の展開②　調査対象者の選択 ６．テーマに沿った活動の展開③　現地調査 ７．テーマに沿った活動の展開④　アンケートの作成 ８．テーマに沿った活動の展開⑤　調査 ９．テーマに沿った活動の展開⑥　分析 10. テーマに沿った活動の展開⑦　分析 11. テーマにそった活動の展開⑧　結果 12. テーマに沿った活動の展開⑨　考察 13. 研究の限界と今後の課題 14. ゼミ活動発表の準備 15. まとめ	グループ討議が中心となるため、各自、授業までに必要な資料、文献を集め熟読しておくこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

課題発表、グループ討議が中心となるため準備を怠らず、授業後に残った課題は復習として取り組むこと。　概ね30時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	授業への取り組み（50%）、研究レポート等（50%）により総合的に評価する。
教　　材	それぞれの担当教員が指示する。
キーワード	福祉理念、人権擁護、地域福祉、社会貢献、生活課題、QOL

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
特別演習Ⅲ	1	○新谷　小坂田　有岡　石飛　桐生 小山　武田　長谷川　堀川 薬師寺　菅原	社会福祉学科　4年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
少人数教育と集団教育を行うことにより、社会で求められる幅広い知識と個々の生活課題に関心を持ち、主体的に解決しようとする姿勢を身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
福祉専門職としてのみならず社会人としての態度と知識を身につけ、学生相互の議論を通じて考えを説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】
学科教員がそれぞれの専門分野をいかして実施する少人数ゼミナールと、全員を対象に行うオムニバス形式の授業を行う。担当教員別にテーマと内容が示され、学生の希望と担当教員の受け入れ条件などにより、学生の研究室への配属が決定される。

履修上の注意・要望等

卒業必修科目である。教員によって特別演習Ⅰ・特別演習Ⅱと連動している場合があるので注意すること。少人数のグループ学習活動のため、一人ひとりが追及したい課題と積極性をもって参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
各担当教員の詳細な計画は各教員で別途示される。 １．オリエンテーション ２．演習のテーマについて ３．演習のテーマを検討 ４．（集団授業）　社会人としての必要な知識 ５．テーマに沿った情報収集 ６．テーマに沿った文献検索 ７．テーマに沿った活動の展開①　課題の検討 ８．テーマに沿った活動の展開②　計画 ９．テーマに沿った活動の展開③　実践 10．テーマに沿った活動の展開④　事後評価 11．グループスーパービジョン 12．（集団授業）　ゼミ活動の発表　1部 13．（集団授業）　ゼミ活動の発表　2部 14．演習のまとめ 15．（集団授業）　卒後セミナー	（5-11）資料や文献は事前に集めるようにし、熟読して授業に望むこと。 また、講義の中で見えてきた課題について、事後学習でまとめておくこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

グループ学習活動になるため、授業の前には予習として資料や文献を熟読することと、演習後には振り返りをきちんと行うこと。おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	学習意欲（30%）、受講態度（30%）、事前・事後のレポート（40%）をもとに評価する。
教　　材	担当教員がそれぞれ指定する。
キーワード	社会福祉、社会情勢の把握、グループワーク

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
卒業研究	4	○新谷　小坂田　石飛　長谷川 桐生　小山　堀川　武田　有岡 薬師寺　菅原	社会福祉学科４年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉の理念、専門的知識と技術、加えてまちや地域づくりの知見を養う。特に地域福祉の充実のため、生活援助の提案・実践力を身につけること。

【授業の目標】
当事者側の視点にたった生活課題に加え、まちや地域づくりについて、各自関心のあるテーマで研究を行い、地域福祉の充実のために諸課題の解決を目指して、地域社会に貢献できる提案や実践力を身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
関心のあるテーマみつけ、調査等を通して現状と課題を理解し、必要とされる取り組みについて、調査に基づいた自分の考えを提言できるようになる。

【授業の内容及び方法】
それぞれの専門分野の担当教員につき、研究方法を学びながら関心のあるテーマを研究する。研究の経過は中間発表で報告し、様々な人の意見を聴き研究を深めていく。最終的には卒業研究発表会で研究の成果を全体に報告し、論文化する。

履修上の注意・要望等

教員によっては特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱと連動する場合があるため注意すること。担当教員について、研究テーマが教員の分野にあうかどうか、事前に教員とよく相談して決めること。

授　業　計　画

各担当教員の授業計画の詳細は別途提示する

１．オリエンテーション
２．卒業研究のテーマの検討
３．卒業研究のテーマの決定
４．情報収集と文献検察
５　文献調査
６．文献調査のまとめ
７．文献調査から見えてきた課題
８．研究計画について
９．研究計画の検討
10．研究計画書作成
11．研究の説明書・同意書の作成
12．調査項目の検討
13．調査項目の作成
14．中間発表にむけてレジュメ作成
15．中間発表にむけてパワーポイント作成
16．調査にあたっての注意点
17．調査準備
18．調査実施
19．データの収集
20．データの分析
21．データの分析とまとめ
22．研究の結果
23．研究の考察
24．研究の考察を深める
25．研究のまとめ
26．研究の限界と課題
27．卒業研究発表にむけてレジュメ作成
28．卒要研究発表にむけて
　　パワーポイント作成
29．地域にむけて提言書作成
30．卒業研究のまとめとふりかえり

課題及び授業時間外の学習内容

授業外の学修（予習・復習等）について

研究テーマに沿った資料や文献を入手し、熟読した上でまとめておくこと。授業中に出された課題に取り組み、各自、研究が計画通りに進められるようにすること。学修時間はおおむね60時間とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	研究への取り組み（30％）、中間発表（20％）、卒業研究発表（20％）、論文（30％）により総合的に評価する。
教　　材	それぞれの担当教員が指示する。
キーワード	人権擁護、地域福祉、社会貢献、生活課題、地域課題、まちづくり、地域づくり

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
教育方法・技術論	2	中野和光(422)	社会福祉学科4年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識、技能を身に付けることを目標とする。

【授業の到達目標】
教育方法の歴史、理論、視聴覚教材・情報機器活用の歴史と理論、今日の授業方法の課題、授業の準備、計画、実施、評価の技術を理解し、説明できる。教材を制作できる。

【授業の内容及び方法】
教育方法の歴史、理論、視聴覚教材・情報機器活用の歴史と理論、今日の授業方法の課題、授業の準備、計画、実施、評価の技術について講義をし、教材の制作を行う。

履修上の注意・要望等

制作した教材は、授業の中で発表する。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
第1回　教育の方法・技術とは何か 第2回　教育方法の歴史的発展（1）―西洋― 第3回　教育方法の歴史的発展（2）―日本― 第4回　授業の理論とモデル 第5回　視聴覚教育の歴史と理論 第6回　情報機器活用の歴史と理論 第7回　今日の授業方法の課題（1）―求められる資質・能力― 第8回　今日の授業方法の課題（2）―主体的で対話的で深い学び― 第9回　授業の方法と技術（1）―授業の準備― 第10回　授業の方法と技術（2）―授業の計画― 第11回　授業の方法と技術（3）―授業の実施― 第12回　授業の方法と技術（4）―授業の評価― 第13回　教材の制作（1）―パワーポイントを使って教材制作― 第14回　教材の制作（2）―パワーポイントを使って教材制作― 第15回　教材の発表―iPadとプロジェクターを使って発表	

授業外の学修（予習・復習等）について

授業内容に関する文献リストを配布するので、それを読んで授業に臨むこと。授業後に、それを基にさらに関連する文献を読んで自主的に学修すること。概ね30時間。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　）	

評価方法	試験（70%）、教材制作（30%）
教　　材	小学校学習指導要領〈平成29年3月告示、文部科学省〉、日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社　平成26年、ヴァン・マーネン著、岡崎美智子・大池美也子・中野和光訳『教育のトーン』ゆみる出版　平成15年、中野和光編著『教科の充実で学力を育てる』ぎょうせい　平成16年
キーワード	教育方法、視聴覚教育、情報機器、教育方法学、教育方法史、授業理論、授業方法、授業の準備・計画・実施・評価、学習評価、教材づくり

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
生徒・進路指導論	2	渡邉　淳一（672）	社会福祉学科　4年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
教員として組織的に生徒指導及び進路指導を推進するために必要な知識や素養を身に付けることを目標とする。

【授業の到達目標】
生徒指導・進路指導の意義及び原理、生徒指導・進路指導の進め方、個別の課題を抱える児童生徒への指導の在り方、学校内外の連携の在り方等について理解できる。

【授業の内容及び方法】生徒指導・進路指導に関する理論及び実際の指導方法について講義を通して学ぶ。学習内容について相互にプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。担当教員の実務経験から実践的な内容を学ぶ。

履修上の注意・要望等

テキスト『生徒指導提要』の内容を受講生がプレゼンテーションする。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
(1) ガイダンス　生徒指導の意義と原理 (2) 教育課程と生徒指導 (3) 青年期の心理と発達 (4) 生徒理解の資料とその収集 (5) 生徒指導の進め方（組織・役割・法） (6) 生徒指導の進め方（学級・規律・安全） (7) 個別課題への指導（飲酒・喫煙・薬物乱用・家出・少年非行） (8) 個別課題への指導（暴力行為） (9) 個別課題への指導（いじめ） (10) 個別課題への指導（不登校・中途退学） (11) 個別課題への指導（スマホ関連） (12) 個別課題への指導（性・命） (13) 個別課題への指導（虐待・法的処遇） (14) ガイダンスの機能と進路指導・キャリア教育 (15) キャリア教育の基礎理論と実践方法	(1) レポートを作成する (7～15) 受講生による模擬授業形式

授業外の学修（予習・復習等）について

『生徒指導提要』を熟読すること。受講生各自が担当した内容について模擬授業を行う形式で進めるため、概ね30時間の自主学習が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　）	

評価方法	レポート・模擬授業30％、期末試験70％
教　　材	文部科学省　2011　『生徒指導提要』　教育図書 文部科学省　2011　『中学校キャリア教育の手引き』　教育出版
キーワード	生徒指導、自己指導能力、進路指導、キャリア教育

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
教育相談	2	渡邉　淳一（672）	社会福祉学科　4年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
教員として適切に教育相談を実践するための基礎的知識（カウンセリングの意義、理論及び技法に関する基礎的知識を含む。）及び技能を身に付けることを目標とする。

【授業の到達目標】
児童生徒の発達上の課題や問題及び保護者の心情、並びに教育相談の特徴について理解できる。教育相談を実施できる。教育相談という相互行為を的確に省察できる。

【授業の内容及び方法】
保育者・教員として適切に教育相談を実践するための基礎的知識及び技能を講義・演習を通して学ぶ。この授業では、担当教員の実務経験を踏まえ、実践的な内容を扱う。

履修上の注意・要望等

生徒指導の意義・目的や、関連法律についても学ぶため、幅広い学習が必要。

	課題及び授業時間外の学習内容
（1）ガイダンス　生徒指導の意義・目的と教育相談 （2）ガイダンスとカウンセリング （3）ロジャーズの人間観、自己理論 （4）教育相談の意義・目的 （5）教育相談体制・組織 （6）問題解決的教育相談に必要な基礎理論（心理・認知・行動） （7）問題解決的教育相談に必要な基礎理論（問題行動） （8）省察の理論と技法 （9）教育相談の進め方 （10）アクティブ・リスニング演習 （11）学級担任による教育相談（コーチング） （12）教育相談の新たな展開 （13）教育相談における保護者とのかかわり （14）専門家・専門機関等との連携 （15）全体のまとめ・総復習	（1）レポートを作成する （4）レポートを作成する （6～8）グループワークとレポート作成 （9）授業の中で中間試験（30分程度）を行う

授業外の学修（予習・復習等）について

『生徒指導提要』を熟読し、関連法規の知識もまとめておくこと。生徒指導や教育心理の内容にも及ぶため、概ね30時間以上の自主学習が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	中間・期末試験90%、レポート課題及び普段の受講態度10%
教　　材	文部科学省　2011　『生徒指導提要』　教育図書
キーワード	教育相談、カウンセリング、ガイダンス、リフレクション

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
教職実践演習（高）	2	薬師寺明子（520） 植月洋子（211）・松原洋子（121）	社会福祉学科４年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
教育者として必要な人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力、豊かな人間性の涵養を図る。

【授業の到達目標】
大学４年間で学んだ学習知と教育実習等で習得した教科指導力、生徒指導力、コミュニケーション力、コーディネート力やマネジメント力といった実践知とのさらなる統合を図りる。そして、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力と研究心を有した教員としての資質・能力の向上を目指す。

【授業の内容及び方法】
学習内容では、教員としての資質・能力の向上に関する自己課題を明確にした上で、現職教員等の講話や学校教育現場の見学、グループ討議、ロールプレイング、模擬授業、発表等の取り組みを通して、(1) 学校・家庭・地域の連携のあり方、(2)生徒理解と学級経営、(3)実践的態度の育成を目指した授業設計について、学校教育現場の視点からこれまでの教職に関する学びの総合化を図る。

履修上の注意・要望等

グループ討議、課題発表が中心となるため、遅刻・欠席しないよう受講すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．自らの教員としての能力・資質の向上に関する課題（教育実習の振り返り） ２．教職の意義、教員の役割、職務内容と生徒に対する責任等についてグループ討議 ３．地域・家庭・学校の連携①：「子どもの成長と地域福祉」に関する講話 ４．地域・家庭・学校の連携②：調査･グループ討議 ５．生徒理解と学級経営①：「今日の教育課題」に関する講話 ６．生徒理解と学級経営②：グループ討議・ロールプレイング ７．授業設計と模擬授業①：研究題材の設定と教育目標の検討 ８．授業設計と模擬授業②：授業展開の構想 ９．学校教育現場の見学①　事前学習 １０．学校教育現場の見学②　授業見学 １１．学校教育現場の見学③　演習見学 １２．授業設計と模擬授業③：効果的な学習方略の検討 １３．授業設計と模擬授業④：模擬授業 １４．授業設計と模擬授業⑤：模擬授業，研究成果のまとめ １５．高校教職の意義と自己課題：まとめ・発表	７－８．模擬授業の事前準備 ９－１１．見学先の事前学習 １２‐１４．模擬授業の準備

授業外の学修（予習・復習等）について

この授業を履修するにあたり、30時間程度の自主学修が必要となる。課題等の事前準備を怠らないこと。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	受講態度（20%）模擬授業・レポート・プレゼンテーション　等（80%）
教　　材	随時配布する資料 参考文献：　大橋謙策編『福祉科指導法入門』（中央法規） 文部科学省編『高等学校学習指導要領解説　福祉編』（実教出版）　他
キーワード	福祉科教員・福祉科教育・教育実習

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
事前事後指導	1	植月 洋子（３４０）	社会福祉学科４年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
本授業は、教育実習生としての心構え、態度を学び、教員としての教養を身につけ、能力・認識を深めるために行なう。

【授業の到達目標】
教科の授業は勿論、特別活動や部活動も含めた教育活動全般を通して教職についての認識を深め,教員としての責務を理解し、行動できるようにする。
また、教育実習後は、自身の教員としての資質・能力・適正を判断する。

【授業の内容及び方法】
教育実習が円滑に進行しその成果が上がるよう、事前・事後の指導をする。
教育実習前・・・実習協力校の正常な教育活動に支障をきたすことのないよう授業準備、服装、心得等、教育実習に臨む姿勢を整える。
教育実習後・・・教育実習の反省をふまえて、実習記録冊子作りをする。

履修上の注意・要望等

教育実習生としての本分を十分理解し、意欲をもって取り組む。
実習協力校との連絡、大学への報告、相談は、密にとり、正しい判断で行動すること。

授　業　計　画		課題及び授業時間外の学習内容
1,　教育実習の意義と目標		
2,　校務運営の実際		
3,　教育実習の心得①	・生活全般に関すること	11, ・実習校との連絡を密にし、授業での取り組みを考える。
4,　教育実習の心得②	・指導・研究に関すること	
5,　学習指導案の作成		
6,　模擬授業の実践①	・資料集めの方法	
7,　模擬授業の実践②	・教科指導	12, ・自分の認識は正しいかどうかの判断をして、自戒の授業に臨む。
8,　模擬授業の実践③	・生徒指導の実際	
9,　模擬授業の実践④	・教材研究	
10,　模擬授業の実践⑤	・黒板の使い方	
11,　教育実習　①（１週）		
12,　教育実習　②（２週）		
13,　事後指導　①	・実習ノートの完成、礼状の発送	
14,　事後指導　②	・実習記録冊子作りの準備	
15,　教育実習のまとめ・　反省		

授業外の学修（予習・復習等）について

毎回の配布物を熟読し、教育実習についての予習を行なう。
教育実習中の授業を想定して模擬授業など自主学修すること。
教育実習後は、自身の指導力、実践力を反省する。
概ね１５時間の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	・教育実習に対する意欲、取り組み、授業態度（５０％）・教育実習の報告書等（５０％）
教　　材	実習教科の教科書　、　高等学校　学習指導要領　（文部科学省） 参考文献：　よくわかる　学びの技法　（ミネルヴァ書房）
キーワード	・教育実習の意義・目的・心得・実習ノートの書き方

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
教育実習	2	植月 洋子	社会福祉学科4年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人格の形成と豊かな教養を身につけ、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養を図ること。

【授業の目標】
　本授業（教育実習）は、諸理論（これまでに学んできたこと）を実習校において実践（実際に教えること）することであり、教科の内容を正確に生徒に伝える技術を体得し、教育者としての資質について学び、教育現場の厳しさと楽しさを体験する。そのことにより自らの教職への適性・資質・能力を考える機会にする。

【授業の到達目標】
　教職を目指し、学習してきたことを実際の学校現場で実習・体験することにより、自身の教員としての指導力、学校・生徒への対応などの実践力を高める。

【授業の内容及び方法】
　教育活動全般（教科の授業・学級運営・特別活動・部活動）を教育実習生として実践する。
実習協力校の正常な教育活動に支障をきたすことのないよう、指導教官の指導のもと行動する。

履修上の注意・要望等

教育実習生としての本分を十分理解し、意欲をもって取り組むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
高等学校教諭一種普通免許状（福祉）の取得希望者は、高等学校での教育実習に臨む。 期間・・・２週間（概ね６月の第１週ごろからであるが実習校の都合による） 内容・・・教育実習事前事後指導の授業に基づいて実習の準備を行うが、実習中は、実習校の指導教官の指示に従う。 ・授業参観　・授業実習　・学級経営　・クラブ活動　・特別活動 ・学校行事　・生徒指導　・研究授業　等を体験する。 それらを　実習日誌に記入し指導教官の指導を仰ぐ。	

授業外の学修（予習・復習等）について

予習・・・実習校（指導教官）との連絡を密にする。指導案・教材研究の準備を整える。
復習・・・１日の実習の反省をし、次の日の実習に備える。
日々の予習・復習に加えて、休日や長期休業中などを利用して実習で学修した内容を自主学修すること。
概ね30時間の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	実習校の指導教官による評価（５０％）、本学学科規定による評価（５０％）
教　　材	実習校使用の教科書・指導書 教育実習の手引き・よくわかる学びの技法（ミネルヴァ書房）
キーワード	・教育実習の＜意義＞＜目的＞＜心得＞＜実習ノート＞の書き方

社 会 福 祉 学 科　4 年（編入）

1．教養・基礎教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	配当学年 3年	配当学年 4年	福祉士	備考	頁
導入科目	1年次セミナー	演習	2		○				
共通教養科目	現代生活論	講義		2					
	国際社会と日本	講義		2					
	地球環境論	講義		2					
	人権教育	講義		2					
	日本国憲法	講義		2					
	調査と統計	講義		2					
	心理学概論	講義	2		○				
	日本語リテラシー	講義		2					
キャリア科目	キャリアデザイン論	講義		1					
	ボランティア論（教育系）	講義		1					
	ボランティア論（福祉系）	講義		1	○	○			16
	インターンシップ実習	実習		1	○	○			17
	ボランティア実習	実習		1	○	○			18
情報リテラシー科目	情報リテラシーⅠ	演習		2	○			この３科目の中から、２科目４単位以上選択必修	
	情報リテラシーⅡ	演習		2	○				
	情報リテラシーⅢ	演習		2		○			155
外国語科目	英語Ⅰ	演習	1		○				
	英語Ⅱ	演習	1		○				
	英語Ⅲ	演習		1				この１０科目の中から、２科目２単位以上選択必修	
	英語Ⅳ	演習		1					
	英語資格認定Ⅰ	実習		1	○	○			27
	英語資格認定Ⅱ	実習		2	○	○			28
	ドイツ語Ⅰ	演習		1					
	ドイツ語Ⅱ	演習		1					
	韓国語Ⅰ	演習		1					
	韓国語Ⅱ	演習		1					
	中国語Ⅰ	演習		1					
	中国語Ⅱ	演習		1					
健康スポーツ科目	レクリエーション概論	講義		2				この４科目の中から、２科目２単位以上選択必修	
	レクリエーション実技・実習	実習		2					
	スポーツ健康講義	講義		1					
	スポーツ健康実習	実習		1					
単位互換科目	放送大学科目Ⅰ	−		−	○	○		通算して４単位まで卒業要件に含めることができる	39
	放送大学科目Ⅱ	−		−	○	○			39
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅰ	−		−	○	○			40
	大学コンソーシアム岡山科目Ⅱ	−		−	○	○			40
学科基礎科目	生活福祉論	講義		2					
	住まいと福祉	講義		2					
	3Dコンピュータグラフィックス	演習		2					
	社会の変化と社会福祉Ⅰ	講義		2	○				
	数理基礎	講義		2					

【卒業要件】必修科目６単位、選択必修科目８単位以上を含めた計３０単位以上を修得のこと。

２．専門教育科目

区分	授業科目	授業形態	単位数 必修	単位数 選択	配当学年 3年	配当学年 4年	福祉士	備考	頁
専門基幹科目	現代社会と福祉Ⅰ	講義	2		○		◎		
	現代社会と福祉Ⅱ	講義		2	○		◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅰ	講義	2		○		◎		
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ	講義		2	○		◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	講義	2		○		◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	講義	2				◎		
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	講義		2			◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	講義	2		○		◎		
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	講義		2	○		◎		
	介護概論	講義		2				必修科目10単位を含め24単位以上を修得のこと	
	加齢の理解	講義		2					
	障害の理解	講義		2					
	福祉のまちづくり概論	講義		2					
	中山間地福祉のまちづくり	講義		2					
	NPO・ボランティア活動論	講義		2					
	安全・安心のまちづくり	講義		2					
	地域づくりと環境デザイン(演習)	演習		2					
	地域づくりと住民参加(演習)	演習		2					
	地域経済・地域財政からみたまちづくり	講義		2					
専門展開科目	低所得者に対する支援と生活保護制度	講義		2	○		◎		
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	講義		2	○		◎		
	社会福祉事業史	講義		2	○				
	社会保障Ⅰ	講義		2	○		◎		
	社会保障Ⅱ	講義		2	○		◎		
	福祉行財政と福祉計画	講義		2		○	◎		156
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	講義	2		○		◎		
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	講義	2		○		◎		
	相談援助の理論と方法Ⅰ	講義		4	○		◎		
	相談援助の理論と方法Ⅱ	講義		4		○	◎		157
	社会調査の基礎	講義		2	○		◎		
	社会の変化と社会福祉Ⅱ	講義		2	○				
	福祉サービスの組織と経営	講義		2	○		◎		
	権利擁護と成年後見制度	講義		2	○		◎		
	就労支援サービス	講義		1	○		◎		
	更生保護制度	講義		1	○		◎		
	相談援助演習Ⅰ	演習		1	○		◎		
	相談援助演習Ⅱ	演習		1		○	◎		158
	相談援助演習Ⅲ	演習		1		○	◎	必修科目4単位を含め40単位以上を修得のこと	159
	相談援助演習Ⅳ	演習		1		○	◎		160
	相談援助演習Ⅴ	演習		1		○	◎		161
	相談援助実習指導Ⅰ	演習		1	○		◎		
	相談援助実習指導Ⅱ	演習		2		○	◎		162
	相談援助実習	実習		4	○	○	◎		163
	介護実習	実習		1					
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2			◎		
	人体構造及び日常生活行動に関する理解	講義		2					
	リハビリテーション論	講義		2					
	心理学理論と心理的支援	講義		2	○		◎		
	社会理論と社会システム	講義		2	○		◎		
	医療ソーシャルワーク論	講義		2	○				
	保健医療サービス	講義		2	○		◎		
	精神保健	講義		2	○				
	家庭支援論	講義		2	○				
	福祉情報論及び同演習	演習		2					
	ウェブリテラシー演習	演習		2	未開講				
	福祉のまちづくり演習	演習		2					

区分	授業科目	授業形態	単位数		配当学年			備考		頁
			必修	選択	3年	4年	福祉士			
その他の専門科目	衣生活論	講義		2					自由選択科目	
	食生活論	講義		2						
	家庭経営学概論	講義		2				含　家庭経済学		
	保育及び家庭看護学	講義		2				含　保育実習		
	教育心理学	講義		2						
	福祉デザイン(衣)論	講義		2	○					
	福祉デザイン(衣)演習	演習		2	○					
	情報のユニバーサルデザイン論	講義		2						
	パソコン演習Ⅰ	演習		2						
	パソコン演習Ⅱ	演習		2	未開講					
	簿記会計学	講義		2						
卒業研究系	特別演習Ⅰ	演習	2		○					
	特別演習Ⅱ	演習		2		○				164
	特別演習Ⅲ	演習	1			○				165
	卒業研究	演習		4		○				166

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
情報リテラシーⅢ	2	荻野　真介(322)・蜂谷　俊隆(677)	社会福祉学科編入4年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
　福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)活用能力の習得を重視し、ICTリテラシーの涵養を図ること。

【授業の目標】
　この授業では、福祉分野の実務を支える様々なICT(情報通信技術)の中の研究論文作成のための技術を中心に学ぶ。

【授業の到達目標】3つの目標がある。
(1)統計的検定を理論的に理解する。実際のデータについてエクセルで検定結果が出せるようになる（荻野担当)。
(2)エクセルにより実践的なアンケート集計・分析ができるようになる(荻野担当)。
(3)ワードにより学術論文をまとめられるようになる(蜂谷担当)。

【授業の内容及び方法】上記目標に対応して3つに分かれる。
(1)エクセルによる統計的検定（荻野担当)：確率論に基づく検定理論を解説し､エクセル検定ツールで実際のデータの検定を実行する
(2)エクセルによる実践的アンケート集計(荻野担当)：実際のアンケートデータを使い、データ入力・ピボットテーブルによる集計・集計結果のグラフ化などを行い、結果を分析する。
(3)ワードによる学術論文のまとめ方(蜂谷担当)：学術論文作成の機能(レイアウトやページ番号の設定・差込印刷など)を学ぶ。

履修上の注意・要望等

　卒業研究を希望する学生は必ず履修すること。卒業研究を希望しない学生も、将来の研究・論文作成に役立つので履修すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
① オリエンテーション (1)エクセルによる統計的検定（荻野担当) ② エクセルの中の検定用ツールの紹介 ③ 検定の基本的な考え方(帰無仮説・対立仮説・確率分布・有意水準・t分布・P値など) ④対応のある2標本によるｔ検定　　～研修会の効果の検定～ ⑤対応のある2標本によるｔ検定　　～実験前後の平均値の差の検定～ ⑥対応のない2標本によるｔ検定　　～2集団のヘモグロビン量の平均値の差の検定～ ⑦福祉介護分野での検定の活用例 ⑧総合演習 (2)エクセルによる実践的アンケート集計(荻野担当) ⑨実際の調査データを使った実践的集計(調査データの入力方法) ⑩実際の調査データを使った実践的集計(ピボットテーブルを使った集計) ⑪実際の調査データを使った実践的集計(グラフ作成と分析) (3)ワードによる学術論文のまとめ方(蜂谷担当) ⑫ワープロでの差し込み印刷機能を使ったアンケート作成 ⑬学術論文をまとめる(ⅰ)レイアウト、ページ番号の設定、スタイルの指定、画像の貼付 ⑭学術論文をまとめる(ⅱ)目次作成、PDF作成、注釈文設定 ⑮学術論文をまとめる(ⅲ)図表番号、参考文献リスト、画像の取り込み	授業中に完成できなかった①～⑮の授業用例題を、完成させること。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業中に習った操作方法は、反復練習しないと身につかないので、必ず復習すること。授業全体で、概ね30時間程度の自主学習が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　）	

評価方法	演習成果・定期試験(実技)の評価に，通常の演習態度を加味して行う。 定期試験：80％・課題：10％・受講態度：10％
教　　材	(1)と(2)の教材：教員作成プリント (3)の教材：教科書　卒業研究論文を作成するにあたっての注意事項（学修・学術情報センター) 参考書　学生のためのOffice 2010＆情報モラル（ノア出版) 完全マスター　Word2010（ノア出版)
キーワード	アンケート集計　社会調査　統計理論　検定　推定　差し込み印刷　目次作成

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
福祉行財政と福祉計画	2	田中　涼	社会福祉学科4年編入	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、新たな時代の社会問題・福祉問題に対応していくために求められる福祉行政・福祉財政・福祉計画とそれぞれの関係性についての理解を深め、社会福祉を包括的に捉える視点を涵養することを目標とする。

【授業の到達目標】
⑴福祉財政・福祉計画の基本的な仕組みについて説明できる。
⑵福祉行政・福祉専門職が果たすべき機能と役割について説明できる。
⑶分野横断的な包括的支援体制の在り方について説明できる。

【授業の内容及び方法】
福祉行政（福祉政策の立案）・福祉財政（福祉政策の財源）・福祉計画（福祉政策の実行）とそれぞれの関係性について学ぶ。講義に加え、担当教員の実務経験を踏まえた法的倫理的に問題のない事例や実際に作成された各種福祉計画を紹介し、事例検討やグループディスカッションを含めて学生との積極的な対話を重視した授業を展開する。

履修上の注意・要望等

事例検討やグループディスカッションに積極的に参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
⑴オリエンテーション／福祉行政の実施体制（福祉制度の体系） ⑵福祉制度の実施体制①（福祉制度の歴史） ⑶福祉制度の実施体制②（国と地方自治体の関係と役割） ⑷福祉の財源（国・地方自治体の財政システム、公費負担方式と社会保険方式） ⑸福祉行政の組織・団体の役割（公的機関・民間団体・社会福祉法人・社会福祉施設等） ⑹福祉行政における専門職の役割（社会福祉士等福祉専門職の社会的意義及びネットワーク） ⑺福祉行政の組織・団体・専門職の機能と役割（事例検討・グループディスカッション） ⑻福祉行財政の動向①（2000年以前） ⑼福祉行財政の動向②（2000年以後） ⑽福祉計画の目的と意義（福祉計画の歴史と住民参加） ⑾福祉計画の方法（ニーズの種類と測定、評価とモニタリング、費用効果分析・費用便益分析） ⑿福祉計画の実際①（地方自治体の総合計画・地域福祉計画・各分野に関連する計画） ⒀福祉計画の実際②（地方自治体の総合計画・地域福祉計画・各分野に関連する計画） ⒁福祉計画の検討①（地域福祉計画・介護保険事業計画を用いたグループディスカッション） ⒂福祉計画の検討②（地域福祉計画を用いたグループディスカッション）	⑴～⒀（*ただし⑺を除く） 教科書の該当部分を熟読してくること ⒁ 出身地の地域福祉計画・介護保険事業計画を入手し、熟読してくること ⑺及び⒂ 指定されたテーマに基づく課題（レポート）を作成すること

授業外の学修（予習・復習等）について

教科書や適宜配布する資料を熟読し、予習・復習を欠かさない姿勢で臨むこと。社会問題や福祉問題に関する新聞やニュースなどに関心を持って情報を得ること。この授業を履修するにあたり、概ね30時間の自主学習が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）		その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	試験（60%）、提出課題（20%）、受講態度（20%）により総合的に評価する。
教　　材	教 科 書：永田祐／岡田忠克　「よくわかる福祉行財政と福祉計画」　ミネルヴァ書房 参考文献：磯部文雄／府川哲夫　「概説　福祉行財政と福祉計画」　ミネルヴァ書房 　　　　　森明人　「市町村福祉行政のアドミニストレーション」　中央法規 ＊適宜、資料を配布する。
キーワード	福祉行政、福祉財政、福祉計画、公費負担、社会保険、縦割り、制度の狭間、地域共生社会、我が事・丸ごと、全世代・全対象型地域包括支援体制

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助の理論と方法Ⅱ	4	堀川涼子（527）	社会福祉学科４年編入	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する基礎的知識と専門的知識、さらにこれらに基づく社会福祉援助について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、社会福祉士の主要な業務である相談援助について、その援助技術と理論モデルを理解することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生がソーシャルワークの知識・価値・技術の習得をめざし、専門職として活用できるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
相談援助における人と環境との交互作用、相談援助の展開過程、相談援助のための様々な技術等を学ぶ。
授業方法は、講義を主とするが、途中、ＤＶＤ等の視聴覚教材を使用したり、グループワークを取り入れたりして授業を行う。

履修上の注意・要望等

ソーシャルワーカー（社会福祉士）になるための必要不可欠な科目のため、履修すること。
「相談援助の理論と方法Ｉ」を履修していないと「相談援助の理論と方法Ⅱ」を履修できないため、注意すること。

授　業　計　画

１．社会福祉援助活動の概念と定義
２．相談援助の対象
３．グループワークの意義
４．グループワークの展開過程
５．事例を基にしたグループワーク基礎①
６．事例を基にしたグループワーク応用②
７．ケアマネジメントの基本
８．ケアマネジメントの展開過程
９．事例を基にしたケアマネジメント基礎①
10. 事例を基にしたケアマネジメント応用②
11. コーディネーションの目的と意義
12. コーディネーションの方法・技術
13. ネットワーキングの意義と目的
14. ソーシャル・サポート・ネットワーク
15. 地域福祉を推進するためのネットワーキングと地域包括ケアシステム
16. ｼﾞｪﾈﾗﾘｽﾄ･ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの展開と実践ﾓﾃﾞﾙ
17. 実践モデルとアプローチ①
　機能的ｱﾌﾟﾛｰﾁと心理社会的ｱﾌﾟﾛｰﾁ
18. 実践モデルとアプローチ②
　問題解決ｱﾌﾟﾛｰﾁと課題中心ｱﾌﾟﾛｰﾁ
19. 実践モデルとアプローチ③
　その他のｱﾌﾟﾛｰﾁ
20. 実践モデルとｱﾌﾟﾛｰﾁをめぐる課題
21. スーパービジョンの意義と目的
22. スーパービジョンの方法と留意点
23. コンサルテーションの意義と目的
24. ケースカンファレンスの意義と目的
25. ケースカンファレンスの運営と展開過程
26. 相談援助における個人情報の保護
27. 相談援助における情報通信技術の活用
28. 事例研究・分析①対象者別
29. 事例研究・分析②課題別
30. 相談援助の実際

課題及び授業時間外の学習内容

授業で出てきた制度･サービスについては、各自ノートを作り、調べてまとめておくこと。

課題に出た事例について、必要な情報を調べ、活用できる社会資源（制度･ｻｰﾋﾞｽ等）を調べ、支援方法を検討すること。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業中の事例に出てきた、これまで習った制度サービスについては、その都度、各自予習・復習行うこと。さらに、課題作成や試験対策に加えて、休日や長期休業期間などを利用して、概ね30時間程度の自主学修が必要。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　ＤＶＤによる映像を取り入れた授業　）	○

評価方法	試験（80％）・レポート（10％）・受講態度（10％）により総合的に評価する。
教　　材	社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版 および　授業中に配布するプリント
キーワード	相談援助　　　ジェネラリスト・ソーシャルワーク　　ソーシャルワーク実践モデル

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助演習Ⅱ	1	○新谷芳子・小坂田稔 堀川涼子・菅原明美	社会福祉編入４年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する社会福祉援助技術について理解し、実践できるよう身につけること。

【授業の目標】
これまで学んできた相談援助について、演習を通して相談援助実践の価値・知識・技術を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
1. クライエントやクライエントの環境を理解するための面接ができるようになる。
2. ソーシャルワークの展開過程およびミクロ、メゾ、マクロのそれぞれの実践レベルを理解し、実践レベルに応じた介入が提示できるようになる。
3. 学生相互の演習を通して、自己を再発見し対人関係上必要なスキルを身につけることができる。

【授業の内容及び方法】
4グループに分かれ、それぞれのテーマを担当する教員により、ロールプレイやグループ・ディスカッション、マッピング技法を通して実践力を養えられるようにする。その際、相談援助事例を用いて総合的かつ包括的な援助について検討し、多様な考え方を共有できるようにする。場合によって2コマ連続になることがある。

履修上の注意・要望等

グループ討議や体験学習を主とするため積極的に参加すること。前期Ⅱ・後期Ⅲは連動しており基本的に両方を受講し、グループによってテーマ（前期Ⅱ・後期Ⅲ）の中で順番が変更するため注意すること。遅刻・欠席のないようにすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1. オリエンテーション 2. 基本的なコミュニケーションと面接の基礎 3. 面接を展開する技法（ロールプレイ） 4. ケースワークの展開過程（インテーク）の演習① （事例によるグループ・ディスカッション） 5. ケースワークの展開過程（インテーク）の演習② （演習①をもとにしたロールプレイ） 6. ケースワークの展開過程（アセスメント）の演習（ロールプレイ） 7. ケースワークの展開過程（プランニング）の演習（グループディスカッション） 8. ケースワークのまとめ　プランニングの発表 9. グループワークの基本構想の設定 10. グループワークの展開過程（準備期：波長合わせ）の演習 11. グループワークの展開過程（開始期：メンバーとの援助関係の形成）の演習 12. グループワークの展開過程（作業期：グループづくりへの始動）の演習 13. グループワークの展開過程（作業期：相互援助システムの形成）の演習 14. グループワークの展開過程（作業期：相互援助システムの活用）の演習 15. グループワークの展開過程（終結・移行期：グループワークの評価）の演習	(4-6)グループワークで討議、その内容を講義中にロールプレイをする。 (7)ワークシート作成

授業外の学修（予習・復習等）について

授業内で出された課題に個人やグループで調べ、取り組むこと。また、講義後は配布された資料を熟読し、休日や長期休業期間などを利用して自主学習すること。その時間は概ね30時間とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	授業への参加態度(50%)、課題レポート等の提出物(50%)による総合評価
教　　材	毎回プリント等を用意する
キーワード	面接技術、ケースワーク、グループワーク

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助演習Ⅲ	1	○新谷芳子・小坂田稔 堀川涼子・菅原明美	社会福祉編入４年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
ソーシャルワークに関する社会福祉援助技術について理解し、実践できるよう身につけること。

【授業の目標】
これまで学んできた相談援助について、演習を通して相談援助実践の価値・知識・技術を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
1. クライエントやクライエントの環境を理解するための面接ができるようになる。
2. ソーシャルワークの展開過程およびミクロ、メゾ、マクロのそれぞれの実践レベルを理解し、実践レベルに応じた介入が提示できるようになる。
3. 学生相互の演習を通して、自己を再発見し対人関係上必要なスキルを身につけることができる。

【授業の内容及び方法】
4グループに分かれ、それぞれのテーマを担当する教員により、ロールプレイやグループ・ディスカッション、マッピング技法を通して実践力を養えられるようにする。その際、相談援助事例を用いて総合的かつ包括的な援助について検討し、多様な考え方を共有できるようにする。場合によって2コマ連続になることがある。

履修上の注意・要望等

グループ討議や体験学習を主とするため積極的に参加すること。前期Ⅱ・後期Ⅲは連動しており基本的に両方を受講し、グループによってテーマ（前期Ⅱ・後期Ⅲ）の中で順番が変更するため注意すること。遅刻・欠席のないようにすること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1.ケアマネジメントの目的と意義・展開過程 2.ケアマネジメントの理解①　インテーク面接（ロールプレイ） 3.ケアマネジメントの理解②　アセスメント面接（ロールプレイ） 4.　ケアプランの作成①　ケアプランについて講義・演習 5.　ケアプランの作成②　事例をもとにグループ演習 6.　ケアカンファレンスの理解　講義と事例をもとに演習 7.　ケアカンファレンスの実際（ロールプレイ） 8.コミュニティワークの目的と意義 9.コミュニティワークの展開過程 10.コミュニティワークの理解・事例を通して①　個別支援の検討 11.コミュニティワークの理解・事例を通して②　社会資源の活用と開発 12.コミュニティワークの理解・事例を通して③　福祉教育の具体的展開 13.事例研究①　障害者の事例を基に考える 14.事例研究②　高齢者の事例を基に考える 15.まとめ	（1-7）これまでの相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱの授業内容を復習して、演習に生かせるように自主学習をして授業に臨む。 (2-3,4-6)事例に基づき、必要な制度･サービスを調べる。さらに次の授業までにグループで支援計画を立てる。 (10-14)グループごとの検討となるため、各自が事例について事前に必要な制度・サービスについて調べて、授業に臨むこと。発表については、時間外にグループでしっかりと準備すること。

授業外の学修（予習・復習等）について

授業内で出された課題に個人やグループで調べ、取り組むこと。また、講義後は配布された資料を熟読し、休日や長期休業期間などを利用して自主学習すること。その時間は概ね30時間とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習		実習、フィールドワーク	
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	授業への参加態度(50%)、課題レポート等の提出物(50%)による総合評価
教　　材	毎回プリント等を用意する
キーワード	面接技術、ケアマネジメント、コミュニティ・ソーシャルワーク、社会資源

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助演習Ⅳ	1	○堀川涼子・有岡道博・小坂田稔・菅原明美・武田英樹・田中涼・新谷芳子・薬師寺明子（527他）	社会福祉学科４年編入	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題の課題解決を目指すために、社会福祉政策について理解できること。

【授業の目標】
本授業は、相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生がソーシャルワーク実践力を身につけ、専門職として活用できることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
実習分野ごとに各担当教員に分かれて開講する、相談援助実習において必要な知識・技術を、実習前に理解し習得できるよう具体的な事例を用いて学んだり、学生が各自、地域課題を調べて発表するなどの演習を行う。

履修上の注意・要望等

相談援助実習・実習指導と連動する。実習を履修しない学生はこの科目は履修できない。
演習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
1．オリエンテーション 2・相談援助実習に必要とされる援助技術①ミクロ・ソーシャルワーク 3．相談援助実習に必要とされる援助技術②メゾ・マクロ・ソーシャルワーク 4．自己覚知①講義 5．自己覚知②演習 6．基本的なコミュニケーションの技術習得①講義 7．基本的なコミュニケーションの技術習得②演習 8．基本的な面接技術の修得①講義 9．基本的な面接技術の修得②演習 10. 社会福祉士の倫理①講義 11. 社会福祉士の倫理②演習 12. 具体的な課題別相談援助事例の総合的・包括的理解①講義 13. 具体的な課題別相談援助事例の総合的・包括的理解②演習 14. 事例を題材とした相談援助の各過程における実技指導 15. 地域福祉の基盤整備と開発にかかる事例を題材とした援助技術の実技指導	1～15.毎回、課題が出されるため、各自、あるいはグループで調べ、発表できるようにまとめること。

授業外の学修（予習・復習等）について

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。
残った課題は復習を行うこと。おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート（50%）・課題への取り組み態度（50%）により総合評価する。
教　　材	実習の事前学習の資料等　　その他、適宜、資料を配布
キーワード	面接技術　　ケースワーク　　グループワーク　　ケアマネジメント　　コミュニティワーク

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助演習Ｖ	1	○堀川涼子・有岡道博・小坂田稔・菅原明美・武田英樹・田中涼・新谷芳子・薬師寺明子（527他）	社会福祉学科４年編入	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
人権尊重の価値と倫理に基づく社会福祉の援助観を理解し、福祉ニーズを有する人の立場に立ち、その想いや暮らしに寄り添いながら援助を組み立て、実践できること。

【授業の目標】
相談援助にかかる知識と技術について、相談援助実習における個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生がソーシャルワーク実践力を身につけ、専門職として活用できることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
実習分野ごとに各担当教員に分かれて開講する。相談援助実習における学生の個別的な体験等を基にして、事例発表やグループワークを行い、実践と理論、制度サービス等を結びつけられるように振り返りを行う。

履修上の注意・要望等

相談援助実習・実習指導と連動する。実習を履修しない学生はこの科目は履修できない。
演習にかかわる科目については、原則として遅刻・欠席は認めない。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１、相談援助実習で体験した実践的知識と技術・倫理の振り返りと習得 ２、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得①（人を理解する） ３、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得②（地域を理解する） ４、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得③（組織・機関を理解する） ５、相談援助実習で体験した実践的知識の振り返りと習得④（制度・サービスを理解する） ６、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得①（自己覚知） ７、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得②（援助過程） ８、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得③（面接技術） ９、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得④（個別支援計画） 10、相談援助実習で体験した実践的技術の振り返りと習得⑤（記録・ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ） 11、相談援助実習で体験した実践的場面での価値と倫理の振り返りと習得①（自己決定支援） 12、相談援助実習で体験した実践的場面での価値と倫理の振り返りと習得②（倫理綱領） 13、個別的体験の意味づけと理解①　各自発表 14、個別的体験の意味づけと理解②　評価 15、まとめ	1～15.毎回、課題が出されるため、各自、あるいはグループで調べ、発表できるようにまとめること。

授業外の学修（予習・復習等）について

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。
残った課題は復習を行うこと。おおむね15時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	レポート（50%）・課題への取り組み態度（50%）により総合評価する。
教　　材	実習の事前・事後学習の資料、実習日誌。　　その他、適宜、資料を配布する。
キーワード	面接技術　ケースワーク　グループワーク　ケアマネジメント　コミュニティワーク　社会保障制度

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助実習指導Ⅱ	2	○堀川涼子・有岡道博・小坂田稔・菅原明美・武田英樹・田中涼・新谷芳子・薬師寺明子（527他）	社会福祉学科４年編入	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉の理念、専門的知識と技術、加えてまちや地域づくりの知見を養う。特に地域福祉の充実のため、生活援助の提案・実践力を身につけること。

【授業の目標】
社会福祉士指定科目としての相談援助実習における、実習事前オリエンテーションおよび実習事後スーパービジョンを受けるための授業であり、社会福祉専門職としての価値・知識・技術を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
学生が相談援助実習を充実したものとし、ソーシャルワーク専門職としての実践力を身につけられるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
実習分野ごとに各担当教員に分かれて開講する。実習の事前学習と事後の振り返りにより①社会福祉施設・機関等における相談援助業務を理解する、②ソーシャルワークの本質（専門的価値・知識・技術の学習等）を学習する、③将来専門職者としての資質を培えるよう専門職者としての倫理観を学ぶ、これらを実践と理論として結びつける。
実習においては、ソーシャルワーク実践の他、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても学習する。
大学において、実習の事前及び事後に、スーパービジョン（個別・グループ）を行い、各自が調べ発表したり、グループワークを行ったりしながら、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けて学習する。

履修上の注意・要望等

相談援助実習と連動して単位認定を行う。遅刻・欠席は認めない。積極的な態度で臨むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
１．　実習に際してのオリエンテーション ２．　実習施設・機関の根拠法理解 ３．　実習施設・機関の制度理解 ４．　実習施設・機関の利用者理解 ５．　実習施設・機関の職員・職場理解 ６．　実習目的と目標設定 ７．　実習直前オリエンテーション ８．　実習事後スーパービジョン①　クライエント理解 ９．　実習事後スーパービジョン②　組織・機関の理解 10.　実習事後スーパービジョン③　制度・サービスの理解 11.　実習事後スーパービジョン④　相談援助技術の理解 12.　実習事後スーパービジョン⑤　相談援助展開過程の理解 13.　実習事後スーパービジョン⑥　自己覚知 14.　実習事後スーパービジョン⑦　現代社会や福祉現場の抱える課題への理解 15.　相談援助実習まとめ　（実習体験発表会・報告書作成等の指導を含む）	実習指導は受身ではなく、自ら主体的に学ぶことが基本なため、実習に必要な知識・技術・価値倫理について適宜学ぶこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

課題発表、グループ討議が中心となるので、各自、各グループで予習（授業準備）を怠らないこと。
残った課題は復習を行うこと。おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　）	

評価方法	課題の作成・発表（30%）、受講態度（40%）、記録・報告（30%）により総合的に評価する。
教　　材	「相談援助実習の手引き」、学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする。 資料等は必要に応じてその都度、配布する。
キーワード	相談援助実習　相談援助技術　スーパービジョン

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
相談援助実習	4	○堀川涼子・有岡道博・小坂田稔・菅原明美・武田英樹・田中涼・新谷芳子・薬師寺明子（527他）	社会福祉学科４年編入	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
　ソーシャルワークに関する社会福祉援助技術について理解し、実践できるよう身につけること。

【授業の目標】
　社会福祉士指定科目としての相談援助実習における、実習事前オリエンテーションおよび実習事後スーパービジョンを受けるための授業であり、社会福祉専門職としての価値・知識・技術を習得することを目標とする。

【授業の到達目標】
　学生がソーシャルワーカーとしての実践力を身につけられるようになることを目標とする。

【授業の内容及び方法】
　実習分野ごとに各担当教員に分かれて開講する。実習においては、ソーシャルワーク実践の他、実習記録の作成・ケース記録の作成、社会資源の活用、社会福祉現場における情報機器の活用、バリアフリー等についても実践しながら学習する。
　実習時間は180時間以上とする。大学においては、実習の事前及び事後に、スーパービジョン（個別・グループ）を行い、ソーシャルワーカーとしてのアイデンティティの確立に向けて学習する。実習体験発表会・実習報告書の作成等一連の課題を提出し、すべての実習・実習指導の修了とする。

履修上の注意・要望等

相談援助実習指導Ⅱと連動して単位認定を行う。遅刻・欠席は認めない。積極的な態度で臨むこと。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
「相談援助実習」（社会福祉士国家試験受験資格指定・全180時間以上）を実習指定施設・機関等において行う。夏季休暇中を利用して、それぞれ担当教員の下、前期に事前学習をした内容及びこれまでの講義･演習を踏まえて、専門職としての自覚と知識･技術を高める。 実習体験発表会・実習報告書の作成等一連の課題を行うことで、福祉実践力を身につける。 １．　実習施設・機関の理解 ２．　利用者やその家族等の理解 ３．　職員・関係者の理解 ４．　制度・サービスの理解 ５．　施設･機関運営の理解 ６．　利用者･家族等、職員や地域住民等との円滑な人間関係の形成 ７．　利用者・家族等との援助関係の形成 ８．　利用者やその家族等への権利擁護及び支援 ９．　多職種連携をはじめとするチームアプローチの実際 10.　社会福祉士としての職業倫理および実習施設・機関における就業規則とへの理解 11.　地域社会の中での実習施設･機関の役割 12.　地域への働きかけ（アウトリーチによる支援） 13.　地域への働きかけ（ネットワークの理解） 14.　地域への働きかけ（社会資源の活用・改善・開発） 15.　実習体験発表会・実習報告書の作成	実習指導は受身ではなく、自ら主体的に学ぶことが基本なため、実習に必要な知識・技術・価値倫理について適宜学ぶこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

実習に向けて各自、必要な自主学修を行い実習準備について怠らない。実習日誌は日々作成すること。概ね30時間程度の自主学修を必要とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	○
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	○
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	課題の作成・発表（30%）、受講態度（40%）、記録・報告（30%）により総合的に評価する。
教　　材	「相談援助実習の手引き」、資料等は必要に応じてその都度、配布する。 学生の課題レポート、実習報告・記録を教材とする。
キーワード	相談援助技術　　相談援助実習　　相談援助実習指導　　相談援助実習指定施設・機関等

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
特別演習Ⅱ	2	○新谷　小坂田　石飛　長谷川 桐生　小山　堀川　武田　有岡 薬師寺　菅原	社会福祉編入４年	前期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
社会福祉士として社会に貢献できるよう、地域社会の暮らしに対する強い関心や問題意識、目的意識、柔軟な思考力そして何よりも豊かな人間性の涵養に努めること。

【授業の目標】
特別演習Ⅰをさらに発展させ、生活者の立場や地域住民の視点から、いきいきとした暮らしの実現に向けてさまざまなテーマで研究を行い、諸課題の解決を目指し、社会福祉、地域社会づくりに貢献できる実践力を身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
関心のあるテーマみつけ、現場体験等を通して現状と課題を理解し、必要とされる取り組みについて提言できるようになる。

【授業の内容及び方法】
学科教員がそれぞれの専門分野をいかして実施する少人数のゼミナールである。各担当教員のテーマや内容はオリエンテーションで説明する。研究室の配属はオリエンテーション後に調査し、学生の希望と教員の受け入れ条件等で決定する。授業方法は、各研究室によって異なるが、文献の輪読、グループワーク、課題発表を中心にゼミナール形式で学習する。

履修上の注意・要望等

特別演習Ⅰ、卒業研究と連動する研究室があるため注意すること。また、特別演習Ⅰを修得していなければ、本科目は履修できません。少人数のゼミナール形式のため、一人ひとりが追及したい課題と積極性を持って参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
各担当教員の授業計画の詳細は別途提示する １．オリエンテーション ２．特別演習Ⅰの振り返り　課題の整理 ３．テーマに沿った情報収集と文献検察 ４．テーマに沿った活動の展開①　研究計画の作成 ５．テーマに沿った活動の展開②　調査対象者の選択 ６．テーマに沿った活動の展開③　現地調査 ７．テーマに沿った活動の展開④　アンケートの作成 ８．テーマに沿った活動の展開⑤　調査 ９．テーマに沿った活動の展開⑥　分析 10．テーマに沿った活動の展開⑦　分析 11．テーマにそった活動の展開⑧　結果 12．テーマに沿った活動の展開⑨　考察 13．研究の限界と今後の課題 14．ゼミ活動発表の準備 15．まとめ	グループ討議が中心となるため、各自、授業までに必要な資料、文献を集め熟読しておくこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

課題発表、グループ討議が中心となるため準備を怠らず、授業後に残った課題は復習として取り組むこと。　概ね30時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　　）	

評価方法	授業への取り組み（50％）、研究レポート等（50％）により総合的に評価する。
教　　材	それぞれの担当教員が指示する。
キーワード	福祉理念、人権擁護、地域福祉、社会貢献、生活課題、QOL

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
特別演習Ⅲ	1	○新谷　小坂田　有岡　石飛　桐生 小山　武田　長谷川　堀川 薬師寺　菅原	社会福祉編入4年	後期

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
個人や家族、地域社会におけるさまざまな生活課題・問題に深い関心と問題意識を持ち、その解決に向けて取り組む強い意欲と豊かな人間性を身につけること。

【授業の目標】
少人数教育と集団教育を行うことにより、社会で求められる幅広い知識と個々の生活課題に関心を持ち、主体的に解決しようとする姿勢を身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
福祉専門職としてのみならず社会人としての態度と知識を身につけ、学生相互の議論を通じて考えを説明できるようになる。

【授業の内容及び方法】
学科教員がそれぞれの専門分野をいかして実施する少人数ゼミナールと、全員を対象に行うオムニバス形式の授業を行う。担当教員別にテーマと内容が示され、学生の希望と担当教員の受け入れ条件などにより、学生の研究室への配属が決定される。

履修上の注意・要望等

卒業必修科目である。教員によって特別演習Ⅰ・特別演習Ⅱと連動している場合があるので注意すること。少人数のグループ学習活動のため、一人ひとりが追及したい課題と積極性をもって参加すること。

授　業　計　画	課題及び授業時間外の学習内容
各担当教員の詳細な計画は各教員で別途示される。 1．オリエンテーション 2．演習のテーマについて 3．演習のテーマを検討 4．（集団授業）　社会人としての必要な知識 5．テーマに沿った情報収集 6．テーマに沿った文献検索 7．テーマに沿った活動の展開①　課題の検討 8．テーマに沿った活動の展開②　計画 9．テーマに沿った活動の展開③　実践 10．テーマに沿った活動の展開④　事後評価 11．グループスーパービジョン 12．（集団授業）　ゼミ活動の発表　1部 13．（集団授業）　ゼミ活動の発表　2部 14．演習のまとめ 15．（集団授業）　卒後セミナー	（5-11）資料や文献は事前に集めるようにし、熟読して授業に望むこと。 また、講義の中で見えてきた課題について、事後学習でまとめておくこと。

授業外の学修（予習・復習等）について

グループ学習活動になるため、授業の前には予習として資料や文献を熟読することと、演習後には振り返りをきちんと行うこと。おおむね30時間程度の自主学修が必要となる。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）	○	ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク	○	ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	学習意欲（30%）、受講態度（30%）、事前・事後のレポート（40%）をもとに評価する。
教　　材	担当教員がそれぞれ指定する。
キーワード	社会福祉、社会情勢の把握、グループワーク

授業科目名	単位数	担当教員（自室番号）	対象学生	学　期
卒業研究	4	○新谷　小坂田　石飛　長谷川 桐生　小山　堀川　武田　有岡 薬師寺　菅原	社会福祉編入４年	通年

授業概要・学習の到達目標

【ディプロマ・ポリシーの要素との関連】
福祉の理念、専門的知識と技術、加えてまちや地域づくりの知見を養う。特に地域福祉の充実のため、生活援助の提案・実践力を身につけること。

【授業の目標】
当事者側の視点にたった生活課題に加え、まちや地域づくりについて、各自関心のあるテーマで研究を行い、地域福祉の充実のために諸課題の解決を目指して、地域社会に貢献できる提案や実践力を身につけることを目標とする。

【授業の到達目標】
関心のあるテーマみつけ、調査等を通して現状と課題を理解し、必要とされる取り組みについて、調査に基づいた自分の考えを提言できるようになる。

【授業の内容及び方法】
それぞれの専門分野の担当教員につき、研究方法を学びながら関心のあるテーマを研究する。研究の経過は中間発表で報告し、様々な人の意見を聴き研究を深めていく。最終的には卒業研究発表会で研究の成果を全体に報告し、論文化する。

履修上の注意・要望等

教員によっては特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱと連動する場合があるため注意すること。担当教員について、研究テーマが教員の分野にあうかどうか、事前に教員とよく相談して決めること。

授　業　計　画

各担当教員の授業計画の詳細は別途提示する

１．オリエンテーション
２．卒業研究のテーマの検討
３．卒業研究のテーマの決定
４．情報収集と文献検察
５　文献調査
６．文献調査のまとめ
７．文献調査から見えてきた課題
８．研究計画について
９．研究計画の検討
10．研究計画書作成
11．研究の説明書・同意書の作成
12．調査項目の検討
13．調査項目の作成
14．中間発表にむけてレジュメ作成
15．中間発表にむけてパワーポイント作成
16．調査にあたっての注意点
17．調査準備
18．調査実施
19．データの収集
20．データの分析
21．データの分析とまとめ
22．研究の結果
23．研究の考察
24．研究の考察を深める
25．研究のまとめ
26．研究の限界と課題
27．卒業研究発表にむけてレジュメ作成
28．卒要研究発表にむけて
　　パワーポイント作成
29．地域にむけて提言書作成
30．卒業研究のまとめとふりかえり

課題及び授業時間外の学習内容

授業外の学修（予習・復習等）について

研究テーマに沿った資料や文献を入手し、熟読した上でまとめておくこと。授業中に出された課題に取り組み、各自、研究が計画通りに進められるようにすること。学修時間はおおむね60時間とする。

アクティブ・ラーニングに関する事項

外部機関と連携した課題解決型学習	○	実習、フィールドワーク	○
討議（ディスカッション、ディベート）		ICTを活用した双方向型授業	
グループワーク		ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）	
発表（プレゼンテーション）	○	その他（　　　　　　　　　　　）	

評価方法	研究への取り組み（30%）、中間発表（20%）、卒業研究発表（20%）、論文（30%）により総合的に評価する。
教　　材	それぞれの担当教員が指示する。
キーワード	人権擁護、地域福祉、社会貢献、生活課題、地域課題、まちづくり、地域づくり

実務経験がある教員の一覧

所属学科【　社会福祉学科　】

NO	教員氏名	担当科目	単位数	学年	開講期	公開が可能な実務経験情報 (この情報は学生に公開)
1	小坂田稔	生活福祉論	2	1	前期	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
2	小坂田稔	NPO・ボランティア論 地域福祉の理論と方法Ⅰ・Ⅱ	2	2	後期	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
3	小坂田稔	地域福祉の理論と方法Ⅰ	2	3	前期	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
4	小坂田稔	地域福祉の理論と方法Ⅰ・Ⅱ	2	3	後期	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
5	小坂田稔	相談援助演習Ⅰ	1	2	後期	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
6	小坂田稔	相談援助演習Ⅱ	1	3	前期	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
7	小坂田稔	相談援助演習Ⅲ	1	3	後期	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
8	小坂田稔	相談援助演習Ⅳ	1	4	前期	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
9	小坂田稔	相談援助演習Ⅴ	1	4	後期	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
10	小坂田稔	社会福祉体験実習	1	3	通年	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
11	小坂田稔	社会福祉体験実習指導	1	3	通年	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
12	小坂田稔	相談援助実習	1	4	通年	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
13	小坂田稔	相談援助実習指導	1	4	通年	社会福祉協議会に福祉活動専門員として勤務
14	石飛猛	社会の変化と社会福祉Ⅰ	2	1	前期	福祉事務所に社会福祉主事として勤務
15	石飛猛	社会の変化と社会福祉Ⅱ	2	1	後期	福祉事務所に社会福祉主事として勤務
16	石飛猛	社会福祉事業史	2	3	前期	福祉事務所に社会福祉主事として勤務
17	石飛猛	社会理論と社会システム	2	2	前期	福祉事務所に社会福祉主事として勤務
18	石飛猛	福祉行財政と福祉計画	2	4	後期	福祉事務所に社会福祉主事として勤務
19	有岡道博	児童や家庭に対する支援と児童･家庭福祉制度 Ⅰ	2	1	前期	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
20	有岡道博	児童や家庭に対する支援と児童･家庭福祉制度Ⅱ	2	1	後期	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
21	有岡道博	福祉サービスの組織と経営	2	2	後期	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
22	有岡道博	相談援助演習Ⅰ	1	2	後期	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
23	有岡道博	相談援助演習Ⅳ	1	4	前期	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
24	有岡道博	相談援助演習Ⅴ	1	4	後期	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
25	有岡道博	社会福祉体験実習	1	3	通年	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
26	有岡道博	社会福祉体験実習指導	1	3	通年	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
27	有岡道博	相談援助実習	1	4	通年	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
28	有岡道博	相談援助実習指導	1	4	通年	知的障害児・者施設に生活指導員・施設長として勤務
29	武田英樹	人体構造及び日常生活行動に関する理解	2	2	後期	病院に介護福祉士・看護師として勤務
30	武田英樹	介護実習	3	1	後期	病院に介護福祉士・看護師として勤務
31	武田英樹	相談援助演習Ⅰ	1	2	後期	病院に介護福祉士・看護師として勤務
32	武田英樹	相談援助演習Ⅳ	1	4	前期	病院に介護福祉士・看護師として勤務

33	武田英樹	相談援助演習Ⅴ	1	4	後期	病院に介護福祉士･看護師として勤務
34	武田英樹	社会福祉体験実習	1	3	通年	病院に介護福祉士･看護師として勤務
35	武田英樹	社会福祉体験実習指導	1	3	通年	病院に介護福祉士･看護師として勤務
36	武田英樹	相談援助実習	1	4	通年	病院に介護福祉士･看護師として勤務
37	武田英樹	相談援助実習指導	1	4	通年	病院に介護福祉士･看護師として勤務
38	新谷芳子	相談援助の理論と方法Ⅰ	4	2	通年	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
39	新谷芳子	保健医療サービス	2	3	前期	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
40	新谷芳子	医療ソーシャルワーク論	2	3	後期	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
41	新谷芳子	相談援助演習Ⅰ	1	2	後期	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
42	新谷芳子	相談援助演習Ⅱ	1	3	前期	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
43	新谷芳子	相談援助演習Ⅲ	1	3	後期	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
44	新谷芳子	相談援助演習Ⅳ	1	4	前期	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
45	新谷芳子	相談援助演習Ⅴ	1	4	後期	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
46	新谷芳子	社会福祉体験実習	1	3	通年	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
47	新谷芳子	社会福祉体験実習指導	1	3	通年	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
48	新谷芳子	相談援助実習	1	4	通年	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
49	新谷芳子	相談援助実習指導	1	4	通年	病院に医療ソーシャルワーカーとして勤務
50	堀川涼子	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	2	1	前期	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
51	堀川涼子	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	2	1	後期	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
52	堀川涼子	加齢の理解	2	2	後期	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
53	堀川涼子	相談援助の理論と方法Ⅱ	4	3	通年	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
54	堀川涼子	相談援助演習Ⅰ	1	2	後期	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
55	堀川涼子	相談援助演習Ⅱ	1	3	前期	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
56	堀川涼子	相談援助演習Ⅲ	1	3	後期	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
57	堀川涼子	相談援助演習Ⅳ	1	4	前期	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
58	堀川涼子	相談援助演習Ⅴ	1	4	後期	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
59	堀川涼子	社会福祉体験実習	1	3	通年	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
60	堀川涼子	社会福祉体験実習指導	1	3	通年	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
61	堀川涼子	相談援助実習	1	4	通年	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
62	堀川涼子	相談援助実習指導	1	4	通年	精神科病院に精神保健福祉士として･在宅介護支援センターに社会福祉士として･居宅介護支援事業所に介護支援専門員として勤務
63	薬師寺明子	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	2	1	前期	知的障害者施設に生活支援員として勤務
64	薬師寺明子	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	2	1	後期	知的障害者施設に生活支援員として勤務
65	薬師寺明子	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ	2	2	前期	知的障害者施設に生活支援員として勤務

66	薬師寺明子	障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅱ	2	2	後期	知的障害者施設に生活支援員として勤務
67	薬師寺明子	障害の基礎	2	2	前期	知的障害者施設に生活支援員として勤務
68	薬師寺明子	就労支援サービス	2	2	前期	知的障害者施設に生活支援員として勤務
69	薬師寺明子	相談援助演習Ⅰ	1	2	後期	知的障害者施設に生活支援員として勤務
70	薬師寺明子	相談援助演習Ⅳ	1	4	前期	知的障害者施設に生活支援員として勤務
71	薬師寺明子	相談援助演習Ⅴ	1	4	後期	知的障害者施設に生活支援員として勤務
72	薬師寺明子	社会福祉体験実習	1	3	通年	知的障害者施設に生活支援員として勤務
73	薬師寺明子	社会福祉体験実習指導	1	3	通年	知的障害者施設に生活支援員として勤務
74	薬師寺明子	相談援助実習	1	4	通年	知的障害者施設に生活支援員として勤務
75	薬師寺明子	相談援助実習指導	1	4	通年	知的障害者施設に生活支援員として勤務
76	菅原明美	社会保障Ⅰ	2	2	前期	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
77	菅原明美	社会保障Ⅱ	2	2	後期	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
78	菅原明美	権利擁護と成年後見制度	2	3	前期	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
79	菅原明美	精神保健	2	3	後期	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
80	菅原明美	相談援助演習Ⅰ	1	2	後期	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
81	菅原明美	相談援助演習Ⅱ	1	3	前期	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
82	菅原明美	相談援助演習Ⅲ	1	3	後期	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
83	菅原明美	相談援助演習Ⅳ	1	4	前期	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
84	菅原明美	相談援助演習Ⅴ	1	4	後期	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
85	菅原明美	社会福祉体験実習	1	3	通年	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
86	菅原明美	社会福祉体験実習指導	1	3	通年	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
87	菅原明美	相談援助実習	1	4	通年	精神科病院に精神保健福祉士として勤務
88	菅原明美	相談援助実習指導	1	4	通年	精神科病院に精神保健福祉士として勤務